



SAS[®] Visual Analytics: レポートコンテンツの操作

2026.04 - 2026.07

このドキュメントは、ソフトウェアの追加バージョンに適用される場合があります。このドキュメントを [SAS Help Center](#) で開き、バナーのバージョンをクリックすると、使用できるすべてのバージョンが表示されます。

オブジェクトについて	7
オブジェクトペインの使用	8
オブジェクトペインについて	8
オブジェクトペインでのグループの操作	9
オブジェクトペインでオブジェクトを表示または非表示にする	9
オブジェクトペインでのオブジェクトの並べ替え	11
カスタムグラフオブジェクトのインポート	11
基本オブジェクトのタスク	12
レポートにオブジェクトを挿入	12
オブジェクトのツールバーの使用	13
オブジェクトの複製	14
同じページの新しい場所にオブジェクトを移動	15
オブジェクトを別のページに移動	15
オブジェクトの種類の変更	16
オブジェクトの名前のカスタマイズ	16
オブジェクトのタイトルのカスタマイズ	17
グラフオブジェクトでのデータ値の選択	18
オブジェクトオーバーレイの非表示	19
提案ペインの使用	19
レポートレビューペインの使用	22
レポートレビューペインについて	22
レビューに基づくレポートの変更	24

ロード時間のレビューの実行	24
オプションペインの使用	24
オプションペインについて	24
レポートのオプション指定	25
ページのオプション指定	28
オブジェクトのオプション指定	29
スタイルオプションを使用したグラフの色の変更	38
除外対象を“他のすべて”にまとめるオプションの使用	40
レポートインサイトの使用	41
インサイトについて	41
レポート閲覧者のインサイトの使用	41
外れ値インサイト	41
オブジェクトテンプレートの使用	42
オブジェクトテンプレートについて	42
オブジェクトテンプレートの作成	43
オブジェクトテンプレートのパブリッシュ	45
オブジェクトテンプレートの非表示	45
オブジェクトテンプレートの名前変更	46
オブジェクトテンプレートの削除	46
オブジェクトの最大化	46
最大化されたオブジェクトについて	46
最大化モードに入る	47
最大化モードを終了する	47
オブジェクトの要約を生成	47
SAS Graphics Accelerator でのオブジェクトの表示	48
SAS Graphics Accelerator とは	48
インストール	48
サポートされるオブジェクトの種類	48
SAS Graphics Accelerator を使用したオブジェクトの表示	49
オブジェクト内のデータの特性の説明	49
Web コンテンツの操作	50
Web コンテンツについて	50
Web コンテンツオブジェクトの作成	50
イメージオブジェクトの操作	50
イメージについて	50
イメージのレポートへの挿入	51
イメージオプションの指定	51
ウォーターフォールチャートの操作	52
ウォーターフォールチャートについて	52
ウォーターフォールチャートのデータ役割	53
ウォーターフォールチャートのオプション	53
円グラフの操作	55
円グラフについて	55
円グラフのデータ役割	55
円グラフのオプション	56
折れ線グラフの操作	58
折れ線グラフについて	58
折れ線グラフのデータ役割	59

折れ線グラフのオプション	60
データ値の並べ替え	61
キー値の操作	61
キー値について	61
キー値のデータ役割	61
キー値のオプション	62
クロス表の操作	64
クロス表について	64
クロス表のデータ役割	64
クロス表のオプション	65
クロス表の行と列の管理	67
クロス表で階層を作成および追加する	69
クロス表の計算の作成と追加	69
クロス表にセルのビジュアルを追加	70
ゲージの操作	71
ゲージについて	71
ゲージのデータ役割	71
ゲージのオプション	72
コンテナの操作	74
コンテナオブジェクトについて	74
コンテナオプションの指定	75
コントロールの操作	76
コントロールについて	76
コントロールのデータ役割	77
コントロールのオプション	78
プロンプトエリアの表示または非表示	83
コントロールを使用してレポートプロンプトを作成する	83
コントロールを使用してページプロンプトを作成する	85
自動コントロールの作成	86
散布図の操作	86
散布図について	86
散布図のデータ役割	87
散布図のオプション	87
データ分析の適用	88
時系列プロットの操作	89
時系列プロットについて	89
時系列プロットのデータ役割	90
時系列プロットのオプション	90
自動説明オブジェクトの操作	92
自動説明オブジェクトについて	92
自動説明オブジェクトのデータ役割	93
自動説明オブジェクトのオプション	93
自動説明オブジェクトの生成	94
自動説明オブジェクトの管理	95
詳細テーブル	96
自動予測オブジェクトの操作	97
自動予測オブジェクトについて	97
自動予測オブジェクトのデータ役割	97
自動予測オブジェクトのオプション	98
自動予測オブジェクトの生成	98

詳細テーブル	99
ジョブコンテンツの操作	99
ジョブコンテンツについて	99
ジョブコンテンツのオプション	100
ジョブパラメーター値の管理	100
ジョブログの表示	100
数値系列プロットの操作	101
数値系列プロットについて	101
数値系列プロットのデータ役割	101
数値系列プロットのオプション	102
スケジュールチャートの操作	103
スケジュールチャートについて	103
スケジュールチャートのデータ役割	103
スケジュールチャートのオプション	104
ステッププロットの操作	104
ステッププロットについて	104
ステッププロットのデータ役割	105
ステッププロットのオプション	105
相関行列の操作	106
相関行列について	106
相関行列のデータ役割	107
相関行列のオプション	107
セルのデータの探索	107
ターゲット棒グラフの操作	108
ターゲット棒グラフについて	108
ターゲット棒グラフのデータ役割	108
ターゲット棒グラフのオプション	109
地理マップの操作(地理情報オブジェクト)	110
地理マップについて	110
地理マップのデータ役割	115
地理マップのオプション	117
地理マップのズーム	121
地理マップの層の表示と非表示	121
地理マップ上のポイントの特定	121
ポインターツールを使用したマップのパン、形に基づく選択の作成、およびズーム	122
地理マップの検索	122
地理マップでのロケーションピンの操作	123
地理マップでの地理的領域の操作	123
地理マップ上のルートの操作	126
ツリーマップの操作	127
ツリーマップについて	127
ツリーマップのデータ役割	128
ツリーマップのオプション	128
データドリブンのコンテンツの操作	130
データドリブンのコンテンツについて	130
データドリブンのコンテンツのデータ役割	130
データドリブンのコンテンツのオプション	131
ディシジョンツリーの操作	131
ディシジョンツリーについて	131

ディシジョンツリーのデータ役割	133
ディシジョンツリーのオプション	133
ディシジョンツリーからリーフ ID データアイテムを派生させる	135
概要の表示	136
ディシジョンツリーのズーム	136
テキストオブジェクトの操作	136
テキストオブジェクトについて	136
テキストオブジェクトオプションの指定	137
テキストオブジェクトスタイルの指定	137
テキストオブジェクトに動的テキストを表示する	137
テキストトピックの操作	138
テキストトピックについて	138
テキストトピックオブジェクトのデータ役割	139
テキストトピックオブジェクトのオプション	139
テキストトピックの結果の探索	141
派生トピック	142
モデルスコアコードのエクスポート	142
データの重複しない行識別子の設定	143
ドットプロットの操作	143
ドットプロットについて	143
ドットプロットのデータ役割	143
ドットプロットのオプション	144
ニードルプロットの操作	144
ニードルプロットについて	144
ニードルプロットのデータ役割	145
ニードルプロットのオプション	145
二軸の折れ線グラフの操作	146
二軸の折れ線グラフについて	146
二軸の折れ線グラフのデータ役割	146
二軸の折れ線グラフのオプション	147
二軸の時系列プロットの操作	148
二軸の時系列プロットについて	148
二軸の時系列プロットのデータ役割	148
二軸の時系列プロットのオプション	149
二軸の棒折れ線グラフの操作	150
二軸の棒折れ線グラフについて	150
二軸の棒折れ線グラフのデータ役割	150
二軸の棒折れ線グラフのオプション	151
二軸の棒グラフの操作	152
二軸の棒グラフについて	152
二軸の棒グラフのデータ役割	152
二軸の棒グラフのオプション	153
ネットワーク分析オブジェクトの操作	154
ネットワーク分析オブジェクトについて	154
ネットワーク分析オブジェクトのデータ役割	154
ネットワーク分析オブジェクトのオプション	156
ネットワーク分析オブジェクトのノードの配置	158
ネットワーク分析オブジェクトのノードの選択	158
概要の表示	159
ネットワーク分析オブジェクトのビューの制御	159

ネットワークメトリック	160
地理マップの検索	160
地理マップでのロケーションピンの操作	161
地理マップでの地理的領域の操作	162
地理的領域の人口統計の表示	164
地理マップ上のルートの操作	165
地理マップ上のポイントの特定	166
箱ひげ図の操作	167
箱ひげ図について	167
箱ひげ図のデータ役割	167
箱ひげ図のオプション	168
箱のデータの探索	169
パス分析オブジェクトの操作	169
パス分析オブジェクトについて	169
パス分析オブジェクトのデータ役割	171
パス分析オブジェクトのオプションの指定	171
パス分析オブジェクトのパスフィルターの管理	173
概要の表示	175
パス分析オブジェクトのズーム	175
ポインターツールを使用したダイアグラムのパンと形に基づく選択の作成	176
新しいオブジェクトとしてパスデータを探索する	176
バタフライチャートの操作	177
バタフライチャートについて	177
バタフライチャートのデータ役割	177
バタフライチャートのオプション	178
バブルチェンジプロットの操作	179
バブルチェンジプロットについて	179
バブルチェンジプロットのデータ役割	179
バブルチェンジプロットのオプション	179
バブルプロットの操作	180
バブルプロットについて	180
バブルプロットのデータ役割	180
バブルプロットのオプション	182
ヒートマップの操作	182
ヒートマップについて	182
ヒートマップのデータ役割	183
ヒートマップのオプション	183
比較時系列プロットの操作	184
比較時系列プロットについて	184
比較時系列プロットのデータ役割	184
比較時系列プロットのオプション	185
ヒストグラムの操作	186
ヒストグラムについて	186
ヒストグラムのデータ役割	187
ヒストグラムのオプション	187
平行座標プロットの操作	188
平行座標プロットについて	188
平行座標プロットのデータ役割	188
平行座標プロットのオプション	188
平行座標プロットの詳細テーブル	188

ベクトルプロットの操作	189
ベクトルプロットについて	189
ベクトルプロットのデータ役割	189
ベクトルプロットのオプション	190
棒グラフの操作	190
棒グラフについて	190
棒グラフのデータ役割	191
棒グラフのオプション	192
予測オブジェクトの操作	193
予測オブジェクトについて	193
予測オブジェクトのデータ役割	194
予測オブジェクトのオプション	195
What-If 分析の操作	196
リスト表の操作	198
リスト表について	198
リスト表のデータ役割	199
リスト表のオプション	199
リスト表の列の管理	201
リスト表にスパークラインを追加	203
リスト表にセルのビジュアルを追加	205
ワードクラウドの操作	206
ワードクラウドについて	206
ワードクラウドのデータ役割	206
ワードクラウドのオプション	207

オブジェクトについて

SAS Visual Analytics はすべてのレポートのオブジェクトを提供します。データソースとデータアイテムを選択した後、1 つまたは複数のオブジェクトを追加して結果を表示できます。または、オブジェクトを追加した後にデータを選択することもできます。使用可能なオブジェクト(テーブル、グラフ、地理マップ、コントロール、コンテナ、その他のオブジェクト)が**オブジェクトペイン**に表示されます。詳細については、[“オブジェクトペインの使用”](#)を参照してください。

各オブジェクトの定義と図に関しては、[“オブジェクトの紹介” \(SAS Visual Analytics: リファレンス\)](#)を参照してください。

サイトにある SAS ライセンスに応じて、**オブジェクトペイン**に SAS Visual Statistics と SAS Viya のコンテンツが表示されることがあります。SAS Visual Statistics とコンテンツの詳細情報については、[SAS Visual Analytics: 統計量オブジェクトの操作](#)を参照してください。SAS Viya とコンテンツの詳細情報については、[SAS Visual Analytics: 機械学習オブジェクトの操作](#)を参照してください。

SAS Graph Builder (グラフビルダー)で作成したカスタムグラフを SAS Visual Analytics にインポートできます。詳細については、[“カスタムグラフオブジェクトのインポート” \(11 ページ\)](#)を参照してください。

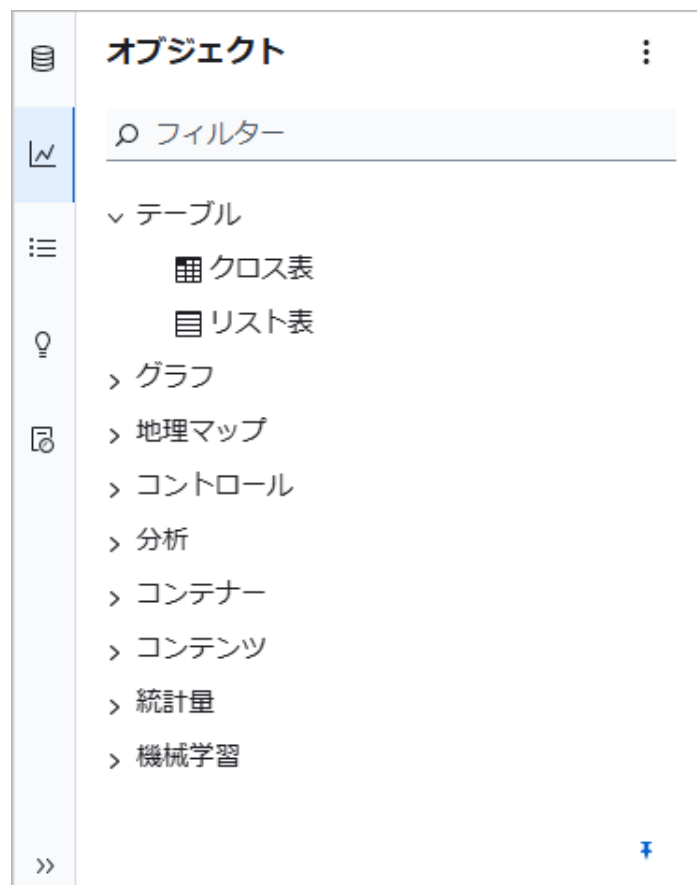
オブジェクトペインの使用

オブジェクトペインについて

オブジェクトペインには、レポートで利用できる表、グラフ、コントロール、コンテナー、およびその他のオブジェクトがリスト表示されます。オブジェクトペインからキャンバスにオブジェクトをドラッグできます。

オブジェクトは、オブジェクトペインで、表、グラフ、地理マップ、コントロール、分析、コンテナー、コンテンツ(イメージ、テキスト、および Web コンテンツを含む)の種類にグループ化されます。オブジェクトペインの下部にあるモデリングオブジェクトは、SAS Visual Statistics か、または SAS Visual Statistics と SAS Viya の両方がサイトにライセンスされている場合に使用できます。詳細については、“[オブジェクトペインでのグループの操作](#)”を参照してください。

オブジェクトペインの例を次に示します。



ヒント オブジェクトをすばやく見つけるには、**オブジェクトペイン**の上部にある**フィルター**フィールドを使用します。たとえば、このフィールドを使用すると、作成したオブジェクトテンプレートを簡単に見つけることができます。

オブジェクトペインでのグループの操作

デフォルトでは、オブジェクトは**オブジェクトペイン**で種類別にグループ化され、すべてのオブジェクトが表示されます。オブジェクトグループを操作する方法は複数あります。

- オブジェクトグループを折りたたむには、**:**をクリックし、**すべて折りたたむ**を選択します。すべてのオブジェクトを表示する場合は、**:**をクリックし、**すべて展開**を選択します。
- オブジェクトグループを削除するには、**:**をクリックし、**オブジェクトグループの表示**の選択を解除します。オブジェクトのリストはアルファベット順に並べ替えられます。
- オブジェクトグループを並べ替えるには、**:**をクリックし、**オブジェクトグループの並べ替え**を選択します。**オブジェクトグループの並べ替え**ウィンドウが表示されます。グループを並べ替えるには矢印を使用します。たとえば、サイトが SAS Visual Statistics のライセンスを取得していて、モデリングオブジェクトを頻繁に操作する場合は、**統計量グループ**をリストの先頭に移動できます。

オブジェクトペインでオブジェクトを表示または非表示にする

オブジェクトペインで表示するオブジェクトをカスタマイズすることができます。オブジェクトを非表示にすると、再び表示を選択するまで非表示になります。

ヒント **オブジェクトタブ**でオブジェクトをすばやく非表示にするには、オブジェクトを右クリックして**非表示**を選択します。

オブジェクトを表示または非表示にするには、次の操作を行います。

- 1 **オブジェクトペイン**で、**:**をクリックし、**オブジェクトの表示または非表示**を選択します。**オブジェクトの表示または非表示**ウィンドウが表示されます。



オブジェクトの表示または非表示ウィンドウの**使用可能なアイテム**リストには、**オブジェクトペイン**で現在非表示になっているオブジェクトが含まれています。**選択したアイテム**リストには、**オブジェクトペイン**に現在表示されているオブジェクトが含まれています。

2 次の操作のいずれかを実行します。

- **オブジェクトペイン**でオブジェクトを非表示にするには、**選択したアイテム**リストでオブジェクトを選択し、←をクリックして**使用可能なアイテム**リストに移動します。
- オブジェクトを**オブジェクトペイン**に表示するには、**使用可能なアイテム**リストでオブジェクトを選択し、→をクリックして**選択したアイテム**リストに移動します。

ヒント 複数のオブジェクトを選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押します。

3 **OK** をクリックします。**オブジェクトペイン**のオブジェクトのリストが更新されます。

オブジェクトペインでのオブジェクトの並べ替え

オブジェクトペインの上部にある **⋮** をクリックし、**オブジェクトの並べ替え** を選択します。次に、**名前** または **最近使用したアイテム** を選択します。

最近使用したアイテム で並べ替えると、最後に使用したオブジェクトがリストの先頭に配置されます。オブジェクトグループが表示されている場合は、最後に使用したオブジェクトがそのオブジェクトグループの先頭に並べ替えられます。たとえば、最後にニードルプロットをレポートに追加した場合、ニードルプロットは**グラフ** オブジェクトグループの先頭に表示されます。

カスタムグラフオブジェクトのインポート

SAS Graph Builder(グラフビルダー)を使用すると、カスタムグラフオブジェクトを作成できます。カスタムグラフの作成の詳細情報については、[SAS Graph Builder: ユーザーガイド](#)を参照してください。

カスタムグラフをインポートするには、次の操作を行います。

- 1 **オブジェクトペイン**で、**⋮** をクリックし、**カスタムグラフのインポート** を選択します。**開く** ウィンドウが表示されます。
- 2 カスタムグラフを含むフォルダーを選択し、次にカスタムグラフを選択します。

注: SAS Visual Analytics では、次回カスタムグラフをインポートするときのためにフォルダーの場所が記憶されます。

- 3 **開く** をクリックします。インポートされたグラフオブジェクトは、**オブジェクトペイン**の**グラフ** オブジェクトグループに追加されます。
- 4 カスタムグラフをキャンバスにドラッグし、データを追加します。
- 5 (オプション)**オプションペイン**で、カスタムグラフの**スタイル**、**グラフフレーム**、および**凡例** オプションを変更します。

注: フォルダーの場所は、グラフビルダーからカスタムグラフをインポートするときに記憶されます。

基本オブジェクトのタスク

レポートにオブジェクトを挿入

オブジェクトをレポートに挿入するには、次のいずれかの方法を選択します。

- **オブジェクトペイン**からオブジェクトをキャンバスにドラッグします。詳細については、“[キャンバスについて](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートのデザイン*)を参照してください。
- **オブジェクトペイン**でオブジェクトをダブルクリックします。オブジェクトは自動的にキャンバスに配置されます。オブジェクトを別の場所に表示する場合は、新しい場所にドラッグします。

ヒント オブジェクトの表示または非表示ウィンドウを使用して、**オブジェクトペイン**に表示するレポートオブジェクトを指定します。詳細については、“[オブジェクトペインでオブジェクトを表示または非表示にする](#)” (9 ページ)を参照してください。

- **オブジェクトペイン**でオブジェクトを右クリックし、**現在のページに追加**または**新しいページに追加**を選択します。
- **データペイン**から任意のデータアイテムをキャンバスにドラッグします。選択したデータアイテムまたはデータアイテムの種類に応じて、SAS Visual Analytics ではさまざまな種類のグラフを自動的に表示できます。

表 1 自動グラフの種類

データアイテム	グラフの種類
1 つのメジャー	ヒストグラム
1 つのカテゴリといずれかの数値のメジャー	棒グラフ
1 つの日時カテゴリといずれかの数値のメジャー	時系列プロット
1 つの日付または日時カテゴリと 1 つ以上のカテゴリ	リスト表
1 つの地理情報と最大 2 つのメジャー	地理マップ
1 つの地理情報と 3 つ以上のメジャー	棒グラフ

データアイテム	グラフの種類
1つの階層といずれかの数値のメジャー	棒グラフ
1つの階層、1つ以上のカテゴリおよびいずれかの数値のその他のデータアイテム	クロス表
2つ以上の階層およびいずれかの数値のその他のデータアイテム	クロス表
2つ以上のカテゴリといずれかの数値のメジャー	リスト表
2つまたは3つのメジャー	散布図 または ヒートマップ
4つ以上のメジャー	散布図 または 相関行列

別の種類が必要な場合は、このオブジェクトを変更することができます。詳細については、“[オブジェクトの種類の変更](#)” (16 ページ)を参照してください。

- **提案ペイン**からオブジェクトをキャンバスにドラッグします。**提案ペイン**のオブジェクトには、すでにデータが割り当てられています。詳細については、“[提案ペインの使用](#)” (19 ページ)を参照してください。

一部のオブジェクトでは、追加の手順が必要です。

- コンテナーを挿入すると、その他のオブジェクトをコンテナーにドラッグできます。
- イメージを挿入するには追加の手順が必要です。詳細については、“[イメージのレポートへの挿入](#)” (51 ページ)を参照してください。

オブジェクトのツールバーの使用

SAS Visual Analytics の各オブジェクトは右上にツールバーがあります。このツールバーを使用すると、オブジェクトの種類の変更、イメージの保存、データのエクスポートなど、多くのタスクを実行できます。オブジェクトを最大化することもできます。詳細については、“[オブジェクトの最大化](#)” (46 ページ)を参照してください。

キャンバス上でオブジェクトを選択すると、ツールバーがデフォルトで表示されます。キャンバス上で選択されていないオブジェクトのツールバーは、ポインターを合わせると表示できます。⋮をクリックして、メニューアイテムを表示します。

棒グラフで使用できるオプションの例を次に示します。

	⋮
選択の新しいフィルター	>
選択からグループを新規作成	
役割の割り当てをすべて削除	
オブジェクトタイトルの非表示	
削除	
複製	
移動	>
リンクの追加	>
エクスポート	>
リンクのコピー...	
埋め込み可能マークアップのコピー...	
オブジェクトペインに保存	

ヒント オブジェクトツールバーが表示されていない場合は、レポートツールバーの⋮をクリックし、**インターフェイスオプション** ⇨ **オブジェクトオーバーレイの有効化**を選択します。

オブジェクトの複製

SAS Visual Analytics でオブジェクトを複製すると、レポートの同じページまたは別のページにオブジェクトのコピーを使用できます。または、複製するオブジェクトに異なるオブジェクトの種類を選択することもできます。たとえば、円グラフを棒グラフとして複製することができます。

オブジェクトの複製について重要なポイントを次に示します。

- パラメーターを使用してコントロールを複製する場合、パラメーターは 1 つのコントロールのみからその値を取得するため、パラメーターは元のコントロールからコピーされません。
- **次で複製機能**を使用して、オブジェクトを同じ種類のオブジェクトとして複製することはできません。たとえば、棒グラフを **Bar 1** として複製することはできません。ただし、**Line 1** として複製することはできます。

オブジェクトを複製するには、次の操作を行います。

- 1 キャンバスで、オブジェクトのツールバーの⋮をクリックし、**複製**を選択します。

複製されたオブジェクトは、元の名前に基づく名前と同じページ上に配置されます。たとえば、元のオブジェクト名が **List Table 1** の場合、オブジェクトの複製は **List Table 2** として表示されます。同じオブジェクトを再度複製すると、**List Table 3** と表示されます。

ヒント Alt キーを押してメニュー選択を変更し、**新しいページで複製**を選択してオブジェクトを新しいページに配置します。

- 2 (オプション)オブジェクトの複製を別のページに移動します。**アウトラインペイン**で、複製したオブジェクトを別のページにドラッグします。または、オブジェクトのツールバーの $\vdots$ をクリックして**移動**を選択し、**新しいページ**または既存のページを選択することもできます。

ヒント オブジェクトを精度レイアウトのページに移動する場合は、オブジェクトを手動で適切な場所に移動する必要があります。すべてのオブジェクトはデフォルトで上部左側に配置されます。

オブジェクトを複製し、その種類を同時に変更するには、次の操作を行います。

- 1 キャンバスで、オブジェクトのツールバーの $\vdots$ をクリックし、**次で複製**を選択して新しいオブジェクトの種類を選択します。

ヒント Alt キーを押してメニュー選択を変更し、**新しいページに次で複製**を選択してオブジェクトを新しいページに配置します。

- 2 (オプション)新規オブジェクトのオプションを更新します。

同じページの新しい場所にオブジェクトを移動

オブジェクトをページ上の別の場所に表示する場合は、新しい場所にドラッグします。

ヒント ページに複数のオブジェクトがある場合は、オブジェクトのツールバーの $\vdots$ をクリックして**移動**を選択します。次に、**新しいページ**、**ページ page-name の開始**、または**ページ page-name の終了**を選択します。オブジェクトがすでにページの開始や終了にある場合、これらのオプションは一部使用できません。

オブジェクトを別のページに移動

レポート内のあるページから別のページにオブジェクトを移動するには、次のいずれかの操作を行います。

- **アウトラインペイン**で、移動するオブジェクトを選択し、そのオブジェクトをクリックしてアウトライン内の別のページにドラッグします。

- オブジェクトのツールバーで **⋮** をクリックし、**移動**を選択します。次に、既存のページまたは**新しいページ**を選択します。レポートのページが 1 ページのみの場合は、**新しいページ**のみが使用できます。

オブジェクトの種類の変更

キャンバスにオブジェクトを配置した後、オブジェクトの種類を変更することができます。たとえば、円グラフを棒グラフに変更すると、その棒グラフがレポート内でどのように表示されるかがわかります。

キャンバスで、オブジェクトのツールバーの **⋮** をクリックし、**<オブジェクト名>を変更** をクリックして、新しいオブジェクトの種類を選択します。

SAS Visual Analytics は元のオブジェクトの表示ルール、フィルターおよびランクを保持しようとします。また、新しいオブジェクトの種類に適切なデータ役割を割り当てようとします。ただし、元のオブジェクトの表示ルール、フィルターまたはランクを保持できない場合は、メッセージが表示されます。SAS Visual Analytics はオプションを保持しようとせず、オプションが破棄されたときにはメッセージを表示しません。

オブジェクトの種類を変更する際の重要なポイントは次のとおりです。

- **↶** をクリックすると、元のオブジェクトと、破棄されたオプションと他のアイテムなどのすべての設定が復元されます。
- オブジェクトが最大化されている場合、オブジェクトの種類を変更することはできません。
- オブジェクトの種類を変更すると、オブジェクトのデータ役割の割り当ても変更される場合があります。

オブジェクトの名前のカスタマイズ

SAS Visual Analytics では、オブジェクト名が自動的に追加されます。自動名は、オブジェクト名の短縮形(たとえば、**棒グラフ**のかわりに**棒**など)と割り当てられた最初のデータアイテムの名前の組み合わせです。たとえば、新しい棒グラフオブジェクトを追加し、**国**をカテゴリデータ役割として割り当てるとします。自動名は**棒-国 1**です。同じ名前のオブジェクトがすでに存在する場合、重複しない名前が生成されます。前の例では、自動名がすでに存在する場合、重複しない名前**棒-国 2**が生成されます。

オブジェクトの種類を変更すると、自動オブジェクト名が変更されます。たとえば、棒グラフがあり、生成される名前が**棒-国 1**のときに、棒グラフを折れ線グラフに変更した場合、生成される名前は**線-国 1**に変更されます。

オプションペインを使用して、カスタムオブジェクト名を指定することができます。

重要 機密データアイテムの名前は、自動オブジェクト名またはカスタムオブジェクト名の一部にすることはできません。かわりに、機微なデータアイテム名を含まないカスタムオブジェクト名を指定するか、**データ**ペインで機微なデータアイテム名を変更することができます。

カスタムオブジェクト名を指定するには、次の操作を行います。

- 1 キャンバス上で、カスタム名を付けるオブジェクトを選択します。
- 2 **オプションペインで、オブジェクトヘッダーを展開し、名前フィールドに名前を入力します。**

注:

カスタムオブジェクト名を指定した後にオブジェクトの種類を変更した場合、SAS Visual Analytics ではカスタム名を保持しません。新しい自動オブジェクト名が生成されます。

注: カスタムオブジェクト名を削除すると、SAS Visual Analytics では新しいオブジェクト名が自動的に生成されます。

オブジェクトのタイトルのカスタマイズ

SAS Visual Analytics では、オブジェクトのタイトルを自動的に追加できます。オブジェクトのタイトルは、タイトルをカスタマイズしない限り、データアイテムをオブジェクトに追加したり削除したりすると変更されます。**オプションペイン**を使用して、カスタムタイトルを指定するか、オブジェクトのタイトルを指定することができます。または、SAS Visual Analytics 設定を使用して、各オブジェクトグループに必要なタイトルの種類を指定できます。詳細については、[“SAS Visual Analytics 設定の変更” \(SAS Visual Analytics: レポートのデザイン\)](#)を参照してください。

オブジェクトのタイトルに関する重要なポイントは次のとおりです。

- 機密データアイテムの名前は、自動オブジェクトタイトルまたはカスタムオブジェクトタイトルの一部にすることはできません。かわりに、機密データアイテム名を含まないカスタムオブジェクト名を指定するか、**タイトルなしオプション**を使用することができます。
- SAS Visual Analytics セッションで同じ種類のタイトルを使用したい場合は、オブジェクトタイトルに使用できる設定があります。詳細については、[“SAS Visual Analytics 設定の変更” \(SAS Visual Analytics: レポートのデザイン\)](#)を参照してください。
- 自動タイトルは、リスト表またはクロス表では使用できません。デフォルトではこれらのオブジェクトにタイトルはありませんが、カスタムタイトルを追加できます。
- 自動タイトルは、コンテンツグループのいずれのオブジェクトにも使用できません。デフォルトではこれらのオブジェクトにタイトルはありませんが、カスタムタイトルを追加できます。
- コントロールまたは分析オブジェクトでは、デフォルトで自動タイトルは表示されません。ただし、自動またはカスタムのタイトルを追加できます。
- **オブジェクトペイン**に保存するオブジェクトテンプレートには、**カスタムタイトルオプション**を使用する必要があります。

ヒント オブジェクトタイトルをすばやくフォーマットするには、キャンバス上のタイトルのテキストをダブルクリックします。表示されるツールバーを使用して、スタイル、フォント、サイズ、色、テキストの配置(左、中央、または右)などを変更します。

ヒント オブジェクトにタイトルを持たせたくない場合は、**オプションペインのタイトル**ドロップダウンリストで**タイトルなし**を選択します。あるいは、オブジェクト内で右クリックし、**オブジェクトタイトルの非表示**を選択することもできます。

オブジェクトのカスタムタイトルを指定するには、次の操作を行います。

- 1 キャンバス上で、カスタムタイトルを付けるオブジェクトを選択します。
- 2 **オプションペイン**で**オブジェクトヘッダー**を展開し、**タイトル**ドロップダウンリストから**カスタムタイトル**を選択します。
- 3 カスタムタイトルを入力します。

.....

注: オブジェクトの種類を変更すると、SAS Visual Analytics はカスタムタイトルを変更しません。

.....

- 4 (オプション)キャンバス上のオブジェクトのタイトルをダブルクリックして、カスタムタイトルのスタイルオプションを変更します。

グラフオブジェクトでのデータ値の選択

多くのグラフオブジェクトを使用すると、グラフからデータ値を選択できます。データ選択を使用すると、リンクされた選択(データブラッシング)アクションを実行したり、包含フィルターまたは除外フィルターを作成することができます。

データ値を選択するには、オブジェクト内の値をクリックするか、クリックしてドラッグして長方形の値の選択を作成します。

.....

注: 一部のオブジェクトの種類では、グループ役割が割り当てられている場合、またはデータ役割に離散データが含まれている場合にのみ選択が可能です。

.....

複数セルのグラフには、**選択ミラーリング**と呼ばれる種類のデータ選択があります。複数セルのグラフ内の1つのプロットでデータ値を選択すると選択ミラーリングが発生し、その選択がその複数セルのグラフ内のすべてのプロットに自動的にミラーリングされます。たとえば、散布図行列内の散布図で、複数のデータポイントを選択したとします。これにより、情報を共有するデータポイントも、複数セルのグラフの他のすべての散布図で選択されます。

選択ミラーリングの例を次に示します。

- **メジャーのレイアウト**オプションに**別々の軸**が選択され、2つ以上のデータアイテムが**メジャー**データ役割に割り当てられたグラフ(棒グラフなど)
- 3つ以上のデータアイテムが**メジャー**データ役割に割り当てられたグラフ(散布図行列など)
- 単一の**カテゴリ**データ役割を持ち、**メジャー**データ役割ごとにプロットが異なるグラフ(バタフライチャートなど)
- すべてのプロットがすべての**非メジャー**役割を共有する格子レイアウトのカスタムグラフ

異なるグラフ間にリンクされた選択を作成することもできます。詳細については、**“レポートアクションとリンクの操作” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)**を参照してください。

オブジェクトオーバーレイの非表示

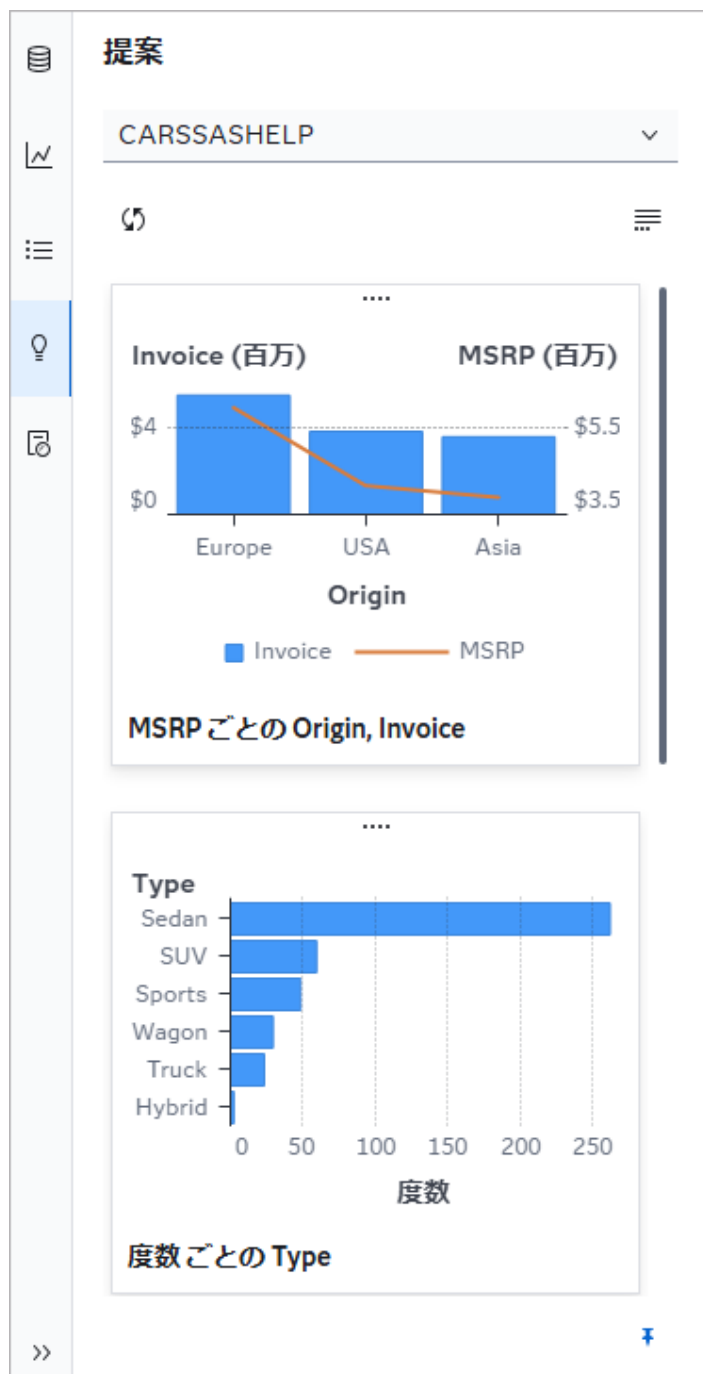
すべてのオブジェクトオーバーレイ(ツールバー、情報アイコン、検索ボックスなど)を非表示にするには、レポートツールバーのをクリックし、**インターフェイスオプション ⇨ オブジェクトオーバーレイの無効化**を選択します。このオプションは、レポートを閉じるときには保存されず、ビューアー内のレポートの表示には影響しません。

提案ペインの使用

提案ペインでは、データソースを選択した後で提案オブジェクトが提供されます。この機能によって、データの新しいオプションを検討するのに役立つオブジェクトが生成されます。これは、今まで考えつかなかったデータの側面を検討するのにも役立ちます。

提案オブジェクトは、データアイテムと同様にキャンバスにドラッグできます。キャンバスに提案オブジェクトをドロップすると、そのオブジェクトは**提案**ペインのリストから削除されます。また、使用されたデータアイテムが新しい提案オブジェクトによって再び使用されることはありません。可能であれば、同じ種類の新しい提案オブジェクトが**提案**ペインに追加されます。カーディナリティが最も低い最後の提案オブジェクトを使用した場合、別の提案オブジェクトは生成されません。

提案ペインで2つのオブジェクトがリストされた場合の例を次に示します。



提案オブジェクトは次の方法で生成されます。

関連メジャー

関連クエリは現在のデータソースに対して実行されます。生成される提案オブジェクトには、最低カーディナリティデータアイテムおよび最も関連のある2つのメジャーがあります。生成されるオブジェクトは次のとおりです。

- バタフライチャート
- 二軸の棒グラフ
- 二軸の棒-折れ線グラフ

最低カーディナリティ

現在のデータソース内の最低カーディナリティデータアイテムは、度数を使用して提案オブジェクトを作成するために使用されます。最低カーディナリティデータアイテムは、カーディナリティが少なくとも 6 のカテゴリデータアイテムです。生成されるオブジェクトは次のとおりです。

- 棒グラフ
- ドットプロット
- 折れ線グラフまたはニードルプロット
- 円グラフ
- ツリーマップ
- ワードクラウド

カスタムデータアイテム

カスタムデータアイテムは、階層、カスタムグループ、計算アイテムの順に検出されます。提案オブジェクトは、各カスタムデータアイテムに対して生成されます。たとえば、選択したデータソースに 2 つの階層がある場合は、各階層の提案オブジェクトが生成されます。生成されるオブジェクトは、最低カーディナリティとしてリストされているものと同じです。

ランダムに生成されたオブジェクトの場合は、現在のデータソースからカテゴリとメジャーが選択されます。生成されるオブジェクトは、最低カーディナリティとしてリストされているものと同じです。

現在のデータソースに日付または時間のデータアイテムがある場合、提案オブジェクト(通常は時系列プロット)は、ランダムメジャーを使用して生成されます。

ヒストグラムまたはキー値オブジェクトは、単一のメジャー列を使用して生成されます。

提案ペインについて重要なポイントを次に示します。

- ≡をクリックすると、さらに提案オブジェクトが生成され、現在のリストに追加されます。
- ↺をクリックすると、新しい提案オブジェクトが生成されます。現在のリストは新しいリストに置き換えられます。
- 提案のリストに含まれないデータアイテムは、派生データアイテム、パーティション、識別子、集計メジャーデータアイテムです。
- **データペインでカテゴリの一意のカウントを無効化またはデータペインで関連の自動検出を無効化の設定が選択されている場合、提案ペインは使用できません。**詳細については、“[SAS Visual Analytics 設定の変更](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートのデザイン*)を参照してください。
- データソース内のすべてのカテゴリデータアイテムのカーディナリティが 6 未満の場合、提案は生成されません。
- データソースに 1000 を超えるメジャーがある場合、SAS Visual Analytics は関連クエリを実行しません。

キャンバスに提案オブジェクトを追加するには、次の操作を行います。

- 1 **提案ペイン**がまだ表示されていない場合は、をクリックします。
- 2 **提案ペイン**の上部にあるドロップダウンリストでデータソース名を選択します。

ヒント

レポートにデータを追加する前に**提案**ペインを開いた場合、ドロップダウンリストをクリックして**データの選択**ウィンドウを開きます。その後、1 つ以上のデータソースを同時にレポートに追加できます。

- 3 提案オブジェクトを右クリックして、**現在のページに追加**または**新しいページに追加**のいずれかを選択します。レポートにコンテナがある場合は、**コンテナに追加**を選択できます。または、提案オブジェクトを既存のページまたは新しいページにドラッグすることもできます。

提案オブジェクトは、キャンバスに配置されると、他のオブジェクトと同様に動作するようになります。

レポートレビューペインの使用

レポートレビューペインについて

SAS Visual Analytics はレポートを分析し、**レポートレビュー**に情報を表示して、パフォーマンスの向上に役立ちます。**レポートレビュー**ペインには、各問題の説明が表示され、レポートまたはレポートで使用するデータに加えることができる改善点の提案が表示されます。このペインでは、アクセシビリティの問題もチェックします。これは、色覚障害(色弱)やその他の視覚障害があるユーザーに影響を与える可能性があります。

1 つのパフォーマンスの問題(未使用のデータソース)と 3 つのアクセシビリティの問題(オブジェクト名)が特定された**レポートレビュー**ペインの例を次に示します。

レポートレビュー

① 0 ② 1 ③ 3

パフォーマンスの評価

フィルター

▼ ② 使用されていないデータソース 1

使用されていないデータがレポートに割り当てられています。パフォーマンスを改善するには、使用されていないデータを削除してください。

📄 CARS

▼ ③ オブジェクト名 3

オブジェクト (テキストオブジェクトおよびコンテナーを除く) には支援技術の意味のあるアクセス可能な名前が必要です。オブジェクトに意味のある名前 (デフォルトの名前でなく) を選択、オブジェクトに表示可能な意味のあるタイトルを指定、またはレポートのオブジェクトに "代替テキスト" オプションを使用してください。

🔑 キーの値 - Engine Size (L) 1

🔑 キーの値 - Horsepower 1

📄 リスト表 - Origin 1

>> 🔽

レポートレビューペインでは、問題を高、中、または低の重要度に分類します。次の方法で問題を探索できます。

- **⋮** をクリックして、ペインの問題を重要度順に並べ替えます。重要度または種類(パフォーマンスまたはアクセシビリティ)によって問題をフィルタリングできます。
- 問題に関する追加情報を表示し、**⋮** をポイントします。
一部の問題では、アクションの **⋮** をクリックして、問題に対して追加のアクションを実行できます。たとえば、レポートに未使用のデータソースが含まれている場合、そのデータソースを削除できます。
- 評価された問題の PDF を生成するレポートレビューを出力します。ペインで、**⋮** をクリックし、**PDF としてエクスポート** を選択します。

レビューに基づくレポートの変更

問題の説明では、レポートの変更方法に関するレコメンデーションが提供されます。**レポートレビュー**ペインで特定されたパフォーマンスまたはアクセシビリティの問題をレビューして、問題の重重要度を下げるか、問題を完全に排除するために必要なことを決定します。問題の完全なリストについては、“[レポートレビューペインのリファレンス](#)” (*SAS Visual Analytics: リファレンス*)を参照してください。

ロード時間のレビューの実行

レポートの一部の問題は、SAS Visual Analytics がレポートのロード時間を分析する場合にのみ検出できます。たとえば、レポートのロード時間が遅い場合や、データのロード時間が長い場合があります。

レビューを実行するには、**レポートレビュー**ペインの上部にある**パフォーマンスの評価**をクリックします。レポートの最新の変更を保存していない場合は、保存するように求められます。問題はすべてペインに表示されます。問題の完全なリストについては、“[レポートレビューペインのリファレンス](#)” (*SAS Visual Analytics: リファレンス*)を参照してください。

オプションペインの使用

オプションペインについて

オプションペインには、現在選択されているレポート、ページ、またはオブジェクトのオプションがリスト表示されます。このペインでは、選択したオブジェクトのデータスタイリング、フレームスタイリング、テキストスタイリングおよびデータの色を指定できます。SAS Visual Analytics では、**オプション**ペインの展開または折りたたまれたヘッダーの状態がセッション間で保持されます。たとえば、SAS Visual Analytics 終了時に**スタイル**ヘッダーが展開されたとします。この場合、別のセッションを開始すると**スタイル**ヘッダーが展開されます。

ヒント オプションまたはオプショングループをすばやく見つけるには、**オプション**ペインの上部に表示される検索フィールドを使用します。オプションは、ペインに表示されるラベルに基づいてフィルタリングされます。

次に、キー値オブジェクトの**オプション**ペインの例を示します。

レポートのオプション指定

- 1 **オプション**ペインの上部にあるドロップダウンリストからレポート名を選択します。
- 2 (オプション)レポートに関する一般情報を表示します。**全般**ヘッダーを展開します。表示される情報は、**名前**、**場所**、**作成者**、**作成日**、**更新者**、**更新日**です。
- 3 (オプション)レポートの**全般**オプションを指定します。

要約

レポート要約として使用されるテキストオブジェクトを指定します。レポート要約にはレポートの説明が記載されており、レポートを表示するときに表示されます。詳細については、[“レポート要約の作成と表示” \(SAS Visual Analytics: レポートのデザイン\)](#)を参照してください。

サムネイルオブジェクト

ホームページ上でレポートのサムネイルとして使用されるオブジェクトを指定します。デフォルトでは、レポートの最初のページの最初のオブジェクトがレポートのサムネイルとして使用されます。

定期的にレポートデータをリロード

指定された間隔でレポートデータを更新します。

注: このオプションは、レポートを表示しているときにのみレポートデータを更新します。

レポート状態の保持を無効化

このレポートの状態を保存しないように指定します。詳細については、“[レポート状態について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートのデザイン*)を参照してください。

- 4 レポートのスタイルオプションを指定します。レポート内のすべてのオブジェクトは、このスタイルを継承します。ただし、**間隔**、**塗りつぶし**、**線/マーカー**、**グラデーション**、**欠損**のオブジェクト固有のスタイルでは、レポートスタイルを上書きできます。

テーマ

一貫したルックアンドフィールが SAS レポートに適用されます。SAS Visual Analytics では、Dark、High Contrast、および Light のレポートテーマが提供されます。Light はすべての新しいレポートのデフォルトのレポートテーマです。詳細については、“[SAS レポートテーマの使用](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートのデザイン*)を参照してください。

サイトにカスタムレポートのテーマがある場合があります。SAS Theme Designer でカスタムアプリケーションテーマを作成すると、カスタムレポートテーマが自動的に作成されます。詳細については、[SAS Theme Designer: User's Guide](#) を参照してください。

背景

レポートの背景を指定してカスタマイズすることができます。

フォント

レポートのすべてのテキストに使用されるフォントとフォントの色を指定します。

間隔

レポートの両脇に表示するスペースの量を指定します。スペースはピクセル単位で測定されます。

塗りつぶし

レポート内のいずれかの色塗りつぶしの色を指定します。

線/マーカー

レポート内のマーカーと線の色を指定します。

グラデーション

レポートの色のグラデーションを構成する色を指定します。

Missing

欠損値を表す色を指定します。

その他

“その他”の値を表す色を指定します。

データ要素スタイルローテーション

視覚や色の知覚を損なったユーザーのためにオブジェクトのアクセシビリティを向上させます。**すべての色を最初にローテーション**または**すべての属性をローテーション**を選択できます。このオプションは、レポートテーマで指定されたスタイルを上書きし、レポートのすべてのグラフに適用されます。

注: このオプションは、塗りつぶしを使用するグラフ(棒グラフや円グラフなど)には影響しません。

- 5 (オプション)レポートの固定サイズを指定します。**レイアウトヘッダー**を展開し、**固定レポートサイズを設定**チェックボックスを選択します。**レポートの幅(ピクセル)**の数値と**レポートの高さ(ピクセル)**の数値を指定します。
- 6 **ビューアー機能**オプションを使用して、レポートを表示しているユーザーが実行できるカスタマイズを制御します。
 - a スライダーを使用して、次のレベルのアクセス許可を選択します。
 - 1 **単純編集**では、レポート閲覧者は、レポートコンテンツに対するレポートデザイナーの元の意図を変えない範囲で変更を加えることができます。たとえば、レポート閲覧者は、データの並べ替え方法を変更したり、凡例や値ラベルを変更したりできます。
 - 2 **包括的な編集**では、レポート閲覧者は、レポートの元の意図を変える可能性のある変更を加えることができます。たとえば、レポート閲覧者はオブジェクトの種類を変更できます。(これがデフォルトのレベルです。)
 - 3 **オブジェクトデータの編集**では、レポート閲覧者は、レポート内のオブジェクトのデータを変更できます。たとえば、データの割り当て、フィルター、ランクを変更できます。
 - b レポートを表示しているユーザーがレポートのインサイトを使用できるかを指定するには、**インサイトを許可**チェックボックスを使用します。
 - c **エクスポートドロップダウンリスト**で、レポートを表示しているユーザーがエクスポートオプションを使用できるかどうかを指定します。次のオプションを選択できます。

有効化

エクスポートオプションがデータ、詳細データ、Microsoft Excel ワークシート、イメージ、PDF ファイル、レポートパッケージで使用可能であることを指定します。

プライベートデータが存在する場合は無効にする

レポートにプライベートデータが存在する場合に、データ、詳細データ、Excel ワークシート、イメージ、PDF ファイル、レポートパッケージ、またはこれらのオプションの組み合わせに対してエクスポートオプションが無効になるように指定します。

プライベートデータが存在する場合は無効にするオプションについての重要なポイントは次のとおりです。

- データ、詳細データ、Excel ワークシート、イメージをエクスポートするオプションは、プライベートデータと見なされるデータアイテムがオブジェクトで使用されているかどうかによって異なります。オブジェクトにプライベートデータが含まれていない場合、レポートを表示しているユーザーはこれらのエクスポートオプションを使用できます。

注: オブジェクトがプライベートデータを使用していなくても、データソースのデータアイテムのいずれかにプライベートデータが含まれている場合、詳細データをエクスポートするオプションは無効になります。SAS Visual Analytics を使用すると、ユーザーは詳細データをエクスポートするときに追加列を含めることができます。これらの追加列により、ユーザーがプライベートデータにアクセスできる可能性があるため、エクスポートは無効になります。

- レポートパッケージをエクスポートするオプションは、プライベートデータがレポートで使用されているかどうかによって異なります。レポートにプライベートデータが含まれてい

ない場合、レポートを表示しているユーザーはレポートパッケージをエクスポートできません。

- ユーザーは、レポート、ページ、またはオブジェクトの PDF をエクスポートできます。PDF をエクスポートできるかどうかは、ユーザーが PDF に何をエクスポートするかによって異なります。たとえば、レポートのページにプライベートデータが含まれていない場合、レポートを表示しているユーザーは、レポートのそのページの PDF をエクスポートできます。

無効化

データ、詳細データ、Excel ワークシート、イメージ、PDF ファイル、レポートパッケージ、またはこれらのオプションの組み合わせに対して、エクスポートオプションが無効であることを指定します。

- 7 (オプション)レポートコントロールの位置を変更します。**レポートコントロールの配置オプション**を使用すると、レポートコントロールについて上下左右いずれかの位置を選択できます。すべてのレポートでコントロールの配置を同じにする場合は、**デフォルトのレポートコントロール配置設定**を使用します。詳細については、[“SAS Visual Analytics 設定の変更” \(SAS Visual Analytics: レポートのデザイン\)](#)を参照してください。

ヒント リストコントロールに多くの値がある場合は、左右いずれかの配置を選択して、複数の値(州や省など)を同時に表示します。上下いずれかの配置を選択すると、値はドロップダウンリストに表示されます。

ページのオプション指定

- 1 **オプションペイン**の上部にあるドロップダウンリストからページを選択します。
- 2 **全般ヘッダー**を展開します。**名前**、**ページの種類**、および**定期的にページデータをリロード**のオプションを指定できます。
- 3 (オプション)**スタイルヘッダー**の下にある**間隔オプション**を指定して、レポート周囲のスペースの量を指定します。間隔はピクセル単位で測定されます。
- 4 **レイアウトヘッダー**を展開して、ページの**方向**を指定します。ページにスクロールバーを使用する場合は、**スクロールバーを使用しない**チェックボックスをクリアにします。
- 5 (オプション)レポートコントロールの位置を変更します。**ページコントロールの配置オプション**を使用すると、ページコントロールについて上下左右いずれかの位置を選択できます。すべてのレポートでコントロールの配置を同じにする場合は、**デフォルトのページコントロール配置設定**を使用します。詳細については、[“SAS Visual Analytics 設定の変更” \(SAS Visual Analytics: レポートのデザイン\)](#)を参照してください。

ヒント リストコントロールに多くの値がある場合は、左右いずれかの配置を選択して、複数の値(州や省など)を同時に表示します。上下いずれかの配置を選択すると、値はドロップダウンリストに表示されます。

オブジェクトのオプション指定

- 1 キャンバス上で更新するオブジェクトを選択します。
- 2 をクリックして、**オプション**ペインを表示します。
- 3 オブジェクトの種類の特定のオプションを指定します。一般に、現在のオブジェクトの種類に固有のオプションは、デフォルトで展開されます。
- 4 オブジェクトの一般的なオプションを指定します。オブジェクトの種類に応じて、次のオプションのいくつかを使用できます。

表 2 オブジェクトの全般オプション

グループ	オプション	説明
オブジェクト	代替テキスト	ユーザーがオブジェクトを選択したときにスクリーンリーダーがアナウンスするテキストを指定します。 注: テキストオブジェクトの場合、このオプションは効果がありません。スクリーンリーダーは常に、ユーザーが提供する代替テキストではなく、テキストオブジェクトのコンテンツをアナウンスします。 注: このオプションは、ドロップダウンリストコントロール、リストコントロール、自動説明オブジェクトには影響しません。
	除外対象を "他のすべて" にまとめる	すべての除外された行を要約します。このオプションは、要約データを使用する場合に使用できます。これは、ランクと集計後のフィルターの両方に適用されます。このオプションの効果は、特定の種類のアクションの影響を受ける可能性があります。詳細については、"除外対象を"他のすべて"にまとめるオプションの使用" (40 ページ)を参照してください。
	ビューアーでの選択を有効化	ユーザーが SAS Visual Analytics またはモバイルアプリでレポートを表示するときに選択アウトラインとオブジェクトツールバーが使用できるかを制御します。

グループ	オプション	説明
	名前	オブジェクトの名前を指定します。名前は、 アウトラインペイン と アクションペイン でオブジェクトを識別するために使用されます。レポート内で名前は重複しないようにしてください。
	システムデータ制限をオーバーライド	ユーザーは異なるシステムデータの制限を指定できます。 各オブジェクトのデータ制限の詳細については、“オブジェクトの高カードビナリティしきい値” (<i>SAS Visual Analytics: リファレンス</i>)を参照してください。
	定期的にオブジェクトデータをリロード	特定の間隔でオブジェクトのデータを更新するように指定できます。 ヒント レポートの表示に切り替えて、オブジェクトのデータがリロードされていることを確認します。
	タイトル	オブジェクトの上部に表示されるタイトルを指定します。オブジェクトのタイトルをダブルクリックすると、タイトルとスタイルの変更オプションを編集できます。 SAS Visual Analytics はオブジェクトタイトルを自動的に追加します。カスタムタイトル、自動タイトル、またはタイトルなしを選択できます。詳細については、“オブジェクトのタイトルのカスタマイズ” (17 ページ)を参照してください。
スタイル	背景	オブジェクトの背景を表示し、背景の色と透過性を指定することができます。
	罫線	オブジェクトの周りに罫線表示し、罫線の太さと透過性を指定することができます。 注: 現在選択されているオブジェクトの罫線は常に表示されます。
	データ要素スタイルローテーション	視覚や色の知覚を損なったユーザーのためにオブジェクトのアクセシビリティを向上させます。 すべての色を最初にローテーション または すべての属性をローテーション を選択できます。

グループ	オプション	説明
		注: このオプションは、塗りつぶしを使用するグラフ(棒グラフや円グラフなど)には影響しません。
	データスキン	オブジェクト内のデータ要素のビジュアルスタイル(たとえば、棒グラフの棒のスタイル)を指定します。
	データチップの背景	データチップの背景色を指定します。
	データチップスタイル	データチップテキストのフォントサイズと色を指定します。
	塗りつぶし	いずれかの色塗りつぶしの色を指定します(たとえば、棒グラフの棒)。
	フォント	オブジェクト内のすべてのテキストに使用されるフォントを指定します。
	グラデーション	色のグラデーションを構成する色を指定します。
	線/マーカー	マーカーと線の色を指定します。
	内部間隔	オブジェクト間に表示する空きスペースの量を指定します。 注: このオプションは、複数のビジュアルを持つオブジェクトに対してのみ使用可能です。
	欠損	欠損値を表す色を指定します。
	間隔	オブジェクトの辺の周りに表示する空きスペースの量を指定します。
レイアウト	可能な場合は高さを広げる	スペースがある場合は、オブジェクトの高さを延長します。
	可能な場合は幅を広げる	スペースがある場合は、オブジェクトの幅を拡張します。
	オーバービュー軸	概要を表示するかどうかを指定します。オーバービュー軸は、表示される軸の量と軸のどの部分が表示されるかを指定できるスクロール軸です。

グループ	オプション	説明
	必要に応じて高さを縮める	スペースが不十分な場合は、オブジェクトの高さを縮小します。
	必要に応じて幅を縮める	スペースが不十分な場合は、オブジェクトの幅を縮小します。
	高さを指定	有効にすると、オブジェクトの高さをキャンバス上のスペースのパーセンテージまたはオブジェクトがコンテナ内にある場合のコンテナ内のスペースのパーセンテージとして指定します。 デフォルトでは、SAS Visual Analytics は、レポートがレンダリングされたときに、コントロールオブジェクトまたはテキストオブジェクトの高さを自動的に計算します。(これにより、さまざまな画面サイズでレポートやテキストオブジェクトの移植性が向上します)。高さを指定オプションは、コントロールまたはテキストオブジェクトを常にいずれかの画面上のレポートの高さの固定割合にする場合にのみ使用します。
	幅を指定	有効にすると、キャンバス上のスペースのパーセンテージとして、またはオブジェクトがコンテナ内にある場合、コンテナ内のスペースのパーセンテージとしてオブジェクトの幅を指定します。 デフォルトでは、SAS Visual Analytics は、レポートがレンダリングされるたびに、コントロールオブジェクトまたはテキストオブジェクトの幅を自動的に計算します。(これにより、さまざまな画面サイズでレポートやテキストオブジェクトの移植性が向上します)。幅を指定オプションを使用するのは、コントロールまたはテキストオブジェクトを常にいずれかの画面上のレポートの幅の固定割合にする場合のみです。 注: 一部のコントロール(テキストコントロールなど)にはキャンバス上に自動的に計算された幅がありません。ただし、これらのコントロールは、プロンプトコンテナ内に幅があります。
グラフフレーム	背景	グラフの背景を表示し、背景の色と透過性を指定することができます。

グループ	オプション	説明
	罫線	グラフの周りに罫線を表示し、罫線の太さと透過性を指定することができます。
	グリッド線	軸上の各ティックのグリッド線を表示し、線の太さと色を設定することができます。
	ヘッダー背景	格子ヘッダーの背景色を指定します。
	ヘッダー値	格子ヘッダーテキストのテキストの色を指定します。
	格子見出しの背景	格子のヘッダーの背景色と透過性を指定します。
	オーバーレイされたグラフの色	グラフ内の各プロットが一意的色で開始するか、最初のデフォルトの色で開始するかを指定します。
	壁の背景	グラフの壁の背景色と透過性を指定します。壁は、グラフの軸に囲まれた領域です。
X 軸、Y 軸	ウォールの外枠	グラフの外枠の周囲に罫線が引かれるかどうかを指定します。
	軸ラベル	軸のラベルを指定できます。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色も指定できます。
	軸の線	軸の線の種類、線の幅、および線の色を指定できます。
	最大値の固定	軸の最大値の固定を指定します。
	最小値の固定	軸の最小値の固定を指定します。
	グリッド線	軸の各目盛にグリッド線を表示するかどうかを指定します。 このオプションを選択すると、線の種類、線の幅、および線の色を指定できます。
	対数スケール	軸で対数スケールを使用することを指定します。底ドロップダウンリストから、スケールの底の値を設定できます。

グループ	オプション	説明
	オーバービュー軸	概要を表示するかどうかを指定します。オーバービュー軸は、表示される軸の量と軸のどの部分が表示されるかを指定できるスクロール軸です。 注: オブジェクトが格子を表示する場合、このオプションは効果がありません。
	逆順	軸の値を昇順ではなく降順で表示するかどうかを指定します。
	値ラベルの回転	カテゴリ目盛値を斜めに表示します。 注: オブジェクトに格子が表示されている場合、値ラベルの回転オプションは無効です。
	目盛のマーク	目盛のマークを軸に沿って表示するかどうかを指定します。離散データを含む軸の場合、目盛値の配置を指定できます。
	目盛値	軸の目盛値の表示を指定できます。目盛値のテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。連続値を含む軸の場合、整数のみを指定して、整数値でのみ目盛値を表示できます。 時間データについては、次のサブオプションを指定できます。 時間データ間隔 軸に使用する時間間隔を指定します。間隔には、秒、分、時、日、週などを指定できます。 時間データ間隔は、選択した目盛値出力形式オプションによって異なります。出力形式オプションがデータ出力形式の照合に設定されている場合、時間データ間隔がグラフを更新しない場合があります。出力形式オプションが自動に設定されている場合、グラフは選択した間隔に従おうとします。一部の間隔は、特定のデータ出力形式と互換性がありません。たとえば、日付または日時出力形式のデータを含むグラフでは、分や時などの時間ベースの間隔を持つことはできません。 出力形式 目盛値のデータ出力形式を指定します。値を自動的に省略するには自動を選択し、データ出力形式を保持するに

グループ	オプション	説明
		はデータ出力形式の照合を選択します。 時間値の分割 必要に応じて、時間値が 2 行に分割されるように指定します。
	目盛値の表示	目盛値を X 軸に合わせるために使用される方法を指定します。 重複を自動で削減または固定された向きのいずれかを選択できます。 重複を自動で削減オプションは、目盛値が重なり合っている場合にのみ適用されます。次を指定できます。 いくつかをドロップ いくつかの目盛値が削除されることを指定します。(メジャー X 軸を持つ横棒グラフで使用できます。) 45 度回転 すべての目盛値を斜めに 45 度回転させます。(メジャー X 軸を持つ横棒グラフとカテゴリ X 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。) 互い違い、切り捨て 目盛値を上下に交互にシフトして、目盛値から文字を切り取ります。(カテゴリ X 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。) 互い違い、切り捨て、ドロップ 値を上下に交互にシフトし、目盛値から文字を切り取り、目盛値をドロップします。(カテゴリ X 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。) 切り捨て 目盛値から文字を切り取ります。(カテゴリ X 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。) 切り捨て、45 度回転 文字を切り取り、すべての目盛値を斜めに 45 度回転させます。(カテゴリ X 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。) 固定された向きオプションは、目盛値が重なり合っている場合でも常に適用されます。次を指定できます。 横 目盛値を横方向に表示します。(メジャー X 軸を持つ横棒グラフとカテゴリ X 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。) 45 度回転 すべての目盛値を斜めに 45 度回転させます。(メジャー X 軸を持つ横棒グラフ

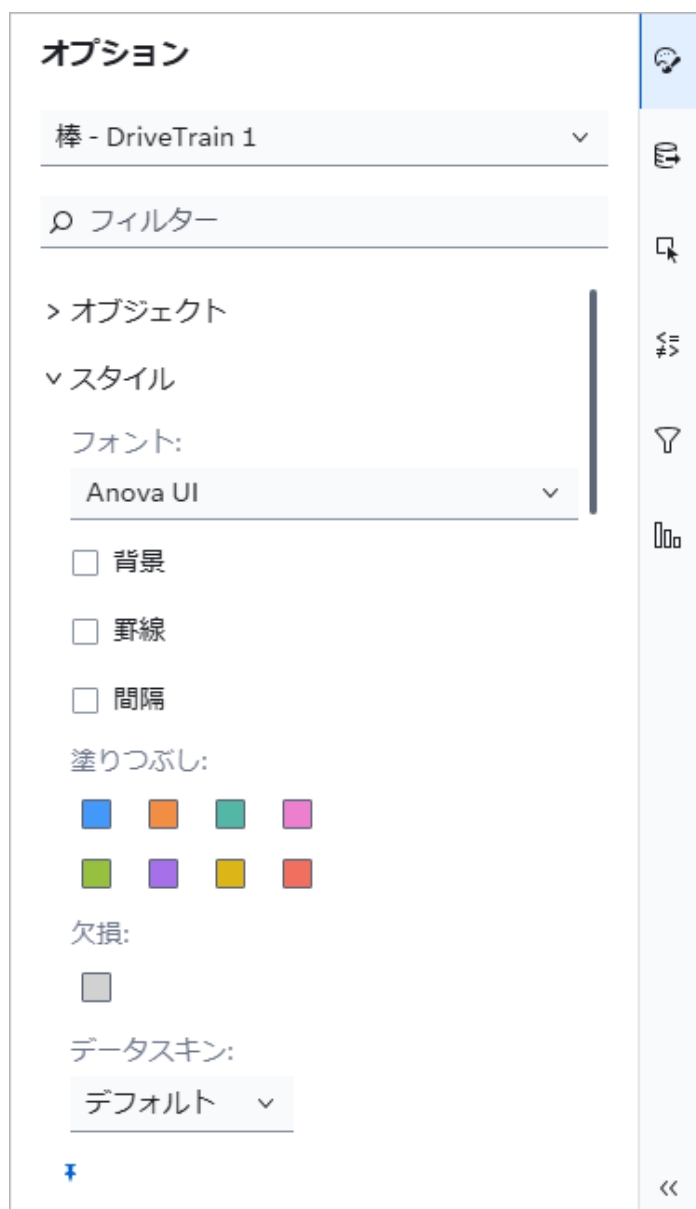
グループ	オプション	説明
		フとカテゴリ X 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。) 45 度回転、ドロップ すべての目盛値を斜めに 45 度回転させ、目盛値をドロップします。(メジャー X 軸を持つ横棒グラフとカテゴリ X 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。)
	目盛値の表示	目盛値を表示するのに十分なスペースがなく、目盛値が重なり合っている場合に、軸に目盛値を合わせるために使用する方法を指定します。この方法は、必要な場合にのみ適用されます。それ以外の場合は、目盛値が変更なしで表示されます。 次を選択できます。 いくつかをドロップ いくつかの目盛値が削除されることを指定します。(カテゴリ Y 軸を持つ横棒グラフとメジャー Y 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。) すべて表示 すべての目盛値を表示するように指定します。(カテゴリ Y 軸を持つ横棒グラフとメジャー Y 軸を持つ縦棒グラフで使用できます。)
参照線	参照線	選択したオブジェクトの参照線を管理することができます。新しい参照線をクリックして参照線を追加します。参照線のスタイル、幅、および色を指定できます。参照線の値は、値フィールドに入力するか、オブジェクトの参照線をドラッグして設定します。レポートに該当するパラメーターが含まれている場合は、値フィールドをクリックし、割り当てるパラメーターを選択します。 注: 静的な値が割り当てられている場合にのみ、参照線をドラッグできます。 注: ニードルプロットとステッププロットの場合、X 軸を離散データのカテゴリに変更すると、X 軸の参照線が削除されます。 注: 3 つ以上のデータアイテムを持つヒートマップは参照線をサポートしていません。2 つのデータアイテムを持つヒートマップにデータアイテムを追加すると、参照線が削除されます。

グループ	オプション	説明
アニメーション	アニメーション日付または時間値	現在表示されているアニメーションフレームの日付または時間の値を表示します。アニメーションの再生中、値は常に更新されます。
	コントラストオプション	アニメーション値を色付きの背景を使用して表示する(ボックス)か、背景を使用せずに表示する(なし)かを指定します。
	順序	アニメーション値をオブジェクトのデータ要素の手前(データ要素の前)に描画するのか、またはデータ要素の背後(データ要素の後)に描画するのかを指定します。
	配置	アニメーション値の位置を指定します。
	テキストサイズ	アニメーション値の大きさを、オブジェクトの高さに対する比率で指定します。
	テキストスタイル	アニメーション値の表示を指定します。
凡例(Legend)、凡例(Legends)	透過性	アニメーション値の透過性を指定します。
	背景スタイル	凡例の背景の色と透過性を指定します。
	罫線	罫線を表示するかどうかを指定します。有効にすると、凡例の周りの罫線の太さと色を指定できます。
	配置	凡例の位置を指定します。
	タイトル	凡例のタイトルを指定します。凡例タイトルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体、またはその両方)、色を指定することもできます。
個別の凡例	表示	凡例を表示するか(自動)、非表示にするか(すべて非表示)を指定します。
	固定タイトル	カテゴリデータアイテムが変更されても変更されないタイトルを指定します。(個別の凡例は、カテゴリ値とそれを表す色見本を示します。)

グループ	オプション	説明
	タイトルのテキストスタイル	個別の凡例タイトルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体、またはその両方)、色を指定します。
	値のテキストスタイル	個別の凡例値のテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体、またはその両方)、色を指定します。

スタイルオプションを使用したグラフの色の変更

グラフで使用される色を変更するには、**スタイル**で使用可能なスタイルを使用します。棒グラフのスタイルオプションの例を次に示します。



注: グラフの**グループ**データ役割のデータアイテムに 2 つ以上の重複しない値がある場合、最初の**塗りつぶし**色(前述の例では青色)が最初の値に適用され、2 番目の色(前述の例では黄色)が 2 番目の値に適用され、となります。**グループ**データ役割にデータアイテムがない場合、最初の色のみがグラフに適用されます。

色を変更するには、そのタイルをクリックしてカラーパレットを開きます。パレットを使用して、新しい色を選択します。新しい色が自動的にグラフに適用され、タイルが新しい色に変わります。

除外対象を“他のすべて”にまとめるオプションの使用

オプションペインには、リスト表のデータオプションと、カテゴリ間でコンテンツを結合するために使用できるいくつかのグラフ(オブジェクトの表示されるカテゴリを組み合わせることによって形成されたコンテンツなど)があります。これらのオプションは、フィルターやランクで頻繁に使用されます。

リスト表の場合は除外された行を **“他のすべて”** にまとめるオプションに、一部のグラフの場合は除外対象を **“他のすべて”** にまとめるを使用することができます。

これらのオプションの効果は、特定の種類のアクションの影響を受ける可能性があります。たとえば、売上高メジャーデータアイテムを含むリスト表がある場合、リスト表では、除外された行を **“他のすべて”** にまとめるオプションに選択し、売上高の範囲を示すスライダーのターゲットにすることができます。スライダーコントロールで選択した範囲に基づいてドロップされるカテゴリの組み合わせは、“他のすべて”という名前のカテゴリにグループ化されます。

除外された行を **“他のすべて”** にまとめるオプションと、除外対象を **“他のすべて”** にまとめるオプションに関する重要なポイントは次のとおりです。

- クロス表では、除外された行を **“他のすべて”** にまとめるオプションは使用できません。
- 除外対象を **“他のすべて”** にまとめるオプションは、時系列プロット、バブルプロット、散布図、ステッププロット、ニードルプロット、地理マップ、ワードクラウドでは使用できません。

類似していますが、カテゴリ別の“他のすべて”オプションがあり、SAS Visual Analytics でランク付けするために提供されています。ランク付けのための他のすべての概念の詳細情報については、[“レポートにおける値のランク付け” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

除外された行を **“他のすべて”** にまとめるオプションと除外対象を **“他のすべて”** にまとめるオプションに関する重要なポイントは次のとおりです。

- オブジェクトが詳細データを表示しているときは、オプションを設定できません。
- オブジェクトに、カテゴリごとに他のすべてオプションが選択されたランクが含まれている場合、このオプションは設定できません。
- “その他” スライスの最小パーセントオプションが選択されている場合、円グラフにオプションを設定することはできません。

レポートインサイトの使用

インサイトについて

SAS Visual Analytics では、レポートコンテンツのデータが分析され、データに対するインサイトが提供されます。

デフォルトでは、SAS Visual Analytics で、オブジェクトのインサイトが自動的に確認されます。レポートでインサイトを使用できる場合は、がレポートツールバーに表示されます。

自動インサイトを無効にするには、**設定**ウィンドウを開き、**パフォーマンス**タブをクリックして、**インサイトモード (編集)**と**インサイトモード (表示)**オプションを**マニュアル**に変更します。

マニュアルインサイトが有効になっている場合、は常にレポートツールバーに表示されます。をクリックすると、レポートのインサイトを確認できます。

レポート閲覧者のインサイトの使用

デフォルトでは、レポートを表示するユーザーはインサイトを表示できます。

レポート閲覧者がインサイトを使用できないようにする場合は、**ビューアー機能グループ**で**インサイトを許可**レポートオプションを選択解除します。

外れ値インサイト

外れ値インサイトの概要

外れ値インサイトでは、レポートで外れ値に影響される可能性のあるデータアイテムを識別します。

外れ値は、四分位範囲からの距離が四分位範囲のサイズの 1.5 倍を超えるデータポイントとして識別されます。

次のオブジェクトの種類では、外れ値の確認は行われません。

- 箱ひげ図
- 相関行列
- 平行座標プロット
- コントロール

■ 分析モデル

メジャーの外れ値の表示

メジャーの外れ値の分析を表示するには、メジャーの横にある①をクリックし、ポップアップウィンドウで**外れ値分析の表示**をクリックします。

注: メジャー分析の場合、**外れ値インサイト**は、レポートがフィルターまたはランクを使用して値を除外している場合でも、データソースのすべての外れ値を特定します。

オブジェクト固有の外れ値の影響の表示

レポートのオブジェクトに対する外れ値の影響を表示するには、**影響を受けるオブジェクトを分析**をクリックします。

分析が完了したら、オブジェクト名の横にある**詳細**をクリックして、そのオブジェクトの外れ値の詳細な分析を表示します。

注: オブジェクトのデータクエリにランクまたはフィルターからの"他のすべて"の値グループが含まれている場合、外れ値分析では"他のすべて"の値が無視されます。

オブジェクトテンプレートの使用

オブジェクトテンプレートについて

SAS Visual Analytics で**オブジェクト**ペインにオブジェクトテンプレートを追加することができます。オブジェクトテンプレートを使用して、複数のレポートで同様の外観にしたい他のテーブル、グラフ、またはコントロールを作成できます。たとえば、会社の月次レポートと年次レポートに使用する棒グラフを作成するとします。この場合、オブジェクトテンプレートを使用して、棒グラフが作成されるたびに、棒グラフに対して同じビジュアルカスタマイズが使用されるようにすることができます。

オブジェクトテンプレートを使用してデータ関連のアイテムを保存することもできます(役割の割り当て、表示ルール、フィルター、ランク、並べ替えなど)。

アプリケーション管理者は、複数のユーザーにオブジェクトテンプレートをパブリッシュできます。これは、複数のレポートデザイナーが、同じカスタマイズを適用したオブジェクトを使用してレポートを作成する際に役立ちます。

オブジェクトテンプレートについて重要なポイントを次に示します。

- オブジェクトテンプレートは、キャンバスに配置されると、他のオブジェクトと同様に動作するようになります。
- オブジェクトテンプレートでは、元のオブジェクトに加えたビジュアルカスタマイズがすべて維持されます。
- 元に戻す機能とやり直し機能は、オブジェクトテンプレートの管理には使用できません。
- オブジェクトテンプレートのコンテンツは編集できません。かわりに、元のオブジェクトを変更して、そこから新しいオブジェクトテンプレートを作成することができます。必要のないオブジェクトテンプレートは必ず削除してください。
- パブリッシュされているかどうかにかかわらず、作成するオブジェクトテンプレートの名前を変更することができます。アプリケーション管理者は、いずれのユーザーが作成者でもパブリッシュオブジェクトテンプレートの名前を変更できます。アプリケーション管理者以外は、パブリッシュオブジェクトテンプレートの名前を変更することはできません。
- オブジェクトテンプレートは、そのテンプレートを作成したユーザーにのみ表示されます。ただし、アプリケーション管理者は、**オブジェクトペイン**でそのプロパティを変更することによって、複数のユーザーによるオブジェクトテンプレートの使用を可能にすることができます。詳細については、“[オブジェクトテンプレートのパブリッシュ](#)” (45 ページ)を参照してください。
- アプリケーション管理者以外は、削除できるのは自分で作成したオブジェクトテンプレートのみです。アプリケーション管理者は、パブリッシュオブジェクトテンプレートを削除できます。
- **次で複製機能**を使用して、オブジェクトテンプレートを同じ種類のオブジェクトとして複製することはできません。たとえば、棒グラフテンプレートオブジェクトを **Bar Chart (1)**として複製することはできません。ただし、**Line Chart (1)**として複製することはできます。同様に、**object-name** を **変更機能**を使用して、オブジェクトテンプレートを同じ種類のオブジェクトに変更することはできません。たとえば、キー値テンプレートオブジェクトを **Key Value (1)**として複製することはできません。
- レポートデータをエクスポートする場合、オブジェクトテンプレートはエクスポートされません。

オブジェクトテンプレートの作成

1 次の操作のいずれかを実行します。

- オブジェクトを右クリックし、**オブジェクトペインに保存**を選択します。**オブジェクトペインに保存**ウィンドウが表示されます。
- オブジェクトのツールバーで **⋮** をクリックして、**オブジェクトペインに保存**を選択します。**オブジェクトペインに保存**ウィンドウが表示されます。
- **アウトラインペイン**で、オブジェクト名を右クリックし、**オブジェクトペインに保存**を選択します。これは、一部の種類のコンテナをテンプレートとして保存する最も簡単な方法です。

注: カスタムグラフまたはモデル比較オブジェクトを含むコンテナのオブジェクトテンプレートは保存できません。

オブジェクトテンプレートとして保存されている棒グラフの**オブジェクトペインに保存**ウィンドウの例を次に示します。

オブジェクトペインに保存

名前:
棒グラフ (1)

オブジェクトは Objects ペインに 棒グラフ (1) として保存されます。

☒ データを含む ②

☐ パブリッシュ

OK キャンセル

注: パブリッシュチェックボックスは、アプリケーション管理者のみが使用できます。

- 2 **オブジェクトペインに保存**ウィンドウで、オブジェクトテンプレートの名前を指定します。名前は一意である必要があります。
- 3 (オプション)**データを含む**を選択し、オブジェクトテンプレートを使用してデータ関連アイテム(役割の割り当て、表示ルール、フィルター、ランク、並べ替えなど)を保存します。
- 4 (オプション)アプリケーション管理者の場合は、**パブリッシュ**を選択してオブジェクトテンプレートを他のユーザーと共有します。
- 5 **OK**をクリックして、オブジェクトテンプレートを保存します。

データを含むを選択した場合、新しいオブジェクトテンプレートとその保存データは、**データ付きオブジェクト**という新しいヘッダーの下の**オブジェクトペイン**に追加されます。

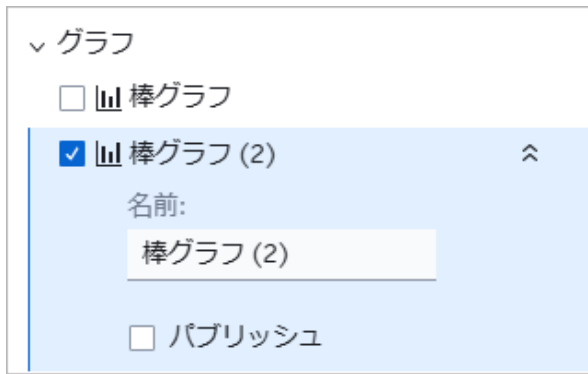
データとともに保存された棒グラフオブジェクトテンプレートの**オブジェクトペイン**の例を次に示します。

データ付きオブジェクト

棒グラフ (1)

データを含むを選択しなかった場合は、新しいオブジェクトテンプレートが**オブジェクトペイン**の**オブジェクトの種類**のリストに自動的に追加されます。

データなしで保存された棒グラフオブジェクトテンプレートの**オブジェクトペイン**の例を次に示します。

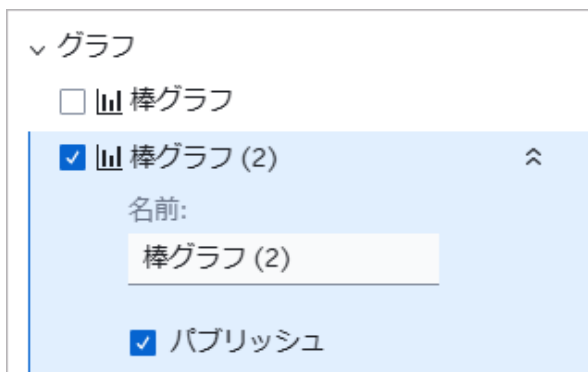


オブジェクトテンプレートのパブリッシュ

アプリケーション管理者であれば、他のユーザーのオブジェクトテンプレートをパブリッシュできます。

- 1 **オブジェクト**ペインでオブジェクトテンプレートを選択し、**パブリッシュ**をクリックします。
- 2 **パブリッシュ**チェックボックスを選択します。

オブジェクトペインの**パブリッシュ**棒グラフオブジェクトテンプレートの例を次に示します。



注: アプリケーション管理者は、**パブリッシュ**オブジェクトテンプレートの名前を変更できます。

オブジェクトテンプレートの非表示

作成したオブジェクトテンプレートまたはアプリケーション管理者が**パブリッシュ**したオブジェクトテンプレートを非表示にすることができます。

- 1 **オブジェクト**ペインで、非表示にするオブジェクトテンプレートを選択します。
- 2 オブジェクトテンプレートを右クリックし、**非表示**を選択します。

ヒント 非表示にしたオブジェクトテンプレートを表示するには**オブジェクトの表示または非表示**ウィンドウを使用します。詳細については、“**オブジェクトペインでオブジェクトを表示または非表示にする**”(9 ページ)を参照してください。

オブジェクトテンプレートの名前変更

オブジェクトペインでオブジェクトテンプレートの名前を変更するには、オブジェクトテンプレートを選択し、**≡**をクリックします。**名前**フィールドでオブジェクトテンプレート名を変更します。**オブジェクトペイン**はアルファベット順に並べ替えられることに注意してください。

注: オブジェクトテンプレートの名前を変更した場合、右側のペインで開始されるプレゼンテーション関連タスクには新しい名前が表示されません。たとえば、**棒グラフ (1)**を**棒グラフテンプレート**に変更し、その新しいオブジェクトテンプレートを使用するとします。その場合、**オブジェクトペイン**には、**棒グラフテンプレート**が表示されます。ただし、**オプションペイン**には**棒 1**が表示されます。

オブジェクトテンプレートの削除

削除できるのは自分で作成したオブジェクトテンプレートのみです。アプリケーション管理者だけがパブリッシュオブジェクトテンプレートを削除できます。

- 1 **オブジェクトペイン**で、削除するオブジェクトテンプレートを選択します。
- 2 オブジェクトテンプレートを右クリックし、**削除**を選択します。

注: **オブジェクトペイン**からオブジェクトテンプレートを削除しても、オブジェクトテンプレートを使用したレポートは削除されません。

オブジェクトの最大化

最大化されたオブジェクトについて

オブジェクトを最大化すると、キャンバスのフルサイズに展開されます。オブジェクトの詳細テーブルが表示されます。

オブジェクトが最大化されている間は、**データ**ペインでレポートのレイアウトを変更したり、オブジェクトを追加したり、データアイテムを変更することはできません。右ペイン(オプション、役割、アクションなど)を使用して、最大化されたオブジェクトに変更を加えることができます。

注: 最大化モードは、変更を保存してレポートを閉じると自動的に終了します。

最大化モードに入る

オブジェクトを最大化するには、オブジェクトツールバーのをクリックします。または、ショートカット Alt+F11 を使用して、選択したオブジェクトを最大化するか、オブジェクトを右クリックして**ビューの最大化**を選択します。

最大化モードを終了する

最大化モードを終了するには、オブジェクトツールバーのをクリックします。または、ショートカット Alt+F11 を使用して最大化モードを終了するか、オブジェクトを右クリックして**ビューの復元**を選択します。

オブジェクトの要約を生成

SAS Visual Analytics の SAS Viya Copilot の生成 AI 機能を使用して、レポート内の一部のオブジェクトの要約を生成できます。要約では、トレンド、相関、周期的なパターン (季節性)、潜在的な外れ値などのインサイトを提供することができます。

次のオブジェクトは、生成されたオブジェクトの要約をサポートしています。

- 棒グラフ
- バタフライチャート
- 二軸の棒グラフ
- 二軸の棒-折れ線グラフ
- 二軸の折れ線グラフ
- 二軸の時系列グラフ
- 折れ線グラフ
- 円グラフ
- 散布図
- ターゲット棒グラフ

■ 時系列

オブジェクトの要約を生成するには、要約をサポートするオブジェクトを右クリックし、**グラフの要約を生成**を選択します。要約がポップアップウィンドウに表示されます。

SAS Graphics Accelerator でのオブジェクトの表示

SAS Graphics Accelerator とは

一部の種類のグラフオブジェクトは SAS Graphics Accelerator で表示できます。

SAS Graphics Accelerator は、Google Chrome の拡張であり、視覚障害を持つユーザーがデータビジュアルを探索することを可能にします。拡張されたビジュアルレンダリング、テキストの説明、表形式のデータ、インタラクティブなソニフィケーションなど、データビジュアルの別のプレゼンテーションをサポートします。ソニフィケーションは、ノンスピーチオーディオを使用して、グラフに関する重要な情報を伝えます。

インストール

SAS Graphics Accelerator のインストールの詳細については、<http://support.sas.com/software/products/graphics-accelerator/index.html> を参照してください。

サポートされるオブジェクトの種類

次のオブジェクトの種類で SAS Graphics Accelerator がサポートされます。

- 棒グラフ
- バブルプロット
- 折れ線グラフ
- 時系列プロット
- 円グラフ
- 散布図

SAS Graphics Accelerator を使用したオブジェクトの表示

SAS Graphics Accelerator を使用してオブジェクトを表示するには、オブジェクトの **⋮** を選択して、**SAS Graphics Accelerator で表示する** を選択します。

SAS Graphics Accelerator は、新しい Google Chrome タブにオブジェクトを表示します。

SAS Graphics Accelerator タブには、[SAS Graphics Accelerator: User's Guide](#) へのリンクが含まれます。

オブジェクト内のデータの特徴の説明

すべてのオブジェクトに対して、ポップアップウィンドウでデータアイテムの特性を説明できます。ポップアップウィンドウに表示される要約の記述は、自動説明に表示される記述と同一です(“[自動説明オブジェクトの操作](#)” (92 ページ)を参照)。

オブジェクトに割り当てられているデータアイテムを説明するには、次のいずれかの操作を行えます。

- 説明するデータアイテムのラベルを右クリックして、**data-item-name の説明** を選択します。
- オブジェクトを右クリックして、**データの説明** ⇨ **data-item-name** を選択します。

新しい自動説明オブジェクトをレポートに追加するには、ドロップダウンリストから次のオプションのいずれかを選択します。

新しいページに詳細説明を追加

レポートに自動説明オブジェクトを含む新しいページを作成します。この自動説明オブジェクトは、デフォルトのビジュアル要素をすべて表示します。

現在のページに詳細説明を追加

レポートの現在のページに自動説明オブジェクトを追加します。この自動説明オブジェクトは、デフォルトのビジュアル要素をすべて表示します。

新しいページに説明概要を追加

レポートに自動説明オブジェクトを含む新しいページを作成します。この自動説明オブジェクトは、要約テキストのみを表示します。

現在のページに説明概要を追加

レポートの現在のページに自動説明オブジェクトを追加します。この自動説明オブジェクトは、要約テキストのみを表示します。

Web コンテンツの操作

Web コンテンツについて

Web コンテンツオブジェクトでは、インラインフレーム(IFrame)に Web ページまたは埋め込み動画コンテンツを表示します。

注: 一部の Web コンテンツは、インラインフレームで表示できないように設定されています。このコンテンツは Web コンテンツオブジェクトに表示することはできません。

Web コンテンツオブジェクトの作成

Web コンテンツオブジェクトをレポートに挿入するには、次の操作を行います。

- 1 **Web コンテンツ**を**オブジェクト**ペインからキャンバスにドラッグします。
- 2 **オプション**ペインで、表示する **URL** を指定します。
- 3 (オプション)**URL を開く**をクリックして、新しいブラウザータブで URL を確認します。

イメージオブジェクトの操作

イメージについて

イメージを使用して、会社のロゴやその他のグラフィックをレポートに含めることができます。ローカルマシン、共有コンテンツ、または Web からイメージを挿入できます。イメージにツールチップテキストを追加することもできます。

データ役割、表示ルール、フィルター、ランクは、イメージオブジェクトではサポートされていません。

イメージのレポートへの挿入

- 1 **オブジェクト**ペインからキャンバスに**イメージ**オブジェクトをドラッグします。
- 2 オブジェクトの中央にある**イメージの選択**ボタンをクリックします。ポップアップウィンドウが表示されます。次のいずれかの方法を使用してイメージを選択します。
 - **URL** フィールドに、Web 上にあるイメージの URL を入力します。

ヒント **URL を開く**をクリックして、新しいブラウザータブで URL を確認します。

注: URL に認証が必要な場合は、印刷されなかったり、レポートの表示時に表示されなかったりすることがあります。かわりに、イメージをアップロードしてください。

- **SAS コンテンツから選択**フィールドで**参照**をクリックします。**開く**ウィンドウが表示されます。SAS Viya プラットフォームから共有イメージを選択して、**開く**をクリックします。
 - **ローカルイメージのアップロード**ラベルの下にある**参照**をクリックして、ローカルイメージを選択します。
- 3 (オプション)**オプション**ペインで、イメージのオプションを指定します。

イメージオプションの指定

- 1 キャンバス上で更新するイメージを選択します(選択していない場合)。
- 2 **オプション**ペインが表示されていない場合、をクリックします。
- 3 イメージの一般的なオプション(**名前**や**タイトル**など)を更新します。
- 4 イメージに固有のオプションを指定します。

URL

Web 上にあるイメージの URL を指定します。

ヒント **URL を開く**をクリックして、新しいブラウザータブで URL を確認します。

注: URL に認証が必要な場合は、印刷されなかったり、レポートの表示時に表示されなかったりすることがあります。かわりに、イメージをアップロードしてください。

SAS コンテンツから選択

SAS Viya プラットフォーム上のイメージの場所を指定します。**参照**をクリックして、**開く**ウィンドウを表示し、別のイメージを選択します。

ローカルイメージのアップロード

アップロードしたイメージの名前を指定します。[参照](#)をクリックして、別のローカルイメージを選択します。

ツールチップテキスト

イメージの上にポインターを移動したときに表示されるテキストを指定します。

サイズ調整の種類

ソースイメージがオブジェクトのサイズにどのようにスケーリングされるかを表示します。次のいずれかを選択します。

なし

イメージの実際のサイズは維持されます。イメージがイメージのオブジェクトの領域全体に塗りつぶされないことがあります。イメージがオブジェクトより大きい場合、スクロールバーが表示されます。

幅を合わせる

イメージの幅はイメージのオブジェクトの幅に設定されます。高さはイメージの元のアスペクト比を維持します。イメージの設定された高さがオブジェクトの入力値より大きい場合、スクロールバーが表示されます。

高さを合わせる

イメージの高さは、イメージのオブジェクトの高さに設定されます。幅はイメージの元のアスペクト比を維持します。設定されたイメージの幅がオブジェクトの幅より大きい場合、スクロールバーが表示されます。

幅と高さを合わせる

イメージは、イメージのオブジェクトに最も適合するように変更されます。イメージの元の縦横比が維持されます。

ウィンドウに合わせる

イメージの高さと幅はイメージのオブジェクトの高さと幅に設定されます。イメージの元の縦横比は維持されません。

タイル

イメージはオブジェクトにタイル表示されます。イメージの元のサイズが維持されます。スクロールバーはありません。

デフォルトでは、**ビューアーでの選択を有効化**オプションはイメージでは選択されていません。**ビューアーでの選択を有効化**が選択されていない場合、レポートを表示するユーザーはイメージを選択できません。

ウォーターフォールチャートの操作

ウォーターフォールチャートについて

ウォーターフォールチャート(進捗棒グラフとも呼ばれる)は、一連の操作または処理の間のメジャーの初期値の増減を示します。最初の棒は初期値を起点とし、後続の棒は、前の棒が終了した位置を起点とします。棒の長さや方向は、操作や処理の規模や種類(プラスまたはマイナスなど)を示します。

作成されるチャートは、増分的な変更によりメジャーの最終値がいかにして形成されるかを示す、段階的な棒グラフになります。

ウォーターフォールチャートのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ウォーターフォールチャートの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値はカテゴリの軸にプロットされます。1つのメジャーのみを割り当てることができ、メジャー値は応答軸にプロットされます。ウォーターフォールチャートにメジャーが含まれていない場合は、カテゴリ値の度数が応答軸にプロットされます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ウォーターフォールチャートのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側¹または右側²のどちらに表示するかを指定します。

固定ベースライン

グラフのベースライン値を指定します。

ベースラインのスタイル

ベースラインの種類、幅、および色を指定します。

スペーシング

棒の間のスペースのパーセンテージを指定します。デフォルトは 15%です。たとえば、**スペーシング**オプションに 80%の値を指定するとします。これにより、棒の間のスペースが増加し、棒が細くなります。

透過性

バーの透過性を指定します。

初期バー

初期値を持つバーをチャートに追加するかどうかを指定します。

選択した場合は、**値**フィールドに初期値を入力し、**ラベル**フィールドにカスタムラベルを入力できます。

最終 (通算) バー

最終の通算バーがチャートに追加されるかどうかを指定します。

選択した場合、**ラベル**フィールドにカスタムラベルを入力できます。バーの塗りつぶしの色を指定することもできます。

値の変化の方向により色付け

メジャー値が前の値から増加しているか減少しているかに基づいてバーに色付けするかどうかを指定します。

接続線

チャート内のバーを接続する線を引くかどうかを指定します。

選択した場合、線の種類、線の幅、および線の色を指定できます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

データラベル

データ値をチャート内にテキストラベルとして表示するかどうかを指定します。

選択すると、テキストフォント、テキストサイズ、テキストの色、およびテキストを太字にするか斜体にするかを指定できます。

また、ラベルがオーバーラップしないようにラベルの位置を自動的に調整するかどうかを指定するための**オーバーラップハンドリング**コントロールが表示されます。

オプションペインのスタイルヘッダーの下には、次のオブジェクト固有オプションがあります。

最初

初期バーが有効な場合、初期値のバーの色を指定します。

最終

最終 (通算) バーが有効な場合は、最終値の棒の色を指定します。

増加

増加する値を持つ棒の色を指定します。

減少

減少する値を持つ棒の色を指定します。

円グラフの操作

円グラフについて

円グラフは、全体と部分の関係を、単一のメジャーデータアイテムに基づきカテゴリデータアイテムの値ごとに複数のスライスに分割された円に表示します。各スライスは、全体に対する各要素の相対比率を示します。円グラフでは、凡例は寄与率によって並べ替えられます。

ヒント 円グラフの凡例を並べ替えるには、凡例ラベルを右クリックします。**並べ替え**を選択し、**昇順**または**降順**を選択します。

円グラフについての重要なポイントは次のとおりです。

- デフォルトのグラフのスタイルはドーナツグラフです。
- ドーナツ穴ラベルには、個々のスライスの応答値の合計が常に表示されます。
- 円グラフは負の値を表示できません。
- 割り当てられたデータソースに複製カテゴリがある場合、円グラフは表示されません。
- 円グラフには、応答が欠損しているかゼロのスライスは表示されません。
- 効果的な円グラフでは、スライスの数値が5または6に制限されます。SAS Visual Analytics では、ランクを使用して円グラフのスライスの数値を減らすことができます。詳細については、[“新しいランクの追加” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。
- 円グラフの“その他”スライスのツールチップには、カテゴリ名の“その他”と、スライスに含まれる応答の合計が常に表示されます。グループなどの追加変数は表示されません。

円グラフのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、[“データ役割の割り当ての操作” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

円グラフの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値は円グラフをスライス(セグメント)に分割します。複数のメジャーを割り当てることができ、メジャー値によってメジャー円の各スライスのサイズが決まります。円グラフにメジャーが含まれていない場合、カテゴリ値の度数によって円の中のスライスのサイズが決まります。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値ごとに個別の円グラフを作成します。**グループ化スタイル**オプションで選択した値に応じて、各グループ値の円グラフは、積み上げリングのセットまたは複数の別々のグラフとして表示されます。

グループの役割に関する重要なポイントは次のとおりです。

- オブジェクトに複数のメジャーを割り当てると、グループは使用できません。
- **グループ**役割を持つ円グラフでは、カスタムソートは使用できません。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、[“データチップ値データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: **アニメーション**データ役割が割り当てられたグラフをアクションのソースにすることができません。ただし、このアクションはモバイルデバイスでは無効になります。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、[“非表示データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

円グラフのオプション

全般オプションの詳細については、[“オプションペインの使用” \(24 ページ\)](#)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

グラフのスタイル

グラフを円グラフ(🍷)とドーナツグラフ(🍩)のどちらで表示するかを指定します。

ドーナツ穴ラベル

ラベルがドーナツグラフの中央に表示されるかどうかを指定します。ラベル値は、グラフ内のすべてのスライスの集計値です。ドーナツ穴ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体、またはその両方)、色を指定できます。

リングの幅

ドーナツグラフの中央にある穴のサイズを指定します。この幅は、ドーナツグラフの1つまたは複数のリングを描くために必要なスペースの量によって制限されます。デフォルトでは、ドーナツ穴は円グラフの合計サイズの70%であるため、デフォルトの**リングの幅値は30%**です。

開始点(度)

グラフのレイアウトを指定された値(度単位)でオフセットします。**開始点**オプションのデフォルト値は90度です。

方向

スライスを時計回りまたは反時計回りのどちらに配置するかを指定します。円グラフに単一の円が表示されている場合、スライスはメジャー値の降順で配置されます。円グラフに格子が含まれている場合、スライスはカテゴリ値の昇順で配置されます。

“その他” スライス

小さな値をまとめて“その他”というラベルのスライスにします。“その他”スライスの**最小パーセント**オプションは、このグループのしきい値を指定します。

注: 円グラフで**“その他” スライス**オプションを選択せず、カテゴリ固有のランクで他のすべてオプションを選択している場合は、ランクは表示されません。

“その他” スライスの最小パーセント

個別のスライスとして表示される重複しない値に対するしきい値のパーセントを指定します。指定されたパーセントよりも小さい値が複数ある場合、それらの値は“その他”というラベルの付いたスライスにグループ化されます。

ヒント 円グラフの“その他”スライスの色を変更するには、**オプションペインのスタイルヘッダー**の下にある**その他**オプションを使用します。

グループ化スタイル

グループデータ役割が割り当てられているとき、またはプロットに複数のメジャーが割り当てられているときの値の表示方法を指定します。

次のいずれかの値を選択します。

積み上げ

グループ値またはメジャーの円グラフを積み上げリングのセットとして表示します。

複合

グループ値またはメジャーの円グラフを複数の別々のグラフとして表示します。

グループラベルの背景色

グループ化スタイルに**複合**を選択したときに表示されるグループラベルの背景色を指定します。

円ラベル

円グラフの上とタイトルの下にメジャーの名前を表示します。円ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体、またはその両方)、色を指定できます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値1,142,571は1.1Mと省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

カテゴリラベル

グラフにカテゴリ値を表示します。

実績値

グラフにメジャー値を表示します。

合計のパーセント

グラフのメジャー値を合計のパーセントとして表示します。

データラベルのテキストスタイル

データラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体、またはその両方)、色を指定できます。

データラベルの場所

データラベルの配置場所を指定します。次のいずれかの値を選択します。

自動

利用可能なスペースに基づいてラベルを自動的に配置します。SAS Visual Analytics は最初にラベルをスライスの内側に配置しようとします。スライスの内側にラベルを配置するのに十分なスペースがない場合、ラベルはスライスの外側に配置されます。スペースが狭い場合、ラベルが完全に削除される場合があります。

ヒント 場所オプションで**自動**を選択してもグラフのラベルが表示されない場合は、**リングの幅**オプションを大きくしてみてください。幅の広いリングには、データラベル用のスペースがあります。

吹き出し

各ラベルをそれが表すスライスに接続する線を持つグラフの外側にラベルを配置します。

内側

グラフの各スライスの内側にラベルを配置します。

外側

ラベルをグラフの外側に配置します。

注: グループ化された円グラフでは、**吹き出し**と**外側**の選択はサポートされていません。

折れ線グラフの操作

折れ線グラフについて

折れ線グラフは、データ値を接続する線を使用してデータを表示します。折れ線グラフに複数のメジャーを割り当てると、メジャーごとに別々の Y 軸を作成できます。

折れ線グラフのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

折れ線グラフの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値はカテゴリの軸にプロットされます。多くのメジャーを割り当てることができ、メジャー値は応答軸にプロットされます。折れ線グラフにメジャーが含まれていない場合、カテゴリ値の度数は応答軸にプロットされます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。データ値ごとに別々の線が作成されます。

注: グラフに複数のメジャーを割り当てると、グループは使用できません。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: アニメーションデータ役割が割り当てられたグラフをアクションのソースにすることができます。ただし、このアクションはモバイルデバイスでは無効になります。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

折れ線グラフのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側¹または右側²のどちらに表示するかを指定します。

固定ベースライン

折れ線グラフのベースライン値を指定します。

注: このオプションは、グラフに別々の Y 軸が表示されている場合は使用できません。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

グループ化スタイル

複数のメジャーがグラフに割り当てられているときに使用されるスタイルオーバーレイを指定します。次のいずれかを選択します。

オーバーレイの塗りつぶしなし

色の塗りつぶしがない線を表示します。

オーバーレイの塗りつぶし - フェード

透過性のある色で塗りつぶされた線が表示されます。

オーバーレイの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。

積み上げの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。積み上げられた線の値は、グラフのベースラインではなく、下の線を基準にプロットされます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドするグループスタイルオーバーレイの自動塗りつぶしの色を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

線

グラフ内のデータポイント間に線を引くかどうかを指定します。このオプションを選択すると、線のスタイル、線の幅、および線の色を指定できます。

デフォルトでは、**線**チェックボックスが選択されており、変更することはできません。チェックボックスは、**マーカー**オプションが選択されている場合にのみクリアできます。

マーカー

グラフ内のデータポイントのマーカーを示します。このオプションを選択すると、マーカーの記号、サイズ、および色を指定できます。

データラベル

グラフのデータ値をテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

データ値の並べ替え

デフォルトでは、カテゴリデータの場合、折れ線グラフは降順に最初のメジャーの値で並べ替えられます。日時データの場合、グラフは昇順に日時値で並べ替えられます。並べ替えを変更するには、並べ替えるデータアイテムを右クリックして**並べ替え**を選択し、並べ替え方法を選択します。

キー値の操作

キー値について

キー値オブジェクトには1つ以上のキー値が表示され、各キー値にはメジャーの集計値が含まれます。

格子カテゴリが割り当てられていない場合、表示される集計値はデータクエリ全体に対するものです。たとえば、メジャーの集計が**合計**である場合、キー値はデータクエリ内のすべての値の合計を表示します。

格子カテゴリが割り当てられている場合、オブジェクトには、各カテゴリ値を表すキー値の格子が含まれます。

ヒント 最大または最小のカテゴリ値のみを表示するキー値オブジェクトを作成するには、**ランク**ペインのオブジェクトにランクを追加します。

キー値のデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

キー値の基本的なデータ役割は、メジャーと格子カテゴリです。メジャーは必須で、格子カテゴリはオプションです。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

キー値のオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

スタイル

キー値のスタイルを指定します。値を表示するには、**テキスト**を選択します。色付きの円内の値を表示するには、**インフォグラフィック**を選択します。

並べ替え

格子内のキー値の並べ替えを指定します。次のいずれかを指定します。

最上位のランク値

集計メジャー値の降順で格子を並べ替えます。

最下位のランク値

集計メジャー値の昇順で格子を並べ替えます。

アルファベット順

カテゴリ値のアルファベット昇順で格子を並べ替えます。

逆アルファベット順

カテゴリ値のアルファベット降順で格子を並べ替えます。

注: このオプションは、格子カテゴリがオブジェクトに割り当てられていない場合は無効です。

ハイライト

カテゴリ値またはメジャー値をハイライトするかどうかを指定します。ハイライトされた値は、より大きなフォントで表示されます。**テキスト**スタイルでは、ハイライトされた値がその他の値の上に表示されます。**インフォグラフィック**スタイルでは、ハイライトされた値が円の中央に表示されます。その他の値は、**追加情報**オプションで値を選択した場合にのみ表示されます。

インフォグラフィックスタイルの場合のみ、ハイライトされた値の**テキスト**スタイルオプションを指定できます。(テキストスタイルの場合、これらのオプションは別の場所で使用できます)。

位置

オブジェクト内のコンテンツの位置を指定します。

行の制限

格子列が割り当てられている場合、格子の最大行数を指定します。

列の制限

格子列が割り当てられている場合、格子の最大列数を指定します。

格子レイアウト

格子を列^列ごとに配置するか、行^行ごとに配置するかを指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

テキストスタイルを選択すると、次の追加オプションが使用できます。

配置

ラベルと値の配置を指定します。

メジャーラベル

メジャーラベルが表示されます。有効にすると、メジャーラベルのテキストスタイルオプションを指定できます。

メジャー値

メジャー値が表示されます。有効にすると、メジャー値のテキストスタイルオプションを指定できます。

格子カテゴリラベル

格子カテゴリラベルを表示します。有効にすると、カテゴリラベルのテキストスタイルオプションを指定できます。

格子カテゴリ値

格子カテゴリ値を表示します。有効にすると、カテゴリ値のテキストスタイルオプションを指定できます。

集計

メジャー値の集計が表示されます。有効にすると、集計ラベルのテキストスタイルオプションを指定できます。

インフォグラフィックスタイルを選択すると、次の追加オプションが使用できます。

追加情報

メジャー値に加えて表示する単一のラベルまたは値を指定します。有効にすると、ラベルまたは値のテキストスタイルオプションを指定できます。

円

円の色を指定します。

クロス表の操作

クロス表について

クロス表は、カテゴリ値とメジャー値のインターセクションをテキストとして表示します。クロス表にメジャーが含まれている場合、クロス表の各セルには、カテゴリ値のインターセクションの指定のために集計メジャー値が含まれます。クロス表にメジャーが含まれていない場合、クロス表の各セルにはカテゴリ値のインターセクションの度数が含まれます。

クロス表の**オプション**ペインで適切なチェックボックスをオンにすると、合計と小計のパーセントを表示できます。クロス表で、列の合計、行の合計のパーセント、列の小計のパーセント、行の小計のパーセントを表示できます。詳細については、“[クロス表の計算の作成と追加](#)” (69 ページ)を参照してください。

列にはより低いカーディナリティ (より少数の重複しない値) カテゴリを、行にはより高いカーディナリティ (より多数の重複しない値) カテゴリを配置することを検討する必要があります。特にテーブルに複数のカテゴリデータアイテムが含まれている場合に、クロス表を使用すると可読性を向上させることができます。

デフォルトでは、クロス表にメジャー値がない場合にのみ度数が表示されます。カテゴリデータアイテムを最初に追加すると、度数列が自動的に追加されます。メジャーデータアイテムを追加すると、度数列は自動的に追加したメジャーに置き換えられます。メジャーデータアイテムを最初に追加すると、度数列は手動で追加した場合にのみ追加されます。

メジャーデータアイテムを使用するクロス表の列にセルのビジュアル (棒グラフまたはヒートマップ) を追加できます。詳細については、“[クロス表にセルのビジュアルを追加](#)” (70 ページ)を参照してください。

クロス表に関する重要なポイントは次のとおりです。

- クロス表で合計と小計のリンクされた選択を作成することができます。
- クエリが大きすぎると、クロス表にデータが表示されません。
- クロス表では行にメジャーを配置できます。
- 自動タイトルはクロス表では使用できません。ただし、カスタムタイトルを指定することはできます。
- クロス表では、ピリオド(.)は欠損値を示します。水平線(-)は、データソースで観測されない、または見られないカテゴリ値の組み合わせを示します。

クロス表のデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

クロス表の基本的なデータ役割は、列、行およびメジャーです。各列と行の役割には、単一の階層または任意の数値のカテゴリを割り当てることができます。クロス表にメジャーを割り当てると、メジャー値がクロス表のセルに表示されます。メジャーを割り当てないと、クロス表のセルに値の各インターセクションの度数が表示されます。

クロス表のオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ) を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

罫線

クロス表に罫線を追加します。

省略表記の数値

大きなメジャー値が省略表記の数値を使用することを指定します。たとえば、**1,100,000,000** は **1.1B** と表示されます。省略表記の数値を使用する列を指定できます。

インデント

クロス表のインデントされたレイアウトを選択します。

注: インデントされたレイアウトでは、小計は常に有効です。

行ヘッダーのスタイル

行ヘッダーのフォント、フォントサイズ、フォントスタイル、フォントの色を指定します。

行ヘッダーの背景

行ヘッダーの背景の色を指定します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

列ヘッダーのスタイル

列ヘッダーのフォント、フォントサイズ、フォントスタイル、フォントの色を指定します。

列ヘッダーの背景

列ヘッダーの背景の色を指定します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

メジャーヘッダーの配置

クロス表内の行にメジャーを配置することができます。(デフォルトでは、クロス表の列にメジャーが配置されます。)

メジャーヘッダーのスタイル

メジャーヘッダーのフォント、フォントサイズ、フォントスタイル、フォントの色を指定します。

メジャーヘッダーの背景

メジャーヘッダーの背景の色を指定します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

欠損ラベルを空白として表示

列ラベルがない場合は空白を表示します。デフォルトでは、列ラベルがない場合(**missing**)として表示されます。

列を幅に合わせる

使用可能なスペースに基づいてクロス表の列のデフォルト幅を設定します。このオプションはデフォルトで選択されています。

水平線

クロス表の行の水平線を表示します。

垂直線

クロス表の列の垂直線を表示します。このオプションはデフォルトで選択されています。

行番号

クロス表の行の番号を表示します。

ヘッダー

クロス表の行番号列のヘッダーを追加します。デフォルトでは、自動列ヘッダーは **Row** です。

別のヘッダーテキストを使用するには、**カスタム**をクリックして、フィールドにテキストを入力します。自動ヘッダーに戻すには、**自動**をクリックします。

番号の再開

クロス表で、最初の列で使用されているデータアイテムの各カテゴリ値を含む場合に、行の番号を再開します。

行の高さを詰める

クロス表内のすべての行の余分な空白を削除します。このオプションはデフォルトで選択されています。

テキストスタイル

クロス表のセルのフォント、フォントサイズ、およびフォントの色を指定します。

背景

クロス表のすべてのセルの背景色を表示します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

一行おきの背景

一行おきの背景の色を指定することができます。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、一行おきの背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

注: レポートでカスタムレポートテーマを使用している場合は、そのレポートテーマの色が一行おきの背景に使用されます。

ヒント このオプションを使用すると、クロス表内の一行おきの背景色を削除できます。

セルのビジュアル

セルのビジュアル(棒グラフまたはヒートマップ)を単一のセルに追加できます。詳細については、["クロス表にセルのビジュアルを追加" \(70 ページ\)](#)を参照してください。

合計

各列、各行またはその両方に合計を追加します。合計が必要なカテゴリまたはメジャーデータアイテムのチェックボックスを選択またはクリアすることができます。

合計について重要なポイントを次に示します。

- 合計値は、各メジャーの集計に基づいて集計されます。

- クロス表の特定の行または列の合計値がすべてオフになっている場合、その行または列は表示されません。

テキストスタイル

クロス表の合計のフォント、フォントサイズ、フォントスタイル、フォントの色を指定します。

背景

クロス表の合計の背景色を表示します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

小計

最初のノードの後に行軸上の各ノードの小計を各列、各行またはその両方に追加します。小計が必要なカテゴリまたはメジャーデータアイテムのチェックボックスを選択またはクリアすることができます。

小計について重要なポイントを次に示します。

- インデントされたレイアウトでは、小計は常に有効です。
- クロス表の特定の行または列の小計値がすべてオフになっている場合、その行または列は表示されません。

テキストスタイル

クロス表の小計のフォント、フォントサイズ、フォントスタイル、フォントの色を指定します。

背景

クロス表の小計の背景色を表示します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

配置

合計と小計の位置を指定します。**前**を選択して、軸のヘッダーの前に合計と小計を配置します。軸のヘッダーの後に合計と小計を配置するには、**後**を選択します。

注: インデントされたレイアウトでは、合計は常に軸ヘッダーの前に配置されます。

クロス表の行と列の管理

カテゴリとメジャーの並べ替え

クロス表でメジャー値順に並べ替えるには、列または行ヘッダーを右クリックします。カテゴリ名を右クリックして、メジャーではなくカテゴリを並べ替えることもできます。

ヒント メニューオプションは、クロス表のどこを右クリックしたかによって異なります。並べ替えるカテゴリまたはメジャーを右クリックするようにしてください。

詳細については、「[クロス表内のデータの並べ替え](#)」(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

行と列の再配置

データ役割ペインで、行または列をクリックして、リスト内の新しい位置にドラッグします。

オプションペインの列を幅に合わせるオプションが選択されていると、クロス表の空の列が削除されます。(デフォルトで、このオプションは選択されています。)

列のサイズ変更

列のサイズを変更するには、クロス表でその列をクリックし、列ヘッダーの左端または右端をドラッグします。

行番号の追加または再開

クロス表に行番号を追加するには、オプションペインを使用します。セルヘッダーの下にある行番号チェックボックスを選択します。デフォルトでは、行番号の列にはヘッダーはありません。ヘッダーを追加するには、ヘッダーチェックボックスを選択します。

クロス表に行番号がある場合は、番号の再開オプションを選択することで、クロス表に表示される最初の列で使用されているデータアイテムのカテゴリ値に基づき行番号が再開されます。たとえば、さまざまな種類の車両に関する情報を提供するクロス表があるとします。最初の列のデータアイテムは、車両が生産された地域(ヨーロッパ、米国、またはアジア)を示します。番号の再開オプションを選択すると、次の例に示すように、生産国に基づき行番号が再開されます。

図1 番号の再開オプションが選択されたクロス表

Origin ▲	Type ▲	行	MPG (City)	MPG (Highway)	MSRP ▼
Europe	Sedan	1	1522	2115	\$3,353,380
	Sports	2	406	578	\$1,655,970
	SUV	3	145	187	\$483,460
	Wagon	4	231	319	\$454,215
USA	Sedan	1	1855	2569	\$2,307,495
	SUV	2	388	501	\$864,730
	Truck	3	253	328	\$435,524
	Sports	4	152	218	\$407,315
	Wagon	5	156	208	\$156,420
Asia	Sedan	1	2147	2817	\$2,139,813
	SUV	2	433	542	\$739,225
	Sports	3	344	453	\$552,681
	Wagon	4	246	310	\$254,581
	Truck	5	143	176	\$163,069
	Hybrid	6	165	168	\$59,760

クロス表で階層を作成および追加する

2 つ以上のカテゴリデータアイテムがクロス表に割り当てられている場合、階層を行または列として作成および追加できます。たとえば、クロス表に、データ役割に割り当てられた **Region**、**State**、および **City** データアイテムがすでにあるとします。これらのカテゴリヘッダーのいずれかを右クリックして、クロス表の行または列として階層を作成および追加できます。

- 1 クロス表を選択します。
- 2 カテゴリヘッダーを右クリックして、**階層を行に作成および追加**または**階層を列に作成および追加**のいずれかを選択します。

新しい階層によって行または列のデータアイテムが置き換えられ、データアイテムはクロス表の行または列と同じ順序で階層内で順序指定されます。新しい階層の名前は、クロス表の行または列にある順序でのデータアイテムの名前に基づいています。前の例を使用すると、新しい階層の名前は **Region - State - City** になります。

クロス表の計算の作成と追加

合計またはカウントの集計を持つデータアイテムの行または列の小計の合計またはパーセントを作成できます。これらの派生データアイテムは、クロス表でのみ使用できます。

計算を作成するオプションは、集計メジャー(度数を含む)でない限り、メジャーデータアイテムで使用できます。度数は、生成されたデータ項アイテムであるため、計算には使用できません。

ヒント 度数と同等のデータアイテムを作成し、計算で使用できます。ターゲットメジャーを複製し、集計をカウントに変更して、データアイテムをクロス表に割り当ててから、このメジャーを使用する計算を作成することをお勧めします。

これらの計算は、クロス表で使用できます。

列合計のパーセントまたは行合計のパーセント

基本となるデータアイテムの合計値のパーセントを表示します。合計のパーセントを作成できるのは、ソースデータアイテムが合計またはカウントの集計を含んでいる場合のみです。たとえば、収益値を含むメジャーに関する合計値のパーセントを作成できます。

注: カテゴリが行に割り当てられている場合は、**列合計のパーセント**オプションが使用可能です。カテゴリに列が割り当てられている場合は、**行合計のパーセント**オプションを使用できます。

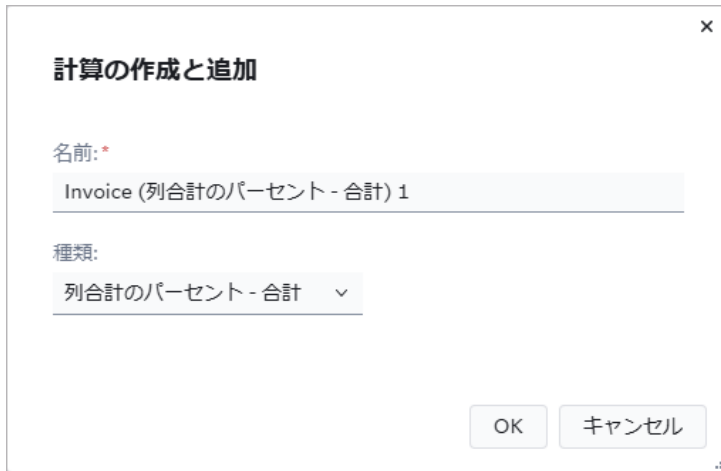
列小計のパーセントまたは行小計のパーセント

ベースとなるメジャーに関する小計値のパーセントを表示します。小計のパーセントを作成できるのは、ソースデータアイテムが合計またはカウントの集計を含んでいる場合のみです。

注: クロス表の行または列に階層または複数のカテゴリが割り当てられている場合は、小計オプションのパーセントが使用できます。

計算を作成して追加するには、次の操作を行います。

- 1 列のヘッダーを右クリックし、**計算の作成と追加**を選択します。**計算の作成と追加**ウィンドウが表示されます。



- 2 名前を指定します。
- 3 種類を選択します。使用可能な種類は、選択した列によって異なります。
- 4 **OK**をクリックします。計算が**データペイン**に追加されます。ただし、クロス表にのみ割り当てることができます。

クロス表にセルのビジュアルを追加

クロス表の列にセルのビジュアルを追加できます。(2020.1 リリース以前では、クロス表のセルのビジュアルはセルグラフと呼ばれていました。)クロス表のデータソースには、セルのビジュアルを追加する前に少なくとも1つのメジャーデータアイテムが含まれている必要があります。

セルのビジュアル(棒グラフまたはヒートマップのいずれか)は、単一のセルに収まり、列の各行に対して繰り返されます。棒グラフの場合、各棒のサイズはその列内の相対値になります。ヒートマップの場合、各セルは列の相対値に従って色付けされます。

セルのビジュアルを追加するには、次の操作を行います。

- 1 更新するクロス表を選択します。
- 2 メジャーデータアイテムを含む列または列のヘッダーを右クリックし、**セルのビジュアルの追加**を選択します。次に、**棒**または**ヒートマップ**を選択します。棒グラフまたはヒートマップが自動的に列に追加されます。
- 3 (オプション)**オプションペインのセルのビジュアル**のヘッダーの下にあるセルのビジュアルオプションを変更します。棒グラフの場合は、棒の色とテキストの配置を変更できます。ヒートマップの場合、使用される色のグラデーションを変更することができます。

ヒント セルのビジュアルで表される数値を確認することが難しい場合は、**省略表記の数値** オプションを選択して、大きなメジャー値を省略表記の数値に置き換えます。

- 4 (オプション)セルのビジュアルの列を並べ替えます。詳細については、“[クロス表内のデータの並べ替え](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

次に、セルのビジュアルを含む単純なクロス表を含むレポートの例を示します。Expenses 列には棒グラフが含まれ、Profit 列にはヒートマップが表示されます。Expenses 列には、**省略表記の数値**オプションが使用されています。クロス表は、ヒートマップのセルのビジュアルを持つ Profit 列で並べ替えられます。

ページ 1 : +

Facility Region ▲	Revenue	Expenses	Profit ▲
North	3,763,014	594万	-2,177,043
East	1,744,780	303万	-1,282,762
South	11,343,754	990万	1,442,068
West	22,264,808	915万	13,114,719

ゲージの操作

ゲージについて

ゲージは、実際の値とターゲット値を比較するダッシュボードインジケターです。

ゲージの表示は、**形**および**スタイル**オプションの選択によって異なります。

ゲージのスケールとゲージ上の色付きデータ範囲は、表示ルールによって制御されます。これらのプロパティを変更するには、ゲージの表示ルールを編集します。

ゲージのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ゲージの基本的なデータ役割はメジャーです。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

ターゲット

ゲージのターゲット値を指定します。

グループ

選択したカテゴリの値ごとに別々のゲージを作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、[“データチップ値データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、[“非表示データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

ゲージのオプション

全般オプションの詳細については、[“オプションペインの使用” \(24 ページ\)](#)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

形

ゲージの全体的な形を指定します。次のいずれかを選択します。

弧

ゲージを 120 度の弧として表示します。

ダイヤル

ゲージを 270 度の弧として表示します。

ハーフダイヤル

ゲージを 180 度の弧として表示します。

フルダイヤル

ゲージを完全な円として表示します。

横線

ゲージを横長の長方形として表示します。

縦線

ゲージを縦長の長方形として表示します。

スタイル

ゲージ上でのデータの表示方法を指定します。次のいずれかを選択します。

ビュレット

メジャー値を棒として表示します。

スピードメーター

メジャー値をニードル(矢印)インジケーターで表示します。

サーモメーター

ゲージの背景に色を付けてメジャー値を表示します。

進捗インジケーター

フルゲージ形状のフラグメントとしてメジャー値を表示します。

アクティブ範囲のみ

ニードル(矢印)インジケーターでメジャー値を表示し、値範囲を狭めます。

カスタム

ゲージでのデータの表示方法をカスタマイズできます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

インジケーター

メジャー値のインジケーターの種類を指定します。

注: このオプションは、**スタイルオプション**で**カスタム**を選択した場合にのみ使用できます。

範囲比率

ゲージの値範囲のサイズをパーセンテージで指定します。

注: このオプションは、**スタイルオプション**で**カスタム**を選択した場合にのみ使用できます。

アクティブな色のみ表示

メジャー値を含む値範囲の色のみを表示します。その他の値範囲はグレースケールで表されます。

注: このオプションは、**スタイルオプション**で**カスタム**を選択した場合にのみ使用できます。

範囲の配置

ゲージの値範囲が表示される場所を指定します。

注: このオプションは、**スタイルオプション**で**カスタム**を選択した場合にのみ使用できます。

値ラベル

実際の値をゲージの数値として表示するかどうかを指定します。

範囲ラベル

ゲージの目盛りのラベルが表示されるかどうかを指定します。

ターゲットラベル

ターゲット値のラベルを表示するかどうかを指定します。

格子セル制限

グループの役割が割り当てられている場合に配置されるゲージの最大数値を指定します。

行の制限

グループの役割が割り当てられている場合に配置される行の最大数値を指定します。

列の制限

グループの役割が割り当てられている場合に配置される列の最大数値を指定します。

格子レイアウト

格子を列^{↓↓}ごとに配置するか、行[→]ごとに配置するかを指定します。

注: このオプションは、**グループ**の役割が割り当てられていない場合は無効です。

コンテナの操作

コンテナオブジェクトについて

コンテナを使用して、その他のオブジェクトやプロンプトをグループ化することができます。各コンテナの種類は**オブジェクトペイン**から使用可能です。スクロールコンテナと標準コンテナは新規です。

次の種類のコンテナが利用できます。

精度コンテナ

コンテナ内のオブジェクトの配置、整列およびサイズを変更できます。種類が精度の場合、オブジェクトを重ね合わせることができます。

デフォルトでは、レイアウトガイドは、精度コンテナでコンテンツを移動またはサイズ変更するときに表示されます。レイアウトガイドを無効にするには、レポートツールバーの[⋮]をクリックし、**インターフェイスオプション** ⇨ **レイアウトガイドの無効化**を選択します。

精度の種類を使用すると、コンテナ内のオブジェクトの奥行を操作できます。操作するオブジェクトのツールバーにある[⋮]をクリックし、**前へ送る**または**後ろへ送る**を選択します。

精度コンテナ内のオブジェクトを整列させるには、2つ以上のオブジェクトを選択し(Ctrl キーを押しながら各オブジェクトをクリック)、レポートツールバーから[≡]を選択して整列オプションにアクセスします。

精度コンテナ内にネストされているコンテナにオブジェクトを出し入れするには、Alt キーを押しながらオブジェクトをドラッグします。たとえば、精度コンテナ内に積み上げコンテナと棒グラフがある場合は、Alt キーを押しながら棒グラフをドラッグすると、棒グラフを積み上げコンテナに移動できます。

ヒント レイアウトオプションを使用してオブジェクトのサイズと位置を指定する場合は、ドロップダウンリストから値を選択するのではなく、特定のパーセント値を入力できます。

プロンプトコンテナ

プロンプトコントロールをグループ分けします。プロンプトコンテナ内には、コントロールオブジェクトのみを配置できます。プロンプトコンテナ内のオブジェクトは、他のオブジェクトと同じルールでフィルタリングされます。

プロンプトコンテナは、キャンバスのレポートプロンプトエリアとページプロンプトエリアに追加できます。キャンバスのコンテンツ領域に追加することもできます。

スクロールコンテナー

スクロールバー付きの**フロー**レイアウトでコンテンツを表示します。各オブジェクトがコンテナー領域全体に表示されるため、他のオブジェクトを表示するにはスクロールします。垂直レイアウトまたは水平レイアウトのいずれかを選択できます。

積み上げコンテナー

オブジェクトをスライダーデッキ形式のように表示します。一度に表示できるオブジェクトは1つのみです。積み上げコンテナーには、オブジェクト間の移動に使用するコントロールバーがあります。

標準コンテナー

複数のオブジェクトを一度に表示できる**フロー**レイアウトでコンテンツを配置します。可能であれば、スクロール不要で複数のオブジェクトと一緒に表示できるように、コンテンツのサイズが変更されます。

ヒント コンテンツを含むコンテナーを選択するには、**アウトライン**ペインを使用するか、**オプション**ペインの上部にあるドロップダウンリストを使用します。

コンテナーオプションの指定

- 1 まだ選択されていない場合は、**アウトライン**ペインから更新するコンテナーを選択します。
- 2 **オプション**ペインが表示されていない場合、をクリックします。
- 3 **名前**や**タイトル**など、コンテナーの一般的なオプションを更新します。
- 4 コンテナーのオブジェクト固有のオプションを更新します。コンテナーのオプションの詳細は次のとおりです。
 - コンテナーの種類が**プロンプト**でない場合、デフォルトでは**ビューアー**での**選択を有効化**オプションが選択解除されています。モバイルデバイスを使用するユーザーがコンテナーを選択できるようにするには、このオプションを選択し、①をクリックして、コンテナー名と受信フィルター情報を確認します。
 - コンテナーの種類が**フロー**の場合、**方向**オプションで、コンテナーのコンテンツの配置を横にするか縦にするかを指定します。**スクロールバーを使用しない**オプションでは、スクロールの必要性を減らすためにコンテンツのサイズを変更する(**コンテンツのサイズをコンテナーに合わせる**)か、コンテナーのサイズを変更する(**コンテナーのサイズをコンテンツに合わせる**)かを指定します。

注: スクロールコンテナーの**スクロールバーを使用しない**を有効にすると、オブジェクトの種類が**標準コンテナー**に変更されます。標準コンテナーの**スクロールバーを使用しない**を無効にすると、オブジェクトの種類が**スクロールコンテナー**に変更されます。

注: コンテナーのレイアウトオプションは、コンテナー内のオブジェクトのレイアウトオプションと相互に作用します。特に、**必要に応じて幅を縮める**および**必要に応じて高さを縮める**オプションは、コンテナー内のオブジェクトのレイアウトに影響を与える可能性があります。

- コンテナの種類が**積み上げ**の場合、**ボタンの種類**オプションはコントロールバーの表示を変更し、**配置**オプションはコントロールバーの位置を変更します。
- プロンプトコンテナの場合は、プロンプトコンテナ内のドロップダウンリストの**ボタンテキスト**を指定できます。**値の自動適用**オプションは、デフォルトで選択されています。**値の自動適用**チェックボックスをクリアにすると、変更を適用またはキャンセルするまで、プロンプトコンテナとの間でアクションを行うことはできません。

コントロールの操作

コントロールについて

コントロールは、現在表示しているデータの範囲をフィルタリングまたは絞り込むオブジェクトです。コントロールを使用すると、選択したカテゴリでデータをグループ化し、表示するグループを選択できます。メジャーに基づくコントロールを使用すると、データの範囲を選択できます。たとえば、販売するすべての商品について、*Units Sold* というデータアイテムがあるとします。スライダーコントロールを使用して、ユーザーが販売された単位の範囲を選択できるようにすることができます。

データアイテムをコントロールにドラッグすると、コントロールはそのデータアイテムに基づいてグループを作成します。たとえば、製造元が製造するすべてのモデルを含む *Cars* というデータアイテムがあるとします。*Cars* データアイテムをドロップダウンリストにドラッグすると、コントロールが車両モデルをグループ化し、フィルターとして使用する車両モデルを選択できます。コントロールは、アクションを含むレポートで使用できます。

各コントロールの種類の定義と画像については、[“オブジェクトの紹介” \(SAS Visual Analytics: リファレンス\)](#)を参照してください。

SAS Visual Analytics はレポートがレンダリングされたときに、コントロールの高さと幅を自動的に計算します。これにより、さまざまな画面サイズでレポートの移植性が向上します。たとえば、リストコントロールの高さは、1 画面でレポートの高さの 10%、別の画面でレポートの高さの 5% になる場合があります。コントロールを常に任意の画面でレポートの高さと幅の固定割合にする場合は、**オプションペインで幅を指定と高さを指定**オプションを使用できます。

注: 一部のコントロール(ボタンバーなど)にはキャンバス上に自動的に計算された幅がありません。ただし、これらのコントロールは、プロンプトコンテナ内に幅があります。

コントロールを使用したフィルタリングに関する重要なポイントは次のとおりです。

- フィルターは AND 演算子を使用します。
- フィルターは別々の手順で適用されます。
- フィルターの結果は、コントロールで使用されるデータの種類の影響を受けます。
- カテゴリデータアイテムが割り当てられたスライダーコントロールには、ランクはありません。
- 固定範囲スライダーは、フィルターのターゲットにできません。

- パラメーターリンクを使用してコントロールを複製する場合、パラメーターは 1 つのコントロールのみからその値を取得するため、パラメーターリンクは元のコントロールからコピーされません。

SAS Visual Analytics ではプロンプトが表示され、レポートを閲覧している人は、レポートまたはオブジェクトのページ内のオブジェクトをフィルタリングするための値を選択できます。利用可能なプロンプトの種類は次のとおりです。

レポートプロンプト

キャンバスの上の特殊領域に配置されるコントロール。レポートプロンプトは、オブジェクトがレポートプロンプトコントロールと同じデータソースを使用しているか、レポートプロンプトのデータソースとレポート内のオブジェクト間にデータソースマッピングがある限り、その他のすべてのオブジェクトを自動的にフィルタリングします。詳細については、“[コントロールを使用してレポートプロンプトを作成する](#)” (83 ページ)を参照してください。

ページプロンプト

キャンバスの上位の特別な行領域に配置されるコントロール。ページプロンプトは、オブジェクトがページプロンプトコントロールと同じデータソースを使用しているか、ページプロンプトのデータソースとレポート内のオブジェクト間にデータソースマッピングがある場合、同じページのその他のすべてのオブジェクトを自動的にフィルタリングします。詳細については、“[コントロールを使用してページプロンプトを作成する](#)” (85 ページ)を参照してください。

ヒント プロンプトが左側または右側に配置されている場合、プロンプトエリアにリストコントロールを直接追加できます。リストコントロールでプロンプトを作成するには、プロンプトエリアにプロンプトコンテナーを配置してから、プロンプトコンテナーにリストコントロールを追加します。

キャンバスのメイン領域には、ページのプロンプト行の下に任意のコントロールを配置できます。これらのコントロール(ソースオブジェクトとして)と 1 つ以上のターゲットオブジェクト間の明示的なアクション(**アクションペイン**を使用)を定義する必要があります。アクションの詳細については、“[レポートアクションの概要](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

コントロールのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

一般に、コントロールの基本的なデータ役割は、カテゴリデータアイテムとメジャーデータアイテムです。詳細については、“[データアイテムについて](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

すべてのコントロールがパラメーターをサポートしています。詳細については、“[レポート内のパラメーターの概要](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ヒント テキスト入力コントロールとスライダーコントロールの場合、すべてのデータ役割を空のままにして、コントロールにパラメーターリンクを割り当てることができます。これは数値と文字のパラメーターでのみサポートされます。

これらのデータ役割を割り当てます。

ボタンバーコントロール

カテゴリとメジャー。カテゴリデータアイテムが必要です。

ドロップダウンリストコントロール

カテゴリとメジャー。カテゴリデータアイテムが必要です。

リストコントロール

カテゴリとメジャー。カテゴリデータアイテムが必要です。

スライダーコントロール

メジャー/日付。メジャーまたは日付データアイテムが必要です。

テキスト入力コントロール

カテゴリとメジャー。カテゴリデータアイテムが必要です。メジャーを指定すると、値を入力するときに、一致する値の横にそのメジャーの集計値が表示されます。

ボタンバー、ドロップダウンリスト、リスト、テキスト入力コントロールで、次の追加役割を指定できます。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、[“非表示データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

コントロールのオプション

全般オプションの詳細については、[“オプションペインの使用” \(24 ページ\)](#)を参照してください。

ボタンバーコントロール

必須

ユーザーがコントロール内で選択を行うように指定します。

方向

ボタンバーが縦↑または→かどうかを指定します。デフォルトで、横オプションは選択されていません。

初期値

コントロールの初期(デフォルト)値を指定します。初期値は、ユーザーが初めてレポートを開いたとき、またはユーザーが**デフォルトのレポート状態を復元**を選択したときに選択されます。

テキストフィールドに値を入力するか、次のいずれかを指定します。

自動

レポートを保存するときに、選択内容が初期値として保存されることを指定します。

第 1

コントロールの最初の値が初期値であることを指定します。

parameter-name

選択したパラメーターの値がコントロールの初期値であることを指定します。

適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

初期値がデータクエリになく(フィルターなどの理由で)、コントロールが必要ない場合、コントロールには初期値がありません。コントロールが必要な場合は、最初の値が初期値として選択されます。

背景の色

コントロールの背景色を指定します。

選択時の背景の色

選択したボタンの背景色を指定します。

選択した文字の色

選択されたボタンのテキストの色を指定します

ドロップダウンリストコントロール

必須

ユーザーがコントロール内で選択を行うように指定します。

初期値

コントロールの初期(デフォルト)値を指定します。初期値は、ユーザーが初めてレポートを開いたとき、またはユーザーが**デフォルトのレポート状態を復元**を選択したときに選択されます。

テキストフィールドに値を入力するか、次のいずれかを指定します。

自動

レポートを保存するときに、選択内容が初期値として保存されることを指定します。

第 1

コントロールの最初の値が初期値であることを指定します。

parameter-name

選択したパラメーターの値がコントロールの初期値であることを指定します。

適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

初期値がデータクエリになく(フィルターなどの理由で)、コントロールが必要ない場合、コントロールには初期値がありません。コントロールが必要な場合は、最初の値が初期値として選択されます。

背景の色

コントロールの背景色を指定します。

リストコントロール

必須

ユーザーがコントロール内で選択を行うように指定します。

複数選択を許可

リスト内で複合選択が有効になっていることを指定します。**複数選択を許可**チェックボックスをクリアにすると、チェックボックスのかわりにラジオボタンが表示され、**必須**オプションが自動的に適用されます。

検索を許可

ユーザーがレポートを編集または表示しているときに、検索フィールドがリストの最上部に表示されるように指定します。検索では、検索基準に一致する使用可能なデータアイテムが表示されます。ただし、検索では、リスト内のデータアイテムの選択や選択解除は行われません。

すべて選択またはすべてクリアを許可

ユーザーがレポートを編集または表示しているときに、リンクがリストの最上部に表示されるように指定します。このリンクを使用すると、ユーザーはリストのすべてのデータアイテムを一度に選択したり、選択したデータアイテムをクリアしたりできます。

リスト内の値のクリアについて重要なポイントを次に示します。

- 必須ではないリストの場合は、リスト内のアイテムを 1 つ以上選択すると、**選択のクリア**リンクが表示されます。
- 必須のリストの場合は、リスト内のアイテムをすべて選択すると、**選択のクリア**リンクが表示されます。

初期値

コントロールの初期(デフォルト)値を指定します。初期値は、ユーザーが初めてレポートを開いたとき、またはユーザーが**デフォルトのレポート状態を復元**を選択したときに選択されます。

テキストフィールドに値を入力するか、次のいずれかを指定します。

自動

レポートを保存するときに、選択内容が初期値として保存されることを指定します。

第 1

コントロールの最初の値が初期値であることを指定します。

parameter-name

選択したパラメーターの値がコントロールの初期値であることを指定します。

適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

初期値がデータクエリになく(フィルターなどの理由で)、コントロールが必要ない場合、コントロールには初期値がありません。コントロールが必要な場合は、最初の値が初期値として選択されます。

背景の色

コントロールの背景色を指定します。

スライダーコントロール

入カスタイル

スライダーの値を**単一値**または**範囲**のどちらにするかを指定できます。

方向

スライダーが縦↑または→かどうかを指定します。デフォルトで、**横**オプションは選択されています。

フィルターされたオブジェクトの集計データに実行

スライダーで集計後のデータをインタラクティブにフィルター処理するよう指定します。このオプションを使用すると、スライダーのエンドポイントの**最小**と**最大**オプションを指定できます。

初期値

単一値スライダーの場合のみ、コントロールの初期(デフォルト)値を指定します。初期値は、ユーザーが初めてレポートを開いたとき、またはユーザーが**デフォルトのレポート状態を復元**を選択したときに選択されます。

テキストフィールドに値を入力するか、次のいずれかを指定します。

自動

レポートを保存するときに、選択内容が初期値として保存されることを指定します。

最小値

コントロールの最小値が初期値であることを指定します。

最大値

コントロールの最大値が初期値であることを指定します。

parameter-name

選択したパラメーターの値がコントロールの初期値であることを指定します。

適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

初期最小値

範囲スライダーの場合のみ、コントロールの初期最小値(下限)を指定します。初期値は、ユーザーが初めてレポートを開いたとき、またはユーザーが**デフォルトのレポート状態を復元**を選択したときに選択されます。

テキストフィールドに値を入力するか、次のいずれかを指定します。

自動

レポートを保存するときに、選択内容が初期値として保存されることを指定します。

最小値

コントロールの最小値が初期値であることを指定します。

parameter-name

選択したパラメーターの値がコントロールの初期値であることを指定します。

適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

初期最大値

範囲スライダーの場合のみ、コントロールの初期最大値(上限)を指定します。初期値は、ユーザーが初めてレポートを開いたとき、またはユーザーが**デフォルトのレポート状態を復元**を選択したときに選択されます。

テキストフィールドに値を入力するか、次のいずれかを指定します。

自動

レポートを保存するときに、選択内容が初期値として保存されることを指定します。

最大値

コントロールの最大値が初期値であることを指定します。

parameter-name

選択したパラメーターの値がコントロールの初期値であることを指定します。

適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

範囲の最小値

スライダーのエンドポイントの最小値を指定します。適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

範囲の最大値

スライダーのエンドポイントの最大値を指定します。適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

欠損値オプション

欠損値チェックボックスがレポートのスライダーの下に表示されるように指定します。欠損値チェックボックスを選択すると、スライダーでフィルター処理されるレポート内のすべてのアイテムに欠損値が含まれます。

注: 欠損値を含めるメニューオプションは、スライダーコントロールのオブジェクトメニューまたはポップアップメニューで使用できます。メニューオプションでは、スライダーの下にチェックボックスが表示されません。欠損値を含めるメニューオプションを使用すると、スライダー付きレポートに欠損値チェックボックスを表示しなくても欠損値を含めることができます。

テキスト入力コントロール

初期値

コントロールの初期(デフォルト)値を指定します。初期値は、ユーザーが初めてレポートを開いたとき、またはユーザーが**デフォルトのレポート状態を復元**を選択したときに選択されます。

テキストフィールドに値を入力するか、次のいずれかを指定します。

自動

レポートを保存するときに、選択内容が初期値として保存されることを指定します。

第 1

コントロールの最初の値が初期値であることを指定します。

parameter-name

選択したパラメーターの値がコントロールの初期値であることを指定します。

適切なデータ型のパラメーターがすでに存在する場合にのみ、パラメーターを選択できます。

初期値がデータクエリになく(フィルターなどの理由で)、コントロールが必要ない場合、コントロールには初期値がありません。コントロールが必要な場合は、最初の値が初期値として選択されます。

背景の色

コントロールの背景色を指定します。

最小

ユーザーが指定できる最小値を指定します。

注: このオプションは、コントロールにデータ役割が割り当てられておらず、数値パラメーターのパラメーターリンクが定義されている場合にのみ使用できます。

最大

ユーザーが指定できる最大値を指定します。

注: このオプションは、コントロールにデータ役割が割り当てられておらず、数値パラメーターのパラメーターリンクが定義されている場合にのみ使用できます。

出力形式

入力する値の出力形式を指定します。

注: このオプションは、コントロールにデータ役割が割り当てられておらず、数値パラメーターのパラメーターリンクが定義されている場合にのみ使用できます。

プロンプトエリアの表示または非表示

次のように、キャンバスのプロンプトエリアを表示(展開)および非表示(折りたたみ)できます。

レポートとページのプロンプトエリアを表示または非表示

アプリケーションバーで、**レポートコントロールとすべてのページコントロールを 展開**または**レポートコントロールとすべてのページコントロールを 折りたたむ**を選択します。

レポートプロンプトエリアの表示または非表示

アプリケーションバーで、**レポートコントロールの展開**または**レポートコントロールを折りたたむ**を選択します。

ページのプロンプトエリアの表示または非表示

ページタブを右クリックし、**ページコントロールの展開**または**ページコントロールの折りたたみ**を選択します。

すべてのページプロンプトエリアの表示または非表示

任意のページタブを右クリックし、**すべてのページコントロールを 展開**または**すべてのページコントロールを折りたたむ**を選択します。

注: プロンプトエリアのデフォルトの行動は、アプリケーション設定として指定できます。[“SAS Visual Analytics 設定の変更” \(SAS Visual Analytics: レポートのデザイン\)](#)を参照してください。

コントロールを使用してレポートプロンプトを作成する

コントロールを使用してレポートプロンプトを作成する場合、ユーザーはレポート内のデータをフィルタリングする値を選択できます。レポートプロンプトを使用して、フィルターをページプロンプトにカスケード表示できます。

コントロールを使用してレポートプロンプトを作成するには、次の操作を行います。

- 1 **オブジェクトペイン**でコントロールを右クリックし、**レポートコントロールとして追加**を選択します。
- 2 カテゴリまたはメジャーをコントロールにドラッグします。たとえば、ドロップダウンリストコントロールを追加すると、*Facility City* や *Facility State* などのカテゴリを割り当てることができます。次に、ドロップダウンリストに、そのカテゴリで使用されている都市または州が入力されます。

データ役割ペインを使用して、レポートプロンプトの**カテゴリ**および**メジャー**の役割を指定することもできます。

- 3 (オプション)レポートプロンプトのオプションを更新します。

オプションペインで、レポート名を選択します。**レポートコントロール**ヘッダーを展開します。レポートコントロールの配置を指定します。

ヒント すべてのレポートでコントロールの位置を統一するには、**デフォルトのレポートコントロール配置設定**を使用します。詳細については、“[SAS Visual Analytics 設定の変更](#)” ([SAS Visual Analytics: レポートのデザイン](#))を参照してください。

オプションペインで、オブジェクト名を選択してから、特定のオブジェクトオプションのいずれかを更新します。

注: **フォント**オプションのカスタム色を選択した場合は、SAS Visual Analytics セッションの間に保存されます。カスタム色が色パレットに表示されます。

- 4 (オプション)レポートプロンプトの特定のオプションを更新します。使用可能なオプションは、選択したコントロールによって異なります。

コントロールオプションに関する詳細を次に示します。

- デフォルトでは、**ビューアーでの選択を有効化**オプションはコントロールでは選択されていません。つまり、レポートビューアーまたはモバイルデバイスを使用するユーザーはコントロールを選択できず、①をクリックして、コントロール名と入力フィルター情報を確認する必要があります。ただし、ユーザーは引き続きコントロールの値を変更できます。
- ボタンバー、ドロップダウンリストおよびリストコントロールの場合、ユーザーがコントロール内で選択を実行するには、**必須**オプションを選択します。リストに**必須**オプションを選択した場合、少なくとも1つのチェックボックスを常に選択する必要があります。

注: レポートプロンプトエリアにリストコントロールを追加できますが、これはプロンプトバーがキャンバスの右側または左側に配置されている場合のみです。

- スライダーの場合、**入力スタイル**オプションでは、デフォルトで**範囲**が選択されています。コントロールで現在のレポートに表示されている集計データのみフィルタリングするには、**フィルターされたオブジェクトの集計データに実行**オプションを選択します。このオプションをクリアにすると、詳細データがフィルタリングされます。

注: **フィルターされたオブジェクトの集計データに実行**オプションが選択されていない場合、スライダーはクロス表または時系列プロットをフィルタリングしません。

- 5 (オプション)パラメーターをコントロールにリンクします。

- a **アクション**ペインで、**パラメーターリンク**ヘッダーの横にある**新規作成**をクリックします。
- b **パラメーターリンク**ソースウィンドウで、パラメーター値にリンクする値を持つデータアイテムを選択します。
- c **アクション**ペインでパラメーターを選択するか、**パラメーターの新規作成**をクリックして新しいパラメーターを作成し、コントロールにリンクします。

レポートプロンプトで1つのデータソースを使用し、キャンバス上のオブジェクトが別のデータソースを使用する場合は、コントロールを右クリックし、**データマッピングの編集**を選択してデータソースマッピングを変更できます。詳細については、[“アクションとリンクのデータのマップ” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

コントロールを使用してページプロンプトを作成する

コントロールを使用してページプロンプトを作成する場合、ユーザーは、同じデータソースを使用する同じページ上のその他のすべてのオブジェクトのデータをフィルタリングする値を選択できます。カスケード(または依存)ページプロンプトを作成できます。

コントロールを使用したページプロンプトの作成について重要なポイントを次に示します。

- ページプロンプトは、レポートプロンプトの影響を受ける可能性があります。
- ページプロンプトエリアにリストコントロールを追加できますが、これはプロンプトバーがキャンバスの右側または左側に配置されている場合のみです。

コントロールを使用してページプロンプトを作成するには、次の操作を行います。

- 1 **オブジェクトペイン**でコントロールを右クリックし、**ページコントロールとして追加**を選択します。

注: プロンプトコンテナーを使用してページプロンプトを作成することができます。

- 2 カテゴリまたはメジャーをコントロールにドラッグします。たとえば、ドロップダウンリストコントロールを追加すると、*Facility City* や *Facility State* などのカテゴリを割り当てることができます。次に、ドロップダウンリストに、そのカテゴリで使用されている都市または州が入力されます。

データ役割ペインを使用して、ページプロンプトのデータ役割を指定することもできます。

- 3 (オプション)ページプロンプトのオプションを更新します。

オプションペインで、ページ名を選択します。**ページコントロールヘッダー**を展開します。コントロールの配置を指定します。

ヒント すべてのページでコントロールの配置を同じにする場合は、**デフォルトのページコントロール配置設定**を使用できます。詳細については、[“SAS Visual Analytics 設定の変更” \(SAS Visual Analytics: レポートのデザイン\)](#)を参照してください。

オプションペインで、オブジェクト名を選択してから、特定のオブジェクトオプションのいずれかを更新します。

- 4 (オプション)パラメーターをコントロールにリンクします。
 - a **アクションペイン**で、**パラメーターリンクヘッダー**の横にある**新規作成**をクリックします。
 - b **パラメーターリンクソースウィンドウ**で、パラメーター値にリンクする値を持つデータアイテムを選択します。

- c **アクション**ペインでパラメーターを選択するか、**パラメーターの新規作成**をクリックして新しいパラメーターを作成し、コントロールにリンクします。

ページプロンプトが1つのデータソースを使用し、キャンバス上のオブジェクトが別のデータソースを使用する場合は、コントロールを右クリックし、**データマッピングの編集**を選択してデータソースマッピングを変更できます。詳細については、[“アクションとリンクのデータのマップ” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

自動コントロールの作成

レポートプロンプトまたはページプロンプトの自動コントロールを作成するには、データアイテムをプロンプトエリアにドラッグするか、**データ**ペインのポップアップメニューを使用します。

SAS Visual Analytics はこれらのコントロールを自動的に作成します。

表 3 プロンプトの自動コントロール

データアイテムの種類	自動コントロールの種類
1-4 の重複しない値を持つカテゴリデータアイテム	ボタンバー
5-40 の重複しない値を持つカテゴリデータアイテム	ドロップダウンリスト
41 以上の重複しない値を持つカテゴリデータアイテム	テキスト入力
メジャーまたは日時データアイテム	スライダー

散布図の操作

散布図について

散布図には、マーカーを使用してメジャーの値が表示されます。2つ以上のメジャーを適用すると、オブジェクトに散布図が表示されます。散布図行列は、プロットに適用されるメジャーの可能な組み合わせをすべて表示する一連の散布図です。

散布図のデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

散布図の基本的なデータ役割はメジャーです。いずれかの数値のメジャーを割り当てることができます。1つのメジャーを散布図に割り当てると、その値は1つの線に沿ってプロットされます。

メジャーに加えて、これらの役割を割り当てることができます。

色

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に従って、プロット内のポイントの色を設定します。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

データラベル

データラベルオプションが有効な場合、プロットのマーカの横に値が表示されるデータアイテムを指定します。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

散布図のオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

散布図では、次のオプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側または右側のどちらに表示するかを指定します。

透過性

バーの透過性を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

始めのマーカの形

マーカの形を指定します。色役割が割り当てられている場合、色役割に割り当てられているカテゴリの異なる値の数に応じて、複数のマーカの形を使用できます。指定したマーカの形は、最初の値セットに使用されます。レポートの**データ要素スタイルローテーション**オプションに応じて、複数のマーカの形を使用することもできます。

マーカの塗りつぶしを使用

マーカを塗りつぶすのか塗りつぶさないのかを指定します。

マーカサイズ

各マーカのサイズをピクセル単位で指定します。**自動**を指定すると、マーカサイズはプロットのポイントの密度に基づいて自動的に決定されます。

マーカの塗りつぶしの色

マーカの自動色設定をオーバーライドする色を指定します。

データラベル

マーカの横にデータ値をテキストとして表示します。テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、ラベルの色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

グラフフレームセクションで次のオプションを指定できます。

データラベルの細線化を有効化

テキストの重複を避けるために、必要に応じてデータラベルを非表示にします。

近似線セクションで次のオプションを指定できます。

種類

表示する近似線の種類を指定します。利用可能な近似の種類の情報については、[“データ分析の適用” \(88 ページ\)](#)を参照してください。

透過性

近似線の透過性を指定します。

データ分析の適用

散布図の場合は、次のデータ分析を適用できます。

相関

プロット内の変数間の統計的相関の程度を特定します。相関の強さは、-1 と 1 の間の数値として記述されます。-1 に近い値は強い負の相関を意味し、0 に近い値は相関がほとんどまたはまったくないことを意味し、1 に近い値は強いポジティブの相関を意味します。

線形の近似線を追加すると、自動的に相関が適用されます。その他の近似の種類では使用できません。相関値は、オブジェクトの詳細テーブルに表示されます。詳細テーブルを表示するには、オブジェクトを最大化します。[“オブジェクトの最大化” \(46 ページ\)](#)を参照してください。

近似線

プロット内の変数間の関係のモデルをプロットします。

次のいずれかの近似の種類を選択できます。

自動近似

データに最も適したモデル(線形、2 次または 3 次)を選択します。**自動近似法**は、変数減少法変数選択を使用して、重要な最上位モデルを選択します。使用された最終モデルを確認するには、オブジェクトを最大化します。

線形

線形回帰アルゴリズムから線形近似線を作成します。線形近似線は、2 つのメジャー間の関係を最もよく表す直線を生成します。

線形近似の場合、相関が自動的にプロットに追加されます。その他の近似の種類では相関を使用できません。

2 次

2 次近似線を作成します。2 次近似は、1 つの曲線を持つ線を生成します。2 次近似線は、しばしば放物線の形をした線を生成します。

3 次

3 次近似線を作成します。3 次近似線は 2 つの曲線を持つ線を生成します。3 次近似線は、しばしば“S”形状の線を生成します。

PSpline

罰則付き B-スプラインを作成します。罰則付き B-スプラインは、データに密接に近似する平滑化スプラインです。罰則付き B-スプラインは、曲率の変更が多い複雑な線を表示できます。

注: 格子を表示する散布図に近似線を適用することはできません。

オブジェクトのデータ分析に関する詳細情報は、オブジェクトの詳細テーブルにあります。詳細テーブルを表示するには、オブジェクトを最大化します。[“オブジェクトの最大化” \(46 ページ\)](#)を参照してください。

時系列プロットの実作

時系列プロットについて

時系列プロットは、データ値を接続する線を使用して時間とともにデータを表示します。複数のメジャーを時系列プロットに割り当てると、メジャーごとに別々の Y 軸を作成できます。

時系列プロットのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

時系列プロットの基本的なデータ役割は、時間軸とメジャーです。1つの日時データアイテムは時間軸にのみ割り当てることができます。多くのメジャーを割り当てることができ、メジャー値は応答軸にプロットされます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てた日時データアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。データ値ごとに別々の線が作成されます。

注: 複数のメジャーをプロットに割り当てると、グループ化は使用できません。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

時系列プロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

ビンの間隔

プロット内の日時値の間隔を指定します。次のいずれかの値を選択します。

自動

プロットの最適な間隔を自動的に決定します。

固定カウント

特定の数値の等間隔の値をプロットします。**固定ビンカウント**オプションに値の数値を指定します。

出力形式の使用

データ出力形式でレンダリングされたすべての日時値をプロットします。

固定ビンカウント

プロットする日時値の数値を指定します。

注: このオプションは、**ビンの間隔が固定カウント**に設定されている場合にのみ使用できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側¹または右側²のどちらに表示するかを指定します。

固定ベースライン

折れ線グラフのベースライン値を指定します。

注: このオプションは、グラフに別々の Y 軸が表示されている場合は使用できません。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

グループ化スタイル

複数のメジャーがグラフに割り当てられているときに使用されるスタイルオーバーレイを指定します。次のいずれかを選択します。

オーバーレイの塗りつぶしなし

色の塗りつぶしがない線を表示します。

オーバーレイの塗りつぶし - フェード

透過性のある色で塗りつぶされた線が表示されます。

オーバーレイの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。

積み上げの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。積み上げられた線の値は、グラフのベースラインではなく、下の線を基準にプロットされます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドするグループスタイルオーバーレイの自動塗りつぶしの色を指定します。

線

グラフ内のデータポイント間に線を引くかどうかを指定します。このオプションを選択すると、線のスタイル、線の幅、および線の色を指定できます。

デフォルトでは、**線**チェックボックスが選択されており、変更することはできません。チェックボックスは、**マーカー**オプションが選択されている場合にのみクリアできます。

マーカー

グラフ内のデータポイントのマーカーを示します。このオプションを選択すると、マーカーの記号、サイズ、および色を指定できます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

データラベル

グラフのデータ値をテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

自動説明オブジェクトの操作

自動説明オブジェクトについて

自動説明オブジェクトでは、特定の応答変数について最も重要な要因が決定されます。結果には、相対重要度、関係プロット、および最高および最低グループが含まれます。

自動説明オブジェクトには、次の情報が表示されます。

- 応答因子に関する要約情報。データアイテムを **時間** 役割に割り当てると、予測情報が表示されます。
- 各要因の相対重要度スコアが棒グラフで表示されます。最も重要な要因には 1 のスコアが割り当てられ、他のすべてのスコアはその値に比例します。
- **上位および下位のグループを表示** を選択すると、**上位タブ**と**下位タブ**にグループが表示されます。グループは、選択された要因に基づいて計算されます。

指定された応答変数に対していくつかのディシジョンツリーが実行され、各グループでそれらのディシジョンツリーの 1 つからのリーフが記述されます。メジャー応答の場合、応答の平均値が最高になる 3 つのグループが **高タブ** に表示されます。応答の平均値が最低になる 3 つのグループが **低タブ** に表示されます。カテゴリ応答の場合、応答の選択イベントレベルのパーセンテージが最も高い 3 つのグループが **高タブ** に表示されます。応答の選択イベントレベルのパーセンテージが最も低い 3 つのグループが **低タブ** に表示されます。**高タブ** と **低タブ** には、グループの計算で選択した因子を含むグループのみが表示されます。

- 選択した要因の関係プロット。このプロットのコンテンツは、応答変数と選択した要因の両方の変数の種類によって異なります。次の表は、応答変数と要因の組み合わせごとに使用されるプロットを示しています。

表 4 応答変数と要因の種類に基づく自動説明オブジェクトのプロット

応答変数の種類	メジャー要因	カテゴリ要因	地理情報要因
メジャー応答	応答変数と選択した要因の散布図またはヒートマップ。	応答変数と選択した要因の棒グラフ。	応答変数と選択した要因の地理地域マップまたは地理座標マップ。
カテゴリ応答	関心のあるイベントレベルとその他のすべてのイベントレベルでグループ分けされた、応答変数と選択した要	関心のあるイベントレベルとその他のすべてのイベントレベルでグループ分けされた、応答変数と選択した要因の積み上げ棒グラフ。	

応答変数の種類	メジャー要因	カテゴリ要因	地理情報要因
	因のヒストグラム。		

注: レポートにある特定のオブジェクトのデータを説明することもできます。[“オブジェクト内のデータの特性の説明” \(49 ページ\)](#)を参照してください。

自動説明オブジェクトのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、[“データ役割の割り当ての操作” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

自動説明の基本的なデータ役割は、応答変数と要因です。応答変数には、任意のカテゴリデータアイテムまたはメジャーデータアイテムを使用できます。応答変数が割り当てられると、残りのデータアイテムのほとんどが自動的に要因として追加されます。集計メジャー、日付と時刻の値、および度数、階層、フィルターアイテム、交互作用効果、スプライン効果などの自動計算値は、要因として追加されません。

SAS Visual Analytics では、要因として割り当てられている変数をクリーニングし、次の基準のいずれかを満たす変数を拒否します。

- 変数が、応答変数または別の要因と同一である。
- 変数が、要因として割り当てられる地理情報アイテムの基礎である。
- 変数が、応答変数のサブセットである。
- 変数に多数の欠損値がある。
- 変数のカーディナリティが高い。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

時間

指定した日付データアイテムまたは日時データアイテムを使用して、説明に予測を追加します。

注: メジャーが応答変数として割り当てられている場合にのみ、データを**時間**役割に割り当てることができます。

自動説明オブジェクトのオプション

全般オプションの詳細については、[“オプションペインの使用” \(24 ページ\)](#)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

感度を極限值にする

極値を識別するために使用される感度の程度を指定します。通常、感度設定を高くすると、より多くの値が極値として識別されます。

注: このオプションは、カテゴリが**応答役割**に割り当てられている場合にのみ使用できます。

欠損値を含める

欠損値があるオブザベーションを分析に含めるかどうかを指定します。カテゴリ要因とカテゴリ応答では、欠損値は個別レベルと見なされます。メジャー要因については、分岐ルール of 価値の計算に欠損値が使用されます。分岐の価値を最大化するブランチに欠損値を割り当てる分岐ルールが作成されます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

注: メジャー応答の場合、欠損値は常に分析から除外されます。

表示されたビジュアル

表示されるオブジェクトの要素を指定します。

表示する因子数

結果でレポートする因子の数を指定します。相対重要度スコアが最大の因子がレポートされます。

上位および下位のグループ

グループを計算し、結果の上位 3 グループと下位 3 グループを表示するかどうかを指定します。

すべてのグループを上位および下位タブに表示

すべてのグループを結果にレポートするかどうかを指定します。**上位および下位のグループを表示**を選択すると、デフォルトでは上位 3 グループと下位 3 グループのみがレポートされます。**すべてのグループを上位および下位タブに表示**を選択すると、**高タブ**と**低タブ**の両方にすべてのグループが表示されますが、グループの並べ替え方法は異なります。メジャー応答の場合、**上位タブ**のグループは、平均値が最高の方から最低の方へ順に並べ替えられ、**下位タブ**のグループは、平均値が最低の方から最高の方へ順に並べ替えられます。カテゴリ応答の場合、**上位タブ**のグループは、選択したイベントレベルのパーセンテージが最高の方から最低の方へ順に並べ替えられ、**下位タブ**のグループは、選択したイベントレベルのパーセンテージが最低の方から最高の方へ順に並べ替えられます。

表示するグループ数

結果でレポートするグループの数を指定します。デフォルトでは、上位 3 グループと下位 3 グループがレポートされます。

自動説明オブジェクトの生成

- 1 **データペイン**で、応答に指定するデータアイテムを選択します。
- 2 選択したデータアイテムを右クリックします。**説明** ⇨ **現在のページで説明**または**説明** ⇨ **新しいページで説明**を選択します。残りのデータアイテムのほとんどは、自動的に要因として追加されず。
- 3 (オプション)カテゴリ応答を選択した場合、オブジェクトキャンバスの右上隅でイベントレベル(カテゴリ値)を選択できます。

棒グラフの任意の因子を応答変数として使用して、新しい自動説明を生成できます。これは、特定の因子に関連する異常または外れ値を見つけた場合に役立ちます。

- 1 棒グラフで因子を選択します。
- 2 選択した因子を右クリックし、**data-item-name の説明**を選択します。新しいウィンドウに説明が表示されます。
- 3 ドロップダウンリストからオプションを選択して、新しい自動説明オブジェクトを作成します。

新しいページに詳細説明を追加

新しいページに新しい自動説明オブジェクトを作成します。

現在のページに詳細説明を追加

現在のページに新しい自動説明オブジェクトを作成します。

新しいページに説明概要を追加

新しいページに新しい自動説明オブジェクトを作成します。特性とイベントレベルのみが表示されますが、**表示されたビジュアル**オプションを使用してオブジェクトのコンテンツをカスタマイズできます。

現在のページに説明概要を追加

現在のページに新しい自動説明オブジェクトを作成します。特性とイベントレベルのみが表示されますが、**表示されたビジュアル**オプションを使用してオブジェクトのコンテンツをカスタマイズできます。

自動説明オブジェクトの管理

因子の削除または置換

自動説明オブジェクトから因子を削除するには、次の操作を行います。

- 1 棒グラフで1つ以上の因子を選択します。
- 2 選択した因子を右クリックします。**factor の削除**または**選択した因子を削除**を選択します。

因子を未割り当てのデータアイテムに置き換えるには、次の操作を行います。

- 1 棒グラフで1つ以上の因子を選択します。
- 2 選択した因子を右クリックします。**factor を置換**または**データの置換** ⇨ **factor** を選択します。**データアイテムの置換**ウィンドウが表示されます。
- 3 リストから新しいデータアイテムを選択します。自動説明オブジェクトは、新しいデータアイテムで自動的に更新されます。

注: 自動更新を無効にしている場合は、自動説明オブジェクトを手動で更新する必要があります。

自動説明オブジェクトの変更または複製

自動説明オブジェクトを別のオブジェクトに変更または複製するには、次の操作を行います。

- 1 自動説明オブジェクトキャンバスを右クリックします。
- 2 **自動説明を次に変更** ⇨ **object** または **次で複製** ⇨ **object** を選択します。変数のスクリーニング中に拒否されなかったすべての因子が、新しいオブジェクトに割り当てられます。

別のオブジェクトを自動説明オブジェクトに変更または複製するには、次の操作を行います。

- 1 オブジェクトキャンバスを右クリックします。
- 2 **object を変更** ⇨ **自動説明** または **次で複製** ⇨ **自動説明** を選択します。オブジェクトの種類を自動説明に変更または複製すると、最初のサポート対象データアイテムが**応答**役割に割り当てられます。他のすべてのサポート対象データアイテムには、**要因**役割が割り当てられます。

注: 別のオブジェクトの自動説明オブジェクトへの変更または複製は、コントロール(ボタンバー、ドロップダウンリスト、リスト、スライダー、テキスト入力)および時間のみに基づくオブジェクト(予測、比較時系列プロット、二軸の時系列プロット、時系列プロット)を除き、オブジェクトの種類の変更をサポートするすべてのオブジェクトでサポートされています。

グループデータアイテムの派生

グループに基づいてデータアイテムを派生させるには、次の操作を行います。

- 1 **高タブ**または**低タブ**で、1つ以上のグループを選択します。
- 2 選択したグループを右クリックして、**グループアイテムの派生**を選択します。新しいデータアイテムは、選択したグループにオブザベーションがあるかどうかを示します。

グループに基づいて新しいオブジェクトを作成

- 1 **高タブ**または**低タブ**で、1つ以上のグループを選択します。
- 2 選択したグループを右クリックし、**新しいページでグループからオブジェクトを新規作成** ⇨ **factor** を選択します。新しいオブジェクトには、応答変数と選択した因子の2つのプロットが表示されます。1つ目のプロットには、選択したグループ内にあるオブザベーションが含まれ、2つ目のプロットには、選択したグループ内にはないオブザベーションが含まれます。

詳細テーブル

キャンバスの下部に詳細テーブルを表示するには、オブジェクトツールバーのをクリックします。詳細テーブルには、次の情報が含まれます。

説明の詳細

分析の各ステップに関する詳細情報が提供されます。

スクリーニングの結果

分析から変更または削除された各因子に対して実行されたアクションに関する情報が提供されます。

相対重要度

各要因の相対重要度情報が提供されます。

異常

極値として識別される値を表示します。

自動予測オブジェクトの操作

自動予測オブジェクトについて

自動予測オブジェクトでは、指定した応答変数でいくつかのモデルが実行されます。その変数を指定すると、残りのデータアイテムのほとんどがモデル構築の要因として自動的に追加されます。チャンピオンモデルが選択され、モデル予測と要因が表示されます。デフォルトモデル予測は、チャンピオンモデルに含まれる要因の中央値(メジャー因子)または最も一般的な値(カテゴリ因子)を使用して計算されます。その後、要因の値を調整して、調整ごとにモデル予測の変更方法を決定できます。

カテゴリ応答の場合、実行される候補モデルは、ロジスティック回帰(2 値応答のみ)、勾配ブースティング、およびディシジョンツリーです。チャンピオンモデルは、最高精度(100 - 誤分類率)に基づいて選択されます。メジャー応答の場合、実行される候補モデルは、線形回帰、勾配ブースティング、およびディシジョンツリーです。チャンピオンモデルは、最小平均平方誤差(ASE)に基づいて選択されます。

注: 自動予測オブジェクトは、ページまたはレポートレベルのコントロールとプロンプトには応答しません。また、オブジェクトやページのリンクなどのアクションにも応答しません。

注: フィルター式またはランク基準がパラメーターデータアイテムを使用している場合、自動予測オブジェクトにフィルターまたはランクを適用することはできません。

自動予測オブジェクトのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

自動予測の基本的なデータ役割は、応答変数と要因です。応答変数には、カテゴリデータアイテムまたはメジャーデータアイテムを使用できます。パーティション変数を応答変数として追加することは

できません。計算式がパラメーターデータアイテムを使用している場合、計算アイテムを割り当てることはできません。応答変数が割り当てられると、残りのデータアイテムのほとんどが自動的に要因として追加されます。

集計メジャー、日付と時刻の値、計算アイテム、カスタムカテゴリ、派生アイテム、および度数、階層、フィルターアイテム、パーティションアイテム、交互作用効果、スプライン効果などの自動計算値は、要因として追加されません。メジャー応答との相関が 0.9999 を超える変数、カテゴリ応答で完全に説明される変数、欠損値が過剰な変数、カーディナリティの高い変数のいずれかが、**データ役割** ペインに因子として追加されます。ただし、これらの変数は、変数スクリーニングプロセス中に拒否されます。

自動予測オブジェクトのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ) を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

表示されたビジュアル

表示されるオブジェクトの要素を指定します。

表示されたビジュアル リストで**因子**が有効になっている場合は、**因子**で次のオプションを使用できます。

入力

入力フォームに含まれる因子を指定します。

ラベルフォント

入力フォームの因子の名前のテキストスタイルを指定します。

値フォント

入力フォームの因子の値のテキストスタイルを指定します。

背景の色

入力フォームの因子の値の背景色を指定します。

表示されたビジュアル リストで**予測値**が有効になっている場合は、**予測値**で次のオプションを使用できます。

テキストスタイル

予測値のテキストスタイルを指定します。

表示されたビジュアル リストで**説明**が有効になっている場合は、**説明**で次のオプションを使用できます。

テキストスタイル

説明のテキストスタイルを指定します。

自動予測オブジェクトの生成

- 1 **データペイン**で、応答に指定するデータアイテムを選択します。

- 2 選択したデータアイテムを右クリックします。**予測** ⇨ **現在のページで予測**または**予測** ⇨ **新しいページで予測**を選択します。残りのデータアイテムのほとんどは、自動的に要因として追加されます。

自動予測オブジェクトは、指定された応答変数で 2-3 モデルを実行し、チャンピオンモデルを選択します。モデル予測と、モデルの要因の入力フォームが表示されます。

デフォルトで表示されるモデル予測は、チャンピオンモデルに含まれる要因の中央値(メジャー因子)または最も一般的な値(カテゴリ因子)を使用して計算されます。要約説明では、選択されたチャンピオンモデルに関する情報と、モデル予測を応答の観測値と比較する方法が提供されます。

チャンピオンモデルで使用される要因はすべて、入力フォームに表示されます。要因は、相対重要度の値に基づいて順序指定されます。要因の値を調整すると、モデル予測の変更方法を決定できます。モデル予測は、要因が変更されるたびに更新されます。

入力フォームでは、2 水準のカテゴリ因子はボタンバーとして表示され、3 水準以上のカテゴリ因子はドロップダウンリストとして表示されます。メジャー因子はテキスト入力フィールドとして表示されます。

注: 要因がパラメーター化されたランクである場合、パラメーターを変更してもモデルやモデル予測は更新されません。

詳細テーブル

キャンバスの下部に詳細テーブルを表示するには、オブジェクトツールバーのをクリックします。詳細テーブルには、次の情報が含まれます。

予測の詳細

分析の各ステップに関する詳細情報が提供されます。

相対重要度

各要因の相対重要度情報が提供されます。

ジョブコンテンツの操作

ジョブコンテンツについて

ジョブコンテンツオブジェクトを使用すると、SAS Viya プラットフォームのジョブからの出力を表示することができます。ジョブを使用して、SAS コードの機能にアクセスできます。

ジョブコンテンツオブジェクトで使用するジョブは、自分とレポートビューアーがアクセスできる場所に保存する必要があります。

SAS Data and AI Studio(以前は SAS Studio と呼ばれていました) でジョブを作成して管理できます。ジョブの詳細については、[SAS Data and AI Studio 開発者ガイド: ジョブの操作](#)を参照してください。

注: ジョブ出力にてリンクを新しいウィンドウまたは新しいタブで開く場合、これらのリンクを有効にするには、管理設定の更新が必要な場合があります。詳細については、“[IFrame サンドボックス属性値](#)” ([SAS Visual Analytics: リファレンス](#))を参照してください。

注: 使用可能な SAS Compute Server インスタンスの最小数を増やすことにより、SAS Viya プラットフォームのジョブの処理の応答時間を改善できます。“[Configure a Pool of Available Compute Servers](#)” ([SAS Viya Platform: Programming Run-Time Servers](#))を参照してください。

ジョブコンテンツのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

ジョブ定義

ジョブコンテンツオブジェクトのジョブ定義を指定します。🔍をクリックして、ジョブ定義を選択します。

注: SAS Visual Analytics では、ステッププロンプトと呼ばれる新しい種類のジョブプロンプトを使用します。ジョブ定義でタスクプロンプトが使用され、ステッププロンプトが含まれていない場合は、プロンプトの変換が必要になる場合があります。ジョブ定義を更新する権限がある場合は、SAS Visual Analytics からプロンプトを変換できます。権限がない場合は、管理者にプロンプトの変換を依頼してください。

詳細については、“[Converting SAS Studio Tasks to SAS Data and AI Studio Steps](#)” ([SAS Data and AI Studio: Working with Custom Steps](#))を参照してください。

ジョブパラメーター値の管理

ジョブには、ジョブコードの変数の値を設定するジョブパラメーターを含めることができます。

ジョブの現在のパラメーター値を管理するには、オブジェクトのツールバーで ⋮ をクリックし、**ジョブパラメーターの設定**を選択します。

ジョブログの表示

ジョブのログを表示するには、オブジェクトのツールバーで ⋮ をクリックし、**ジョブのログの表示**を選択します。

ジョブログウィンドウには、ジョブ実行のログが表示されます。ジョブ実行からのエラー、警告、またはその他の情報を確認することができます。

注: ジョブ定義が割り当てられていない場合、またはジョブの実行がまだ実行中の場合、**ジョブのログの表示**オプションは使用できません。

数値系列プロットの実操作

数値系列プロットについて

数値系列プロットは、2 つ以上のメジャーのデータ値を接続する線を使用してデータを表示します。データは、X 軸に昇順に割り当てられたメジャーで並べ替えられます。

数値系列プロットのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、[“データ役割の割り当ての操作” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

数値系列プロットの基本的なデータ役割は、X 軸と Y 軸です。X 軸には 1 つのメジャーのみを割り当てることができます。Y 軸には多くのメジャーを割り当てることができます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。データ値ごとに別々の線が作成されます。

注: Y 軸に複数のメジャーを割り当てると、グループ化は使用できません。

ラベル

プロット内の各ポイントのラベルを表示します。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対して、列を持つプロットの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの値ごとに行があるプロットの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、[“データチップ値データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

数値系列プロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側₁または右側₂のどちらに表示するかを指定します。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

線のスタイルのオーバーライド

線の種類、線の幅、および線の色を指定します。

中断する欠損値

欠損値によってデータポイント間の線が中断するかどうかを指定します。

マーカー

プロット内のデータポイントにマーカーを表示するかどうかを指定します。

指定した場合は、マーカー記号、マーカーサイズ、およびマーカー色を指定できます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

データラベル

グラフのデータ値をテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

スケジュールチャートの操作

スケジュールチャートについて

スケジュールチャートは、バーを使用してイベントの期間を表示します。各バーの端は、イベントの開始時間と終了時間を示します。

スケジュールチャートのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

スケジュールチャートの基本的なデータ役割は次のとおりです。

タスク

グラフ内のイベントを識別するカテゴリを指定します。

開始

各イベントの開始点を示す日付または日時データアイテムを指定します。

終了

各イベントの終了点を示す日付または日時データアイテムを指定します。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。**グループ化スタイル**オプションで選択した値に応じて、グループの値が個別の棒または各棒のセグメントとして表示されます。

ラベル

各棒の横にラベルを表示します。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

スケジュールチャートのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側¹または右側²のどちらに表示するかを指定します。

スペーシング

棒の間のスペースのパーセンテージを指定します。デフォルトは 15%です。たとえば、**スペーシング**オプションに 80%の値を指定するとします。この値により、棒の間のスペースが増加し、棒が細くなります。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

オーバーライドの塗りつぶしの色

棒の自動塗りつぶしの色をオーバーライドする色を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

ステッププロットの実作

ステッププロットについて

ステッププロットは、データポイントを横方向のベースラインに接続する垂直線を表示します。ステッププロットを使用すると、Y 軸メジャーの変化の発生時における X 軸の正確なポイントを確認できます。

ステッププロットのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ステッププロットの基本的なデータ役割は次のとおりです。

X 軸

X 軸に割り当てられたデータアイテムを指定します。

Y 軸

Y 軸に割り当てられているメジャーを指定します。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。

ラベル

各水平線分のラベルを表示します。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ステッププロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側または右側のどちらに表示するかを指定します。

データポイントの配置

ステップに対するデータポイントの位置を指定します。

接続順

ステップ線を形成するデータポイントが、データから読み取られた順序で接続されるか、X 軸に沿って発生する順序で接続されるかを指定します。

オフセット

すべてのステップ線とマーカーを X 軸値からオフセットする量を指定します。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

線のスタイル

線の種類、線の幅、および線の色を指定します。

中断する欠損値

欠損値によってデータポイント間の線が中断するかどうかを指定します。

マーカー

プロット内のデータポイントにマーカーを表示するかどうかを指定します。

指定した場合は、マーカー記号、マーカーサイズ、およびマーカー色を指定できます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

相関行列の操作

相関行列について

相関行列では、メジャーの複数のインターセクション間の相関の度合いが長方形のセルの行列として表示されます。行列の各セルは、2 つのメジャーのインターセクションを表し、セルの色はそれらの 2 つのメジャー間の相関の度合いを示します。

相関行列は、1 セットメジャー内で比較することも、2 セットのメジャー間で比較することもできます。

相関値はピアソンの積率相関係数を使用して計算されます。相関値は、次のように弱、中、強と識別されます。

弱い

絶対値が 0.3 以下

中程度

絶対値が 0.3 より大きく 0.6 以下

強い

絶対値が 0.6 より大きい

相関行列のデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

相関行列の基本的なデータ役割は、**相関を表示**オプションで選択した値によって異なります。

- **2セットのメジャー間**を選択すると、基本のデータ役割は**X軸**と**Y軸**になります。少なくとも1つのメジャーを各役割に割り当てます。
- **1セットのメジャー内**を選択すると、基本的なデータ役割は**メジャー**になります。少なくとも2つのメジャーを割り当てます。

注: 最大メジャー数は 60 です。

相関行列のオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

罫線の表示

セル間の罫線が表示されるように指定します。

軸ラベルの回転

軸ラベルをある角度で表示します。

セルのデータの探索

SAS Visual Statistics を持ち、/SASVisualAnalytics_capabilities/buildAnalyticalModelURI のアクセス許可もある場合、新規オブジェクトまたはモデルとして相関行列内の単一セルのデータの探索ができます。選択したセルに基づいて新規オブジェクトを作成するには、次の操作を行います。

- 1 探索するセルを選択します。
- 2 セルを右クリックし、**選択からオブジェクトを新規作成**を選択し、作成するオブジェクトまたはモデルの種類を選択します。

ヒント Alt キーを押して、新規オブジェクトを新しいページに配置します。

- 3 **OK** をクリックします。

ターゲット棒グラフの操作

ターゲット棒グラフについて

ターゲット棒グラフは、ターゲット値を持つ棒グラフを表示します。各棒の高さは値を表し、線は各棒のターゲット値を表します。

デフォルトでは、棒グラフはメジャーの値によって降順に並べ替えられます。

注: グラフにランクが含まれている場合、デフォルトでは、ランクの値に基づいてデータが並べ替えられます。

ターゲット棒グラフのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

ターゲット棒グラフの基本的なデータ役割は、カテゴリ、メジャーおよびターゲットです。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: **アニメーション**データ役割が割り当てられたグラフをアクションのソースにすることができます。ただし、このアクションはモバイルデバイスでは無効になります。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

ターゲット棒グラフのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

方向

棒が↑か↔かを指定します。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側_または右側_のどちらに表示するかを指定します。

固定ベースライン

棒グラフのベースライン値を指定します。

ベースラインのスタイル

ベースラインの種類、幅、および色を指定します。

スペーシング

棒の間のスペースのパーセンテージを指定します。デフォルトは 15%です。たとえば、**スペーシング**オプションに 80%の値を指定するとします。これにより、棒の間のスペースが増加し、棒が細くなります。

グループデータ役割が割り当てられている場合、**スペーシング**オプションのデフォルトは 0%です。

オフセット

カテゴリ軸値から棒をオフセットするスペースの量を指定します。

透過性

バーの透過性を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドする棒の自動塗りつぶしの色の色と透過性を指定します。

データラベル

棒の方向に応じて、データ値をバーの水平方向または垂直方向のテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

セグメントラベル

棒の内側のセグメントのデータ値を示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

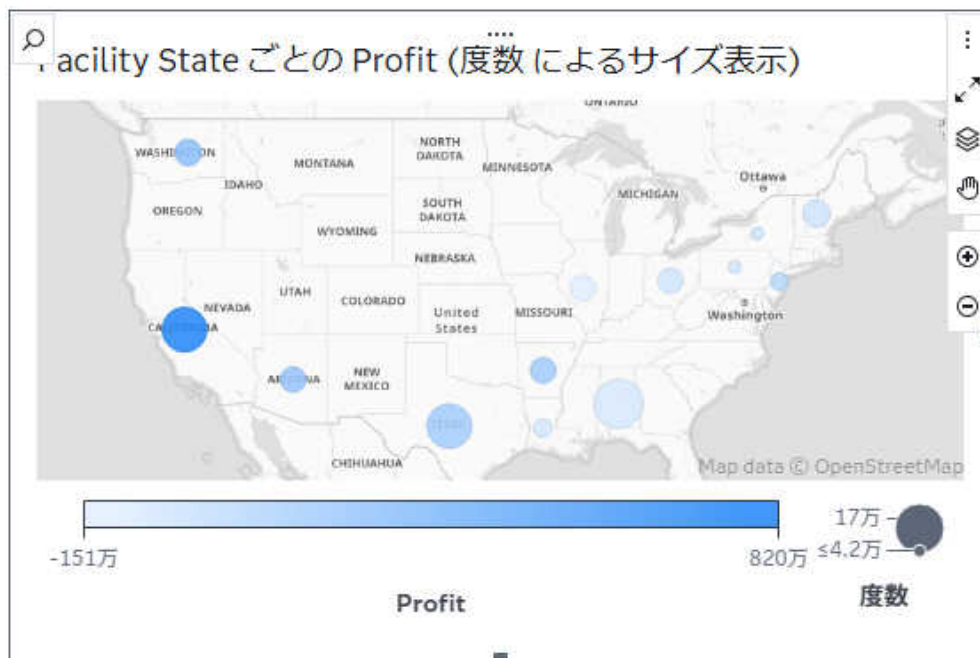
地理マップの操作(地理情報オブジェクト)

地理マップについて

次のオブジェクトでは、地理マップを表示できます。

地理バブル

データをバブルプロットとして表示します。各バブルは、地域の中心または場所の座標に配置されます。



地理クラスター

データをクラスター化された散布図として表示します。互いに近接しているマーカーは、単一のマーカーにクラスター化されます。クラスター化された各マーカーの数字は、そのマーカーで表されるポイントの数を示します。マップをズームまたはパンすると、クラスタリングが再評価されます。

注: クラスター化されたマーカーは表示ルールの影響を受けません。表示ルールは、地理クラスターマップの詳細(グループ化されていない)マーカーに影響します。



地理等高線

データの密度またはメジャーの値を示す網掛け領域または線がマップに表示されます。最良の結果を得るには、データが密な地理等高線マップを使用してください。

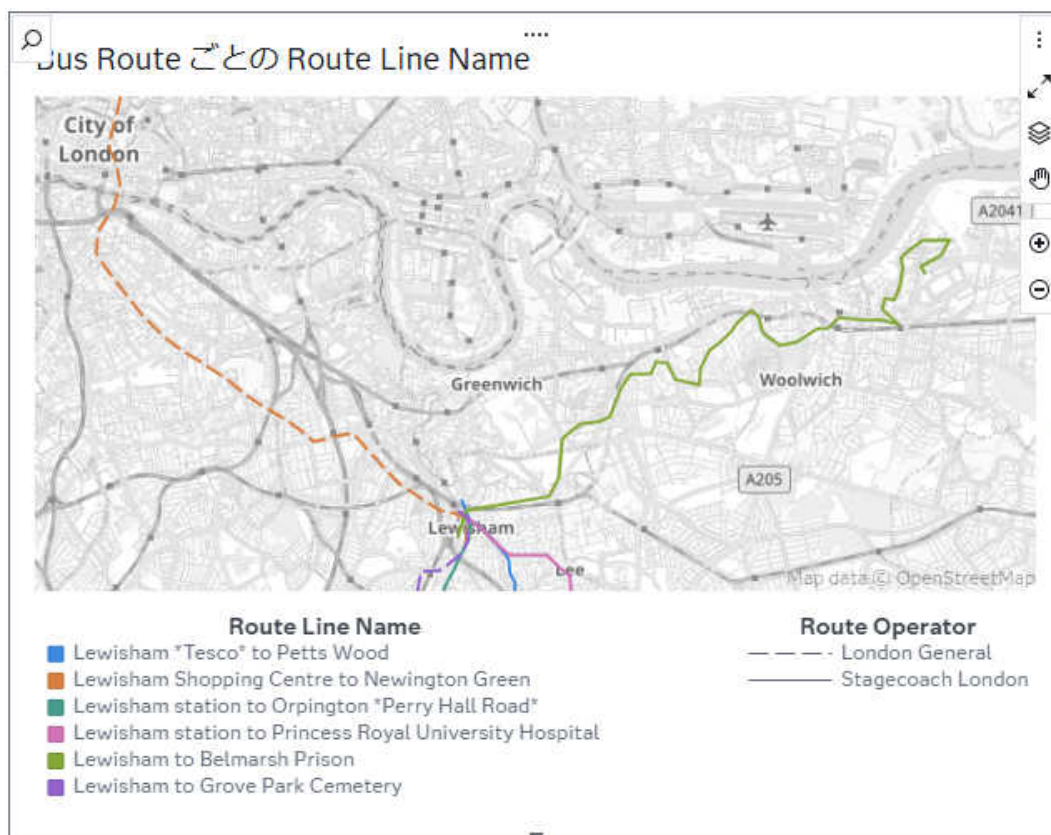


地理座標

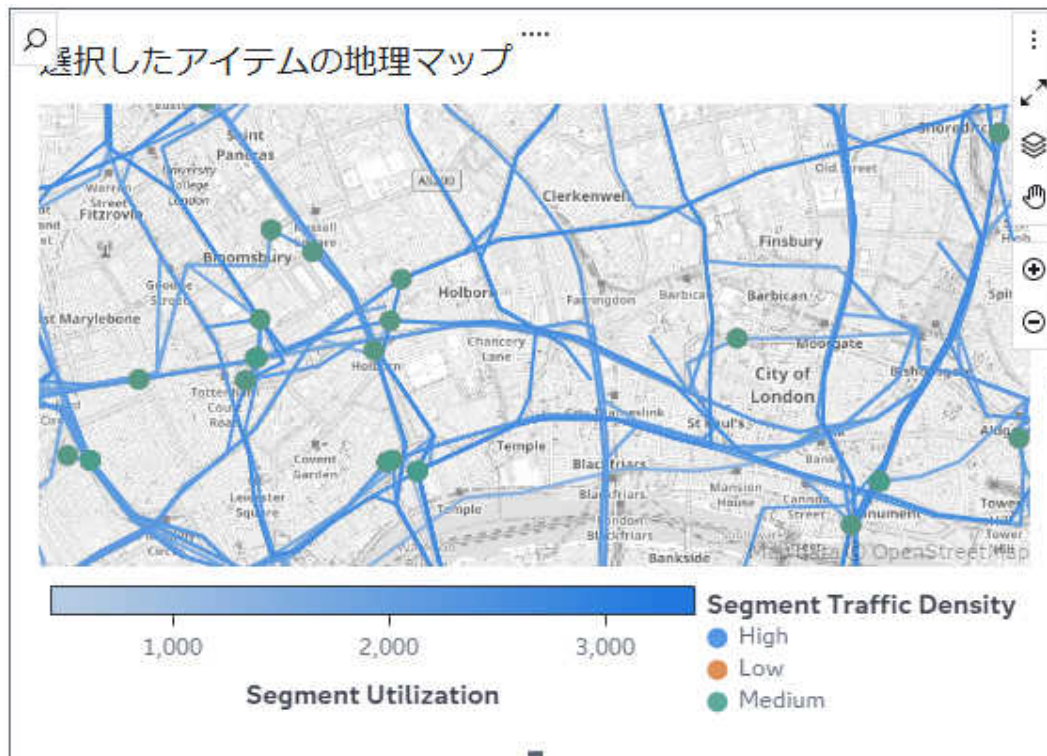
座標の散布図を含むマップが表示されます。各マーカーは、地域を中心または場所の座標に配置されます。



地理ライン
線分がマップに表示されます。

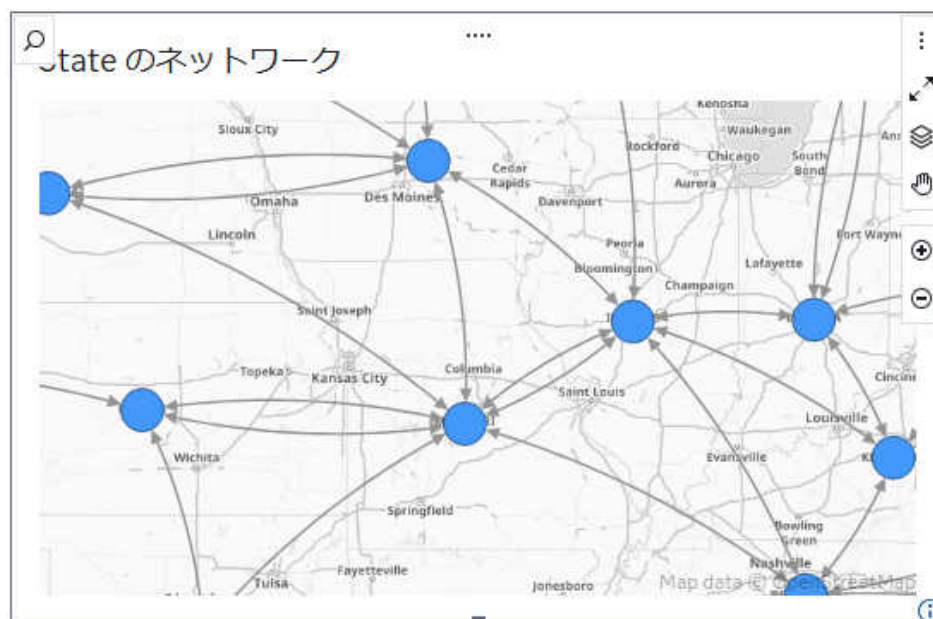


地理ライン-座標
線分と座標の散布図を含むマップが表示されます。



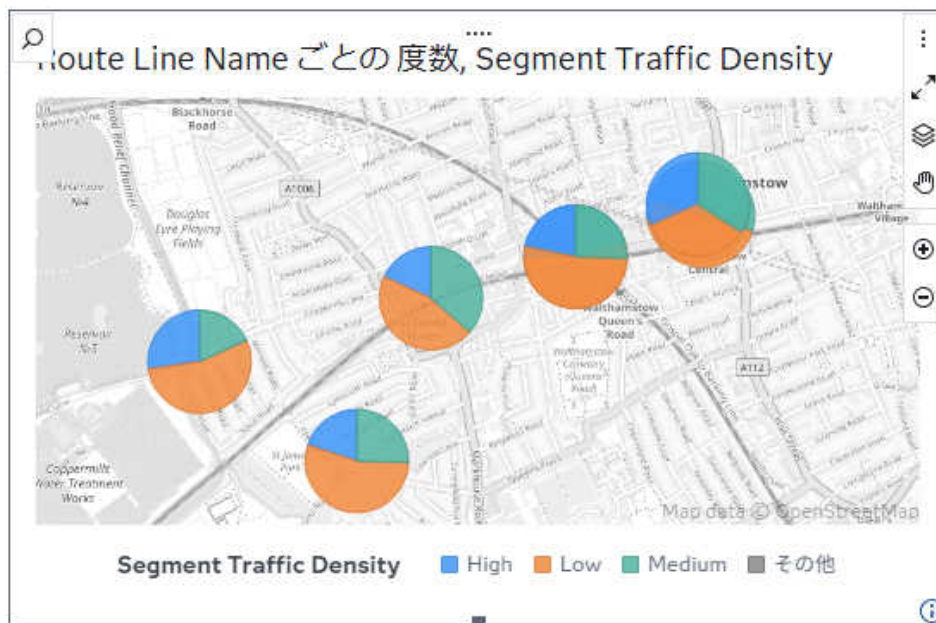
地理ネットワーク

ネットワークダイアグラムがマップに表示されます。地理ネットワークマップの詳細については、[“ネットワーク分析オブジェクトの操作” \(154 ページ\)](#)を参照してください。



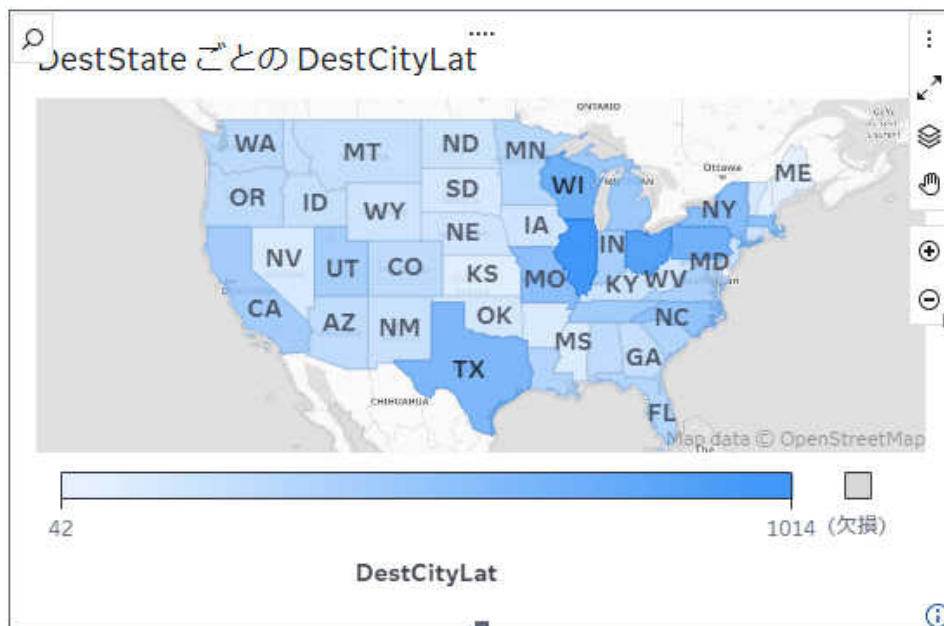
地理円グラフ

地理的領域の値の分布を表示する円グラフを含むマップを表示します。



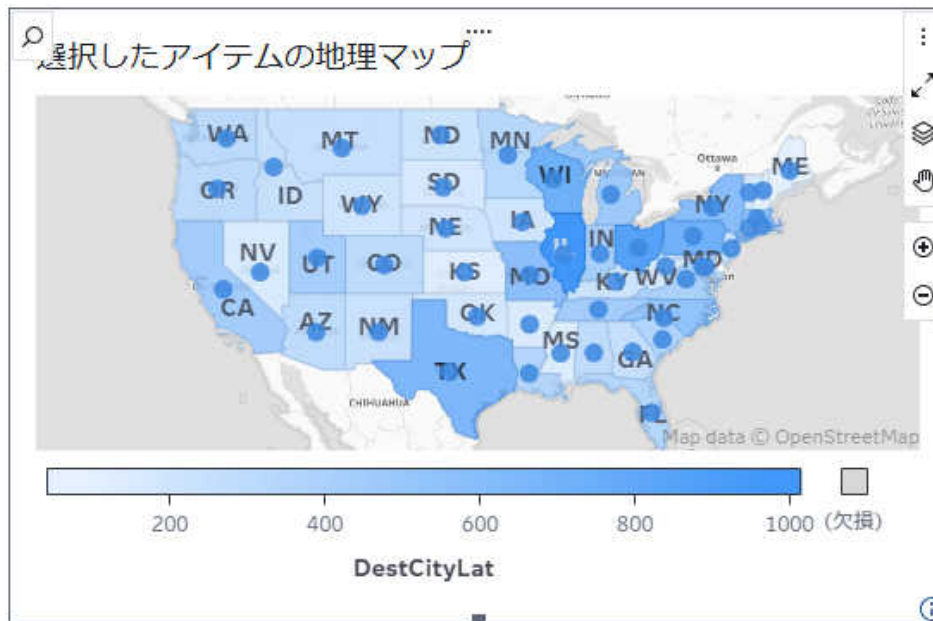
地理地域

色付きの領域がマップに表示されます。



地理地域-座標

色付きの領域と座標の散布図を含むマップが表示されます。



また、SAS Graph Builder を使用して、カスタマイズされたマップテンプレートを作成することもできます。詳細については、[SAS Graph Builder: ユーザーガイド](#)を参照してください。

ヒント “種類を変更”オプションを使用して、地理マップオブジェクト内の特定の層のマップの種類を変更できます。

地理マップのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“データ役割の割り当ての操作” ([SAS Visual Analytics: レポートデータの操作](#))を参照してください。

地理ネットワークオブジェクトについては、“ネットワーク分析オブジェクトのデータ役割” (154 ページ)を参照してください。

次のデータ役割が地理マップに適用されます。

地理情報

マップの地理地域または場所を識別する地理情報データアイテムを指定します。

地理情報データアイテムは、のアイコンによって識別されます。詳細については、“[地理情報データアイテムの操作](#)” ([SAS Visual Analytics: レポートデータの操作](#))を参照してください。

サイズ

地理バブル、地理座標、地理ライン-座標、地理地域-座標マップの場合、マーカーサイズまたはバブルサイズを決定するメジャーを指定します。

地理クラスターマップの場合、**サイズ**役割によって、マップ内のクラスター化されていないマーカーのサイズが決定されます。クラスターのサイズは、そのクラスターによって表されるマーカーの数を示します。

地理円グラフマップの場合、**サイズ**役割によって、マップ上の円グラフのサイズが決定されます。

メジャー

地理円グラフマップの場合、各円グラフのスライスのサイズを決定するメジャーを指定します。

カテゴリ

地理円グラフマップの場合、値が各円グラフのスライスで表されるカテゴリを指定します。

幅

地理ラインマップおよび地理ライン-座標マップの場合、線の幅を決定するメジャーを指定します。

色

マップ上のデータ要素の色を決定するカテゴリまたはメジャーを指定します。

注: マップ領域および線の場合、データ要素(領域または線)ごとに複数の値を持つカテゴリを指定すると、データの最初の値のみが各要素に表示されます。

地理等高線マップの場合、色役割によって、等高線プロットの形状の重み付けを決定するメジャーが指定されます。

注: 色は地理円グラフマップでは使用できません。

パターン

ラインマップおよびライン-座標マップの場合、マップ上の線に対して線の種類を決定するカテゴリを指定します。

注: マップ線の場合、線ごとに複数の値を持つカテゴリを指定すると、データの最初の値のみが各線に表示されます。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、["データチップ値データ役割について" \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

データラベル

データラベルオプションが有効になっているときに地理情報値のかわりに値が表示されるデータアイテムを指定します。

注: マップ領域および線の場合、データ要素(領域または線)ごとに複数の値を持つカテゴリを指定すると、データの最初の値のみが各要素に表示されます。円とクラスターの場合、カテゴリに複数の値がある場合、トークン(multiple values)が表示されます。

注: このオプションは、等高線マップでは使用できません。

データ値

地理地域および地理地域-座標マップの場合、データ値オプションが有効になっているときに値が表示されるデータアイテムを 1 つ以上指定します。

注: マップ領域の場合、領域ごとに複数の値を持つカテゴリを指定すると、データの最初の値のみが各領域に表示されます。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

注: アニメーションは、等高線マップやクラスターマップでは使用できません。

カテゴリが色役割に割り当てられている場合、アニメーション役割を割り当てることはできません。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: 地理地域-座標マップやライン-座標マップの場合、フィルターペインで作成した基本フィルターは、役割に割り当てられているデータアイテムに基づいている場合、スコープが単一のマップ層に限定されます。データアイテムがマップの両方の層に割り当てられており、そのデータアイテムを使用して両方の層をフィルタリングする場合は、フィルターを詳細フィルターとして作成します。

地理マップのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

地理ネットワークマップについては、“[ネットワーク分析オブジェクトのオプション](#)” (156 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、オプションペインで次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

ズームとパンを有効化

マップのズームとパンのコントロールを有効にします。このオプションを無効にすると、マップビューを現在の設定からズームしたりパンしたりすることができなくなります。

このオプションの選択を解除すると、不要なズームやパンがなくなります。

注: ユーザーが異なるマップ背景を選択した場合、またはマップ背景が異なるテーマを適用した場合、マップのズーム状態がデフォルトのビューに戻る場合があります。

データラベルの細線化を有効化

テキストの重複を避けるために、必要に応じてデータラベルを非表示にします。

注: このオプションは、地理等高線マップ、地理ラインマップ、および地理地域マップでは使用できません。

種類を変更

オブジェクト内の特定のマップ層のマップの種類を変更します。たとえば、地理地域-座標マップの領域オプショングループの横にある**種類を変更**をクリックすると、オブジェクトのその層を別のマップの種類に置き換えることができます。

種類を変更オプションを使用すると、領域-バブルマップなどのマップ要素のカスタムの組み合わせを作成できます。

透過性

データオーバーレイまたはマップ背景の透過性を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

データラベル

マップ上にある地域またはマーカーのラベルを表示します。

データ値

データ値役割に割り当てられているデータアイテムの値を表示します。このオプションは、地理地域マップと地理地域-座標マップでのみ使用できます。

注: このオプションは、**データ値**の役割が割り当てられていない場合は無効です。

マップの背景

背景マップを表示します。

マップサービス

背景マップのソースを指定します。**自動**を指定すると、背景マップはレポートテーマによって決定されます。ハイコントラストテーマでは、ハイコントラストマップが表示されます。

注: このオプションは、**マップの背景**が有効な場合にのみ使用できます。

地理領域マップと地理地域-座標マップでは、次の追加オプションを使用できます。

プレースホルダー領域

データに表されていない追加地域を表示します。プレースホルダー領域は、マップに追加のコンテンツを提供できます。

地理クラスターマップ、地理座標マップ、地理ライン-座標マップ、地理地域-座標マップでは、次の追加オプションを使用できます。

始めのマーカーの形

マーカーの形を指定します。地理クラスターマップの場合、このオプションはクラスター化されていないマーカーにのみ影響します。

カテゴリが**色**役割に割り当てられている場合、カテゴリの異なる値の数に応じて、複数のマーカーの形を使用できます。指定したマーカーの形は、最初の値セットに使用されます。レポートの**データ要素スタイルローテーション**オプションに応じて、複数のマーカーの形を使用することもできます。

固定マーカーサイズ

プロット内のマーカーの固定サイズを指定します。地理クラスターマップの場合、このオプションはクラスター化されていないマーカーにのみ影響します。

マーカーサイズの範囲

プロット内のマーカーのサイズ範囲を指定します。このオプションは、**サイズ**役割が割り当てられている場合にのみ使用できます。地理クラスターマップの場合、このオプションはクラスター化されていないマーカーにのみ影響します。

マーカーの塗りつぶしを使用

マーカーを塗りつぶすのか塗りつぶさないのかを指定します。

地理バブルマップの場合、次の追加オプションが使用できます。

バブルサイズの範囲

プロット内のバブルサイズの範囲を指定します。

地理クラスターマップの場合、次の追加オプションが使用できます。

値による色のクラスター

各クラスターによって表されるデータ値に基づいて、マップ内のクラスターに色を付けます。**色**役割が割り当てられていない場合、このオプションはなんの効果もありません。

メジャーが**色**役割に割り当てられている場合は、クラスター値に使用される集計の種類を選択できます。カテゴリが**色**役割に割り当てられている場合は、色が最も一般的な値(**ドミナント**)を表すのか、それとも最も一般的でない値(**最もドミナントでない**)を表すのかを選択できます。

最大クラスター

表示されるクラスターの最大数を指定します。

クラスタースペース

クラスター間の距離を指定します。一般に、値が小さいほどクラスターが多くなり、値を大きくするほどクラスターが少なくなります。

地理ラインマップと地理ライン-座標マップでは、次の追加オプションを使用できます。

固定した線の太さ

マップ上の線の固定した太さを指定します。このオプションは、**幅**の役割が割り当てられていない場合にのみ使用できます。

線の幅の範囲

プロット内の線の幅の範囲を指定します。このオプションは、**幅**の役割が割り当てられている場合にのみ使用できます。

地理等高線マップの場合、次の追加オプションが使用できます。

ベース等高線

データを含まないマップの領域(グリッドセル)に使用される等高線プロットのベース値を指定します。次のいずれかの値を指定します。

Missing

空のグリッドセルに欠損値を設定するように指定します。等高曲線は、この設定では不完全な形状を形成する可能性が高くなります。

ゼロ

空のグリッドセルにゼロの値を設定するように指定します。等高曲線は、この設定では完全な形状を形成する可能性が高くなります。

最小

空のグリッドセルの値が(度数または**色**役割に基づいて)最小集計セル値に等しくなるように指定します。等高曲線は、この設定では完全な形状を形成する可能性が高くなります。

2色の塗りつぶし

等高線形状の背景の色塗りつぶしが表示されます。このオプションが選択されていない場合、透明な背景が使用されます。

塗りつぶし

等高線領域の色塗りつぶしを表示します。このオプションは、**線**オプションが有効な場合にのみ無効にすることができます。

実線塗りつぶしまたは**グラデーション**塗りつぶしを選択できます。

レベル

表示する等高線レベル(値の範囲)の数値を指定します。

線

マップ上の各等高線レベルのアウトラインを表示します。

ビンの数

マップ上のデータを分析するために使用されるグリッドのサイズを指定します。一般に、ビン数が多いほど、ローカルなピークの周りで等高線がより近くに引き寄せられます。

注: 指定する値はグリッドの 1 辺の長さであるため、グリッドセルの実際の数是指定する値の 2 乗になります。たとえば、200 を指定すると、グリッドは 200 x 200 (40,000)セルになります。

注: デフォルトのデータ制限を使用する場合は、200 より大きいビン数を指定すると、データが切り捨てられます。切り捨てを回避するには、**システムデータ制限をオーバーライド**オプションを使用して、ビン数の 2 乗以上の制限を指定します。たとえば、ビン数が 300 の場合は、90,000 以上の制限を指定する必要があります。

地理円グラフマップの場合、次の追加オプションが使用できます。

グラフのスタイル

マップ上のグラフを円グラフ()とドーナツグラフ()のどちらで表示するかを指定します。

ドーナツ穴ラベル

各ドーナツグラフの中央にラベルを表示するかどうかを指定します。中央の値は、グラフ内のすべてのスライスの合計です。

リングの幅

各ドーナツグラフの中央にある穴のサイズを指定します。この幅は、ドーナツグラフの 1 つまたは複数のリングを描くために必要なスペースの量によって制限されます。

固定チャートサイズ

マップ上のすべてのチャートの固定サイズを指定します。このオプションは、**サイズ**役割が割り当てられていない場合にのみ使用できます。

チャートサイズの範囲

マップ上のチャートのサイズ範囲を指定します。このオプションは、**サイズ**役割が割り当てられている場合にのみ使用できます。

開始点(度)

グラフのレイアウトを指定された値(度単位)でオフセットします。**開始点**オプションのデフォルト値は 90 度です。

方向

スライスを時計回りまたは反時計回りのどちらに配置するかを指定します。円グラフに単一の円が表示されている場合、スライスはメジャー値の降順で配置されます。円グラフに格子が含まれている場合、スライスはカテゴリ値の昇順で配置されます。

“その他” スライス

小さな値をまとめて“その他”というラベルのスライスにします。“その他”スライスの最小パーセントオプションは、このグループのしきい値を指定します。

注: 円グラフで**“その他”** スライスオプションを選択せず、カテゴリ固有のランクで**他のすべて** オプションを選択している場合は、ランクは表示されません。

“その他” スライスの最小パーセント

個別のスライスとして表示される重複しない値に対するしきい値のパーセントを指定します。指定されたパーセントよりも小さい値が複数ある場合、それらの値は**“その他”**というラベルの付いたスライスにグループ化されます。

ヒント 円グラフの**“その他”**スライスの色を変更するには、**オプションペインのスタイルヘッダー**の下にある**その他**オプションを使用します。

地理マップのズーム

次のコントロールのいずれかを使用して、マップをズームできます。

- マウスホイールをスクロールしてポインターの位置をズームインまたはズームアウトします。
- ⊕をクリックしてズームインし、⊖をクリックしてズームアウトします。
- ㊄ポインターツールを使用して、クリックしてドラッグし、長方形のズーム選択を作成します。

地理マップのズーム状態をリセットするには、オブジェクトツールバーで**ズーム ⇄ ズームのリセット**を選択します。

地理マップの層の表示と非表示

地理マップに表示される層を選択するには、オブジェクトツールバーの㊄をクリックしてから、表示する層を選択します。

地理マップ上のポイントの特定

地理マップ上のポイントを特定するには、マップを右クリックして**地理情報ポイントの特定**を選択します。選択された点の数に最適な一致が表示されます。

ポインターツールを使用したマップのパン、形に基づく選択の作成、およびズーム

地理マップでは、マップをクリックしてドラッグすると、ポインタースタイルが異なるタスクを実行できます。デフォルトのポインタースタイルは、マップをパン(スクロール)することです。

選択したポインタースタイルを変更するには、オブジェクトツールバーで現在のポインタースタイルと一致するアイコンをクリックし、次のいずれかのアイコンを選択します。



マップをパン(スクロール)します。



長方形の選択を作成します。



円の選択を作成します。



自由形式の選択を作成します。



作成した長方形にマップをズームします。

地理マップの検索

注: 検索機能では、データ内の値は検索されません。かわりに、ArcGIS Online サービスの一部であるデータベースを検索します。

マップを検索するには、をクリックし、**検索**フィールドに検索用語を入力して Enter キーを押します。この検索では、現在のマップビュー内にあるビジネスや場所が返されます。検索結果は最大 20 件まで返されます。

検索を実行すると、結果がマップ上に検索結果ピンとしてマークされます。検索結果ピンをロケーションピンに変換するには、マップ上でピンをクリックし、**検索結果**ペインで**ピンに変換**をクリックします。

マップから検索結果ピンを削除するには、をクリックし、検索フィールドのをクリックして検索テキストを削除します。

注: 一部の結果は、より近いズームレベルでのみ表示されます。たとえば、マップに国全体が表示されている場合は、小規模ビジネスの結果が表示されないことがあります。

地理マップでのロケーションピンの操作

ロケーションピンについて

ロケーションピンを使用すると、マップ上に場所をマークできます。ピンはレポートとともに保存され、他のユーザーに表示されます。

新しいロケーションピンの作成

ロケーションピンの新規作成を作成するには、次のいずれかを実行します。

- **○**をクリックして地理検索ペインを開き、**ピンの新規作成**をクリックして、新しいピンを作成するマップ上のスポットをクリックして、**場所の設定**をクリックします。
- キーワードを検索した後、マップ上で検索結果のピンを選択し、**ピンに変換**をクリックします。

ピンの名前を入力し、ピンの色を選択することができます。**⋮**をクリックし、**詳細の追加**を選択すると、ピンの詳細を追加できます。

ピンの場所に新しい地理的機能を追加できます。**ルートの追加**をクリックしてルートを追加するか、**地理エリアの追加**をクリックして地理的領域を追加します。

ロケーションピンの削除

ピンを削除するには、マップ上のピンをクリックして選択し、**⋮**をクリックして**ピンの削除**を選択します。

地理マップでの地理的領域の操作

地理的領域について

地理バブルマップ、地理クラスターマップ、地理座標マップの場合、半径ベースの地理的領域を作成できます。地理的領域を選択すると、その領域内のデータポイントが自動的に選択されます。

地理的領域の作成

- 1 既存のロケーションピンを選択して**地理エリアの追加**を選択するか、マップ上の**○**をクリックして**地理エリアの新規作成**をクリックします。

- 2 ロケーションピンに基づいていない地理的領域を作成している場合は、マップ上をクリックして地理的領域の中心の場所を設定し、**場所の設定**をクリックします。**場所**フィールドに検索を入力して場所を検索することもできます。

- 3 SAS Visual Analytics 設定で Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしている場合は、**トラベルの種類**の値を選択します。

距離

距離をマイルまたはキロメートルで表した円形の領域を作成します。Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしていない場合、**距離**はデフォルトのトラベルの種類です。

運転距離

道路を使用した運転距離に基づいて不規則な領域を作成します。

運転時間

道路を使用した運転時間に基づいて不規則な領域を作成します。

トラッキング距離

トラック通行可能な道路を使用した運転距離に基づいて不規則な領域を作成します。

トラッキング時間

トラック通行可能な道路を使用し、トラックに掲示された制限速度を使用して、運転時間に基づいて不規則な領域を作成します。

ウォーキング距離

使用可能な場合は歩行道や歩道を使用し、ウォーキング距離に基づいて不規則な領域を作成します。

ウォーキング時間

使用可能な場合は歩行道や歩道を使用し、ウォーキング時間に基づいて不規則な領域を作成します。ウォーキング時間は平均的な歩行速度に基づいています。

- 4 運転時間またはトラッキング時間に基づく半径の場合、**トラフィックを含む**ドロップダウンリストを使用して、グラフィック機能の移動時間を計算するためにトラフィックを使用する方法を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

いいえ

移動時間の計算に、すべての時間帯およびすべての曜日の過去のトラフィックデータの重み付き平均を使用することを指定します。

現在のトラフィック

移動時間の計算に現在のトラフィック状況を使用することを指定します。をクリックすると、このトラフィックデータを更新できます。ユーザーがレポートを表示しても、トラフィックは自動的に更新されません。ユーザーは、最新のトラフィック状況を反映するためにトラフィックデータを更新する必要があります。

オプションで、現在時刻からオフセットする時間を指定できます。たとえば、**+1 時間**を指定すると、1 時間後の予想トラフィックが使用されます。

典型的なトラフィック

移動時間の計算に、指定された時間と曜日の典型的なトラフィックを使用することを指定します。典型的なトラフィック状況は、最近の履歴データに基づいています。

注: 指定した時間は、マップ上の場所のローカル時間です。

- 5 領域の半径を指定します。移動距離に基づく半径の場合、値は 50 マイルまたは 80 キロメートル以下である必要があります。時間ベースの半径の場合、値は 60 分以下である必要があります。

⋮を選択し、**距離の単位**を選択すると、距離の単位としてマイルとキロメートルのどちらかを選択できます。

- 6 (オプション)選択範囲に追加の半径を追加します。

新規半径を作成するには、**+**をクリックし、距離または時間の値を指定します。

- 7 **領域を描画**をクリックして地理的領域を作成します。

地理的領域から選択フィルターを作成する

地理的領域にデータポイントが含まれている場合は、そのデータポイントを使用してデータをフィルタリングすることができます。選択フィルターを作成するには、地理的領域を選択し、マップ内で右クリックして、**選択の新しいフィルター** ⇒ **選択したアイテムのみ含む**を選択します。除外フィルターを作成するには、マップ内で右クリックして、**選択の新しいフィルター** ⇒ **選択したアイテムを除外**を選択します。

地理的領域の人口統計の表示

Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしている場合は、その領域の人口統計データを表示できます。たとえば、営業所から車で 10 分以内のエリアの総人口と平均収入を表示することができます。

注: 人口統計データを表示するには、Esri ArcGIS Online アカウントに GeoEnrichment 権限が必要です。サポートが必要な場合は、Esri ArcGIS 管理者に問い合わせてください。

人口統計データを表示するには、次の操作を行います。

- 1 地理的領域を作成します。
- 2 **人口統計の表示**をクリックします。**人口統計**ウィンドウが表示されます。
- 3 1 つ以上の人口統計統計量を選択して現在の選択を取得し、**OK** をクリックします。

情報ウィンドウには、現在の選択に関する選択された人口統計統計量が表示されます。複数の統計量を選択した場合は、左矢印と右矢印のボタンをクリックして統計量をスクロールできます。

地理的領域の人口統計データを表示している場合は、をクリックし、次にその地理的領域のをクリックすると、人口統計にすばやくアクセスできます。

注: 地理的領域に複数の半径が含まれている場合、人口統計は常に領域全体に関するものになります。領域のサブセットの人口統計データを表示することはできません。

地理的領域の削除

地理的領域を削除するには、をクリックして、削除する地理的領域を選択します。次に、**⋮**をクリックして、**削除**を選択します。

地理マップ上のルートの操作

ルートの描画

地理マップにルートを描画するには、次の操作を行います。

- 1 既存のロケーションピンを選択して**ルートの追加**を選択するか、マップ上の○をクリックして**ルートの新規作成**をクリックします。
- 2 ルートの一部となる場所を指定します。次のいずれかの方法を使用して、各場所を指定できます。
 - 場所フィールドに住所または検索用語を入力し、一致する検索結果を選択します。
 - 場所フィールドを選択し、マップ上のスポットをクリックして**場所の設定**を選択します。
- 3 SAS Visual Analytics 設定で Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしている場合は、**トラベルの種類**の値を選択します。

直接

場所から場所への直接ルートを描画します。Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしていない場合、デフォルトのトラベルの種類は**直接**です。

運転距離

道路を使用したルートを描画します。

運転時間

道路を使用したルートを描画します。運転時間と運転距離が表示されます。運転時間の計算にトラフィックを使用するかどうかを指定できます。

トラッキング距離

トラックを許可する道路を使用してルートを描画します。

トラッキング時間

トラック通行可能な道路を使用し、トラックに掲示された制限速度を使用して、ルートを描画します。運転時間と運転距離が表示されます。運転時間の計算にトラフィックを使用するかどうかを指定できます。

ウォーキング距離

使用可能な場合は小道や歩道を使用してウォーキングルートを描画します。

ウォーキング時間

使用可能な場合は小道や歩道を使用してウォーキングルートを描画します。ウォーキング距離とウォーキング時間が表示されます。ウォーキング時間の計算にトラフィックを使用するかどうかを指定できます。

- 4 運転時間またはトラッキング時間を計算するルートの場合、**トラフィックを含む**ドロップダウンリストを使用して、グラフィック機能の移動時間を計算するためにトラフィックを使用する方法を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

いいえ

移動時間の計算に、すべての時間帯およびすべての曜日の過去のトラフィックデータの重み付き平均を使用することを指定します。

現在のトラフィック

移動時間の計算に現在のトラフィック状況を使用することを指定します。このトラフィックデータは、📍をクリックすることで更新できます。ユーザーがレポートを表示しても、トラフィックは自動的に更新されません。ユーザーは、最新のトラフィック状況を反映するためにトラフィックデータを更新する必要があります。

オプションで、現在時刻からオフセットする時間を指定できます。たとえば、**+1 時間**を指定すると、1 時間後の予想トラフィックが使用されます。

典型的なトラフィック

移動時間の計算に、指定された時間と曜日の典型的なトラフィックを使用することを指定します。典型的なトラフィック状況は、最近の履歴データに基づいています。

注: 指定した時間は、マップ上の場所のローカル時間です。

- 5 (オプション)ルートに場所を追加します。

新しい場所を作成するには、**+**をクリックします。

- 6 **ルートを描画**をクリックしてルートを作成します。

⋮を選択し、**距離の単位**を選択すると、距離の単位としてマイルとキロメートルのどちらかを選択できます。

ルート内の場所の並べ替え

ルート内の場所を並べ替えるには、リスト内で場所をクリックして上下にドラッグします。

ルートの方向を反転するには、↕をクリックします。

ルートの削除

ルートを削除するには、ルートを選択し、⋮をクリックして、**ルートの削除**を選択します。

ツリーマップの操作

ツリーマップについて

ツリーマップは、一連の長方形のタイルとして階層またはカテゴリを表示します。各タイルは、カテゴリ値または階層ノードを表します。各タイルのサイズは、度数カウントまたはメジャーの値を表します。メジャーを色役割に割り当てると、各タイルの色はそのメジャーの値を表します。

注: ツリーマップは負の値を表示できません。

ツリーマップのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ツリーマップの基本的なデータ役割は次のとおりです。

タイル

ツリーマップにタイルを作成するために使用されるカテゴリまたは階層を指定します。

サイズ

各タイルのサイズを決定するメジャーを指定します。**サイズ**の役割を指定しない場合、タイルサイズは度数カウントによって決定されます。

注: **サイズ**の役割の集計値のいずれかが負のサイズ値またはゼロの値になると、エラーが表示されます。

色

タイルの色を決定するメジャーを指定します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ツリーマップのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

配置

ツリーマップ内のタイルのレイアウトを指定します。次のいずれかの値を選択します。

標準

タイルを値の昇順に配置し、通常は最大のタイルが左下に配置されます。

フロー

値の昇順にタイルを配置し、左から右に表示されます。

切り替え

タイルを値の昇順に配置し、左から右に 1 行として表示されます。

タイルの向きは、階層レベルの間で交互になります。最上位レベルは行として、第 2 レベルは列などに配置されます。

レベルインジケータ

ツリーマップの上にあるカテゴリまたは選択した階層レベルの名前を表示します。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドする棒の自動塗りつぶしの色の色と透過性を指定します。

外枠のスタイル

タイルの外枠の線の幅と色を指定します。

データラベル

棒の方向に応じて、データ値をバーの水平方向または垂直方向のテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

ツリーマップサイズの凡例

サイズ変数の凡例を表示します。このオプションはデフォルトで選択されています。

固定タイトル

ツリーマップの凡例が変更されても変更されないタイトルを指定します。タイトルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

スケールの抽出

凡例値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1 と省略され、**millions** という単語が凡例のタイトルに追加されます。

ツリーマップ連続凡例

色変数がある場合、連続グラデーションの凡例を表示します。

固定タイトル

連続凡例が変更されても変更されないタイトルを指定します。固定タイトルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

スケールの抽出

凡例値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1 と省略され、**millions** という単語が凡例のタイトルに追加されます。

ラベルの位置

ラベルの位置を自動にするか、変曲点に配置するかを指定します。

ラベルのテキストの色

連続凡例ラベルの色を指定します。

データドリブンのコンテンツの操作

データドリブンのコンテンツについて

データドリブンのコンテンツオブジェクトを使用すると、SAS Visual Analytics レポート内のサードパーティのカスタムビジュアルにデータを表示できます。サードパーティのビジュアルは、D3.js、Google Charts、CanvasJS などの任意の JavaScript チャートフレームワークで作成されます。データドリブンのコンテンツオブジェクトのビジュアルは、レポートの他のオブジェクトと同じように、SAS Visual Analytics からデータを受け取り、フィルター、ランク、アクションを対話操作します。

サードパーティ製のビジュアルに加えて、IFrame に表示できるすべての Web コンテンツを表示できます。

注: レポートを印刷するときは、データドリブンのコンテンツオブジェクトは含まれません。

データドリブンのコンテンツのサードパーティビジュアルの作成情報については、“[データドリブンのビジュアルのプログラミングに関する考慮事項](#)” (SAS Visual Analytics: リファレンス)を参照してください。

サードパーティ製のビジュアルのサンプルを検索して共有するには、SAS Software GitHub リポジトリ(<https://github.com/sassoftware/sas-visualanalytics-thirdpartyvisualizations>)を参照してください。

データドリブンのコンテンツのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

データドリブンのコンテンツの基本的なデータ役割は**変数**です。割り当てるデータアイテムの種類と数は、データドリブンのコンテンツのオブジェクトに表示されるビジュアルによって異なります。

注: サードパーティのビジュアルの実装によっては、データアイテムの順序が重要になる場合があります。

注: 数値データは、サードパーティのビジュアルと未フォーマットデータとして交換されます。数値変数のフォーマット設定は、サードパーティ製のビジュアルによって制御されます。

データドリブンのコンテンツのオプション

全般オプションの詳細については、[“オプションペインの使用” \(24 ページ\)](#)を参照してください。

注: サードパーティのビジュアル化が大量のデータで使用されることを意図していない場合は、**システムデータ制限をオーバーライド**オプションを使用して、ビジュアル化に適したデータ制限を設定します。

全般オプションに加えて、**URL** オプションを指定することができます。**URL** オプションは、データドリブンのコンテンツのオブジェクトに表示されるサードパーティのビジュアルの場所を指定します。

テキストフィールドに URL を入力するか、管理者が定義した URL を選択することができます。[“データドリブンのコンテンツの URL マッピングの定義” \(SAS Visual Analytics: レポートのデザイン\)](#)を参照してください。

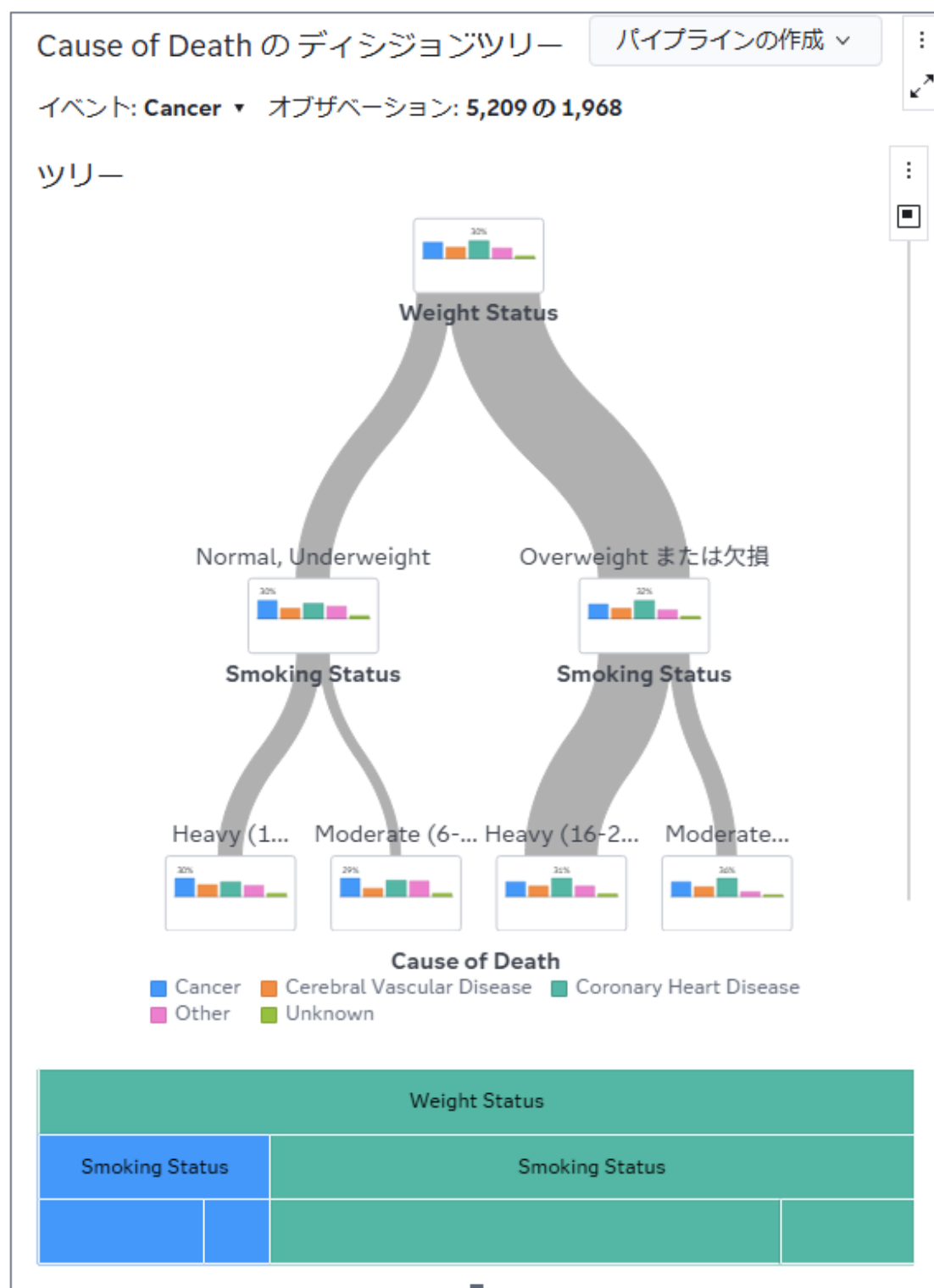
URL を開くをクリックすると、新しいブラウザータブで URL を確認できます。

ディシジョンツリーの操作

ディシジョンツリーについて

注: このトピックでは、SAS Visual Analytics で使用可能な基本的なディシジョンツリーについて説明します。サイトに SAS Visual Statistics がライセンスされている場合、ディシジョンツリーには高度な機能が含まれます。ディシジョンツリーは、**オブジェクトペインの統計量ヘッダー**の下にあります。詳細については、[“ディシジョンツリーの操作” \(SAS Visual Analytics: 統計量オブジェクトの操作\)](#)を参照してください。

ディシジョンツリーは、1 つ以上の予測子データアイテムの値を使用して、応答データアイテムの値を予測します。ディシジョンツリーでは、一連のノードをツリーとして表示します。最上位ノードは応答データアイテムで、ツリーのブランチは予測子データアイテムの値の分岐を表しています。ディシジョンツリーは、分類ツリーと回帰ツリーとも呼ばれます。



ツリーの各ブランチには、分岐の上位にあるブランチの予測子の名前が表示されます。ブランチの太さは、各ノードに関連付けられている値の数値を示します。各ノードの予測子値はノードの上に表示されます。

ツリーの各ノードは、ノードのデータをヒストグラム(応答に連続データが含まれる場合)または棒グラフ(応答に離散データが含まれる場合)として表示します。各ノードのヒストグラムまたは棒グラフには、ツリーの分岐によって選択された応答データアイテムの値が表示されます。

ディシジョンツリーの下には、ノードのつららプロットが表示されます。つららプロット内のノードの色は、ノードの予測レベル(離散またはビンングされた応答の場合)またはノードの集計された値(非結合の連続応答の場合)のいずれかを示します。ディシジョンツリーまたはつららプロットのいずれかでノードを選択すると、対応するノードがその他の場所で選択されます。

SAS Visual Analytics のディシジョンツリーでは、C4.5 アルゴリズムの変更バージョンが使用されます。

ディシジョンツリーのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ディシジョンツリーの基本的なデータ役割は次のとおりです。

応答

ディシジョンツリーの応答を指定します。すべてのカテゴリまたはメジャーを指定できます。ディシジョンツリーは、応答データアイテムの値を予測しようとしています。ツリー内の各ノードには、応答データアイテムの値が表示されます。

予測子

ディシジョンツリーの予測子を指定します。1 つまたは複数のカテゴリまたはメジャーを予測子として指定できます。予測子データアイテムの値は、ツリーのノードの上に表示されます。予測子リスト内のデータアイテムの順序はツリーに影響しません。

注: 予測子がツリーの予測精度に寄与しない場合、または寄与率が剪定された場合、予測子は表示される最終ツリーには含まれません。

ディシジョンツリーのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

欠損値の割り当て

欠損値がモデルにどのように含まれるかを指定します。

なし

欠損値のあるオブザベーションはモデルから除外されます。

検索に使用

欠損値は固有の測定レベルとみなされ、モデルに含まれます。

マシン最小値として

欠損している間隔値は可能な限り小さなマシン値に設定され、欠損しているカテゴリ値は固有の測定レベルとして扱われます。

好評

欠損値を持つオブザベーションは、ほとんどのオブザベーションを持つ子ノードに割り当てられます。

類似

カテゴリ応答のカイ 2 乗テストまたはメジャー応答の F テストによって最も類似しているとみなされるノードに欠損値を有するオブザベーションが割り当てられます。

最小値

欠損値が異なるカテゴリレベルとして扱われる前に、欠損値が許容される最小のオブザベーションの数を指定します。

成長の方法

ディシジョンツリーの作成に使用されるパラメーターを指定します。次のいずれかの値を選択します。

基本

分岐あたり最大 2 つのブランチと最大 6 つのレベルを持つ単純なツリーを指定します。詳細については、[表 5 \(135 ページ\)](#)を参照してください。

詳細

分岐あたり最大 4 つのブランチと最大 6 つのレベルを持つ複雑なツリーを指定します。詳細については、[表 5 \(135 ページ\)](#)を参照してください。

カスタム

各パラメーターの値を選択することができます。

成長の方法の値として**カスタム**を選択すると、次の追加オプションが表示されます。

最大ブランチ数

分岐された各ノードの最大ブランチ数を指定します。

最大レベル数

ツリー内のレベルの最大数を指定します。

リーフのサイズ

各ノードの最小数の値(カウント)を指定します。

予測子ビン

予測子データアイテムに使用されるビン数を指定します。

注: このオプションは、予測子データアイテムに離散データが含まれている場合は無効です。

高カーディナリティの予測子

各ノードでカテゴリ予測値のカーディナリティ制限を大きくすることができます。ノードのカーディナリティ制限を超えた場合、予測子はそのノードの分岐候補に含まれません。

注: このオプションが有効になっていない場合、デフォルトのカーディナリティ制限は 128 です。

剪定

ツリーに適用される剪定のレベルを指定します。剪定は、ツリーの予測精度に最も寄与するリーフとブランチを削除します。剪定値を高くすると、より多くのリーフとブランチがツリーから削除されます。

予測子の再利用

予測子をブランチで複数回使用できることを指定します。つまり、リーフにつながるパス上で予測子を複数回使用することができます。

成長の方法の**基本**と**詳細**には、次のパラメーター値が使用されます。

表 5 成長の方法の基本と詳細のパラメーター値

プロパティ	基本値	詳細値
最大ブランチ数	2	4
最大レベル数	6	6
リーフのサイズ	1	1
ビン応答変数	いいえ	いいえ
応答ビン	10	10
予測子ビン	2	10
剪定	0	0
予測子の再利用	いいえ	はい

次のオプションは、**ツリー表示**で使用できます。

表示されたビジュアル

表示されるオブジェクトの要素を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

次のオプションは、**ディシジョンツリー / つららプロット**で使用できます。

表示する統計

ディシジョンツリーのノードが**カウント**統計量または**パーセント**統計量を表示するかどうかを指定します。この統計量は、つららプロットのノードのデータチップにも示されています。

凡例の表示

ディシジョンツリーの凡例を表示するかどうかを指定します。

ディシジョンツリーからリーフ ID データアイテムを派生させる

ディシジョンツリーの結果を表すリーフ ID データアイテムを派生させることができます。リーフ ID データアイテムは、ディシジョンツリーの詳細テーブルのノード ID に対応する値を作成します。

フィルターのリーフ ID データアイテムを使用して、その他の種類のオブジェクトのディシジョンツリーノードの値を選択することができます。

ディシジョンツリーからリーフ ID データアイテムを計算するには、次の操作を行います。

- 1 オブジェクトツールバーの  をクリックし、**リーフ ID 変数を派生**を選択します。
- 2 **新しいリーフ ID** ウィンドウに、新規派生アイテムの**名前**を入力します。
- 3 **OK** をクリックして、新しいデータアイテムを作成します。

概要の表示

大きなツリーの場合は、概要でツリーの表示される部分を選択することができます。

概要を表示するには、オブジェクトツールバーの  をクリックします。

ディシジョンツリーのズーム

マウスホイールをスクロールすることにより、ディシジョンツリーをズームすることができます。ディシジョンツリーは、ポインターの位置をズームインおよびズームアウトします。

カテゴリ応答またはビンニング済みメジャーを含むディシジョンツリーをズームアウトすると、各リーフノードは、そのノードの中で最大の値を示す単一の棒を表示します。

ビンされていないメジャー応答を含むディシジョンツリーをズームアウトすると、各リーフノードの色はノードの平均応答値を示します。

ディシジョンツリーを拡大したときに、そのディシジョンツリーの位置を変更するには、そのツリーをクリックしてドラッグします。

テキストオブジェクトの操作

テキストオブジェクトについて

テキストオブジェクトは、静的テキストと動的テキストの両方を表示できます。テキストを使用してメッセージ(機密文など)を伝えたり、その他のオブジェクトに注釈を付けたり、キー値を表示することができます。テキストにハイパーリンクを付けることができます。ハイパーリンクの詳細情報については、[“テキストオブジェクトからのリンクの作成” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

動的テキストは表示ルールをサポートしています。表示される値は、アクション、フィルターおよびランクの影響を受けます。詳細については、[“テキストオブジェクトに動的テキストを表示する” \(137 ページ\)](#)を参照してください。

注: 動的テキストをテキストオブジェクトに貼り付けることはできません。

SAS Visual Analytics はレポートがレンダリングされるときに、任意のテキストオブジェクトの高さと幅を自動的に計算します。これにより、さまざまな画面サイズでレポートの移植性が向上します。たとえば、テキストオブジェクトの高さは、レポートの高さの 10%、レポートの高さの 5% が別の画面に表示されます。テキストオブジェクトを常に任意の画面のレポートの高さと幅の固定割合にしたい場合は、**オプションペインで幅を指定と高さを指定** オプションを使用できます。

テキストオブジェクトオプションの指定

- 1 キャンバス上で更新するテキストオブジェクトを選択します(選択していない場合)。
- 2 **オプション**ペインが表示されていない場合、 をクリックします。
- 3 テキストオブジェクトの一般的なオプション(名前やタイトルなど)を更新します。

デフォルトでは、テキストオブジェクトでは**ビューアーでの選択を有効化**オプションは選択されていません。つまり、レポートを表示するユーザーは、レポート内のテキストを選択できません。

テキストオブジェクトスタイルの指定

テキストオブジェクトのテキストを編集すると、**リッチテキストの編集**ウィンドウが表示されます。ツールバーを使用して、フォントや段落の配置などのスタイルオプションを変更することができます。また、ツールバーを使用してテキストオブジェクトからリンクを作成することもできます。詳細については、[“テキストオブジェクトからのリンクの作成” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

テキストオブジェクトに動的テキストを表示する

テキストオブジェクトは、複数の種類の動的テキストをサポートします。

- メジャー値
- パラメーター値
- 現在のデータソースの最新の更新のタイムスタンプ
- 現在のインタラクティブフィルターの説明(プロンプトから、および他のオブジェクトとのアクションから)

テキストオブジェクトにメジャーまたはパラメーターを追加するには、ツールバーの**データ**ドロップダウンリストから選択します。また、メジャーまたはパラメーターをテキストオブジェクトに追加するには、**データ**ペインからドラッグすることも、**データ役割**ペインに追加することもできます。

現在のデータソースの最新の更新のタイムスタンプを追加するには、ツールバーで**データ** ⇨ **テーブルの更新時間**を選択します。

現在のインタラクティブフィルターの説明を追加するには、ツールバーで**データ ⇨ インタラクティブ フィルター**を選択します。

動的テキストを使用する場合の追加の考慮事項は次のとおりです。

- 動的テキストを含むテキストをコピーして貼り付け(またはカットして貼り付け)することはできません。
- **メジャー**の役割にアイテムが割り当てられていない場合は、タイムスタンプまたはフィルターの説明を追加すると、度数が自動的に割り当てられます。度数が自動的に割り当てられる場合、度数値は表示されません。度数値を表示するには、手動で割り当てる必要があります。

テキストトピックの操作

テキストトピックについて

テキストトピックオブジェクトは、文字データアイテムに含まれているワードの集合を表示します。クラウド内の各ワードのサイズは、ワードの重要性(トピックの語の重み)を示しています。

テキストトピックオブジェクトは、ドキュメントコレクション内の各値を、複数のワードを含むテキストドキュメントとして分析します。ドキュメントコレクション内で頻繁に共に現れる複数のワードは、トピックとして識別されます。選択したトピックについて、テキストトピックオブジェクトは最大のトピックの語の重み値を持つ語を表示します。トピックの語の重みは、トピック内での語の重要性を示します。

テキストトピックオブジェクトでは、トピック内のドキュメントがポジティブ、ネガティブ、ミックス、またはセンチメントなし(**なし**)を表すかどうかも表示できます。

ドキュメントテーブルと**詳細テーブル(最大化モード)**には、テキストトピックオブジェクトの語、トピックおよびドキュメントに関する追加情報が含まれています。詳細については、[“テキストトピックの結果の探索” \(141 ページ\)](#)を参照してください。

テキストトピックを有効にするには、データソースの重複しない行識別子を設定する必要があります。詳細については、[“データの重複しない行識別子の設定” \(143 ページ\)](#)を参照してください。

テキストトピックについて重要なポイントを次に示します。

- データソースの行数とドキュメントコレクション内の値の長さに応じて、テキストトピックオブジェクトでは、表示および選択して応答するためかなりの時間を要することがあります。
- テキストトピックオブジェクトのデータソースは、UTF-8 でエンコードする必要があります。データソースのエンコーディングが異なる場合、一部の文字が正確に表示されず、エラーメッセージが表示されることがあります。
- SAS Visual Analytics のテキストトピックオブジェクトでは、SAS Text Miner および SAS Visual Text Analytics とは異なるドキュメント正規化プロセスが使用されます。結果は、SAS Text Miner および SAS Visual Text Analytics で生成される結果と異なる場合があります。

テキストトピックオブジェクトのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

テキストトピックオブジェクトの場合、基本的な役割は**ドキュメントコレクション**です。ドキュメントコレクションは、分析するワードを含むカテゴリデータアイテムです。

注: テキストトピックを有効にするには、**オプション**ペインで**言語**オプションを選択し、データソースの一意の行識別子を設定する必要もあります。一意の行識別子の設定の詳細については、“[データの重複しない行識別子の設定](#)” (143 ページ)を参照してください。

注: 重複しない行識別子データアイテムを**ドキュメントコレクション**役割に割り当てることはできません。

基本的な役割に加えて、次の役割を指定することができます。

ドキュメントの詳細

オブジェクトの下部にある**ドキュメント**テーブルの列として表示されるデータアイテムを指定します。

テキストトピックオブジェクトのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプション**ペインで次のオブジェクト固有オプションを指定できます。**テキストトピック**で次のオプションを指定することができます。

言語

ドキュメントコレクションの言語を指定します。使用可能な言語は、配置のライセンスによって異なります。

センチメントの分析

語のセンチメント分析を可能にします。

センチメント分析は、ドキュメントのコンテンツに基づいて、ドキュメントがポジティブなセンチメント、ネガティブなセンチメント、ミックスセンチメント、またはセンチメントなしかどうかを判断します。

センチメント分析が有効になっている場合、トピックグラフには、各トピックのポジティブ、ミックス、およびネガティブなドキュメントの数値が表示されます。さらに、センチメント値が**ドキュメント**テーブルに表示されます。

用語の解析と役割の特定

詳細オプションを非表示(**自動**)または表示(**カスタム**)にするかどうかを指定します。

用語の解析と役割の特定オプションの値として**カスタム**を選択した場合、**解析**ヘッダーで次のオプションが使用可能になります。

品詞を含める

品詞(例えば、名詞、動詞、形容詞)によって語が分類されることを指定します。各語の品詞は、その語のデータチップに表示されます。

名詞グループの抽出

名詞のグループを語として識別するかどうかを指定します。

エンティティの抽出

名前、住所、電話番号などのテキストエンティティを識別するかどうかを指定します。このオプションを無効にすると、テキストエンティティはその他のテキストとは異なる扱いを受けません。

語のステミング

指定されたワードのすべての形式が単一の語として識別されるかどうかを指定します。たとえば、**語のステミング**を選択すると、“sell”、“sells”、“selling”、“sold”というワードは、“sell”という単一の語として識別されます。

停止リストの使用 (使用可能な場合)

語を特定するときに“the”、“with”および“is”などの共有のワードを除くためにストップリストを使用するかどうかを指定します。停止リストがない場合は、ワードクラウドの下部にメッセージが表示されます。

ドキュメントの最小数

語が表示される必要があるドキュメントの最小数を指定します。1-20 の数値を指定します。語が最小数のドキュメントに表示されない場合、分析には含まれません。

トピック検出ヘッダーの下で、次の追加の詳細オプションを指定できます。

最大トピック数

作成するトピックの最大数値を指定します。2-25 の数値を指定します。

セルの重み

表示される各ドキュメントの各語の頻度を重み付けするかどうかを指定します。**対数**を選択すると、比較的少数のドキュメントに何度も出現する語が強調されます。

用語の重み

ドキュメントコレクション内の語の重み付けアルゴリズムを指定します。**エントロピー**重み付けアルゴリズムは、ドキュメントコレクション全体にわたって頻度が低い語を強調します。

ラベルに使用する語数

トピック名に含まれる語の数値を指定します。2-8 の数値を指定します。このオプションはトピックを選択するために使用される語の数値には影響しません。トピック名のみが変更されます。

モデル表示では、次のオプションを指定できます。

表示されたビジュアル

表示されるオブジェクトの要素を指定します。

グラフのレイアウト

グラフ内の要素のレイアウトを指定します。**当てはめ**を選択すると、キャンバス上のすべての要素が自動的に配置されます。一度に 1 つの要素を表示するには、**積み上げ**を選択します。

数値を省略表記

数値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。値のデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

表示するフィールド

オブジェクトヘッダーに表示される要素を指定します。

凡例の表示

凡例がトピック棒グラフと語ワードクラウドのために表示されるかどうかを指定します。

最小関連度

トピックが選択されたときに表示されるドキュメントの最小関連度の値を指定します。

ポジティブなドキュメント

ポジティブなセンチメントを持つドキュメントを表示します。

ミックスドキュメント

ミックス(ポジティブとネガティブ)センチメントを持つドキュメントを表示します。

なしドキュメント

センチメントが検出されなかったドキュメントを表示します。

ネガティブなドキュメント

ネガティブなセンチメントを持つドキュメントを表示します。

テキストトピックの結果の探索

ドキュメントテーブルの結果

ドキュメントテーブルには、選択した語が含まれている各ドキュメントが表示されます。各ドキュメントについて、**トピックの関連性**の値は、ドキュメントが選択されたトピックとどの程度関連しているかを示します。

注: データに少数の強いトピックが含まれている場合、ドキュメントがゼロのトピックが表示されることがあります。

センチメント分析が有効になっている場合、**センチメント値**は、ドキュメントがどのようにポジティブかネガティブかを識別します。ポジティブ、ネガティブ、ミックス、またはセンチメントなし(なし)のドキュメントを除くためにドキュメントをフィルタリングすることができます。センチメント値 0.7 以上はポジティブ、0.3 から 0.7 までの値はミックス、0.3 以下の値はネガティブです。センチメントが検出されなかったドキュメントのセンチメントは欠損値です。

最大化モードでの詳細テーブルの結果

最大化モードでは、詳細テーブルに次のタブが含まれます。

トピック

ドキュメントコレクション内のすべてのトピックを表示します。センチメント分析が有効になっている場合、各トピックに対してポジティブ、ミックス、ネガティブ、およびセンチメントなしのドキュメントの数が表示されます。

注: 列のヘッダーをクリックすると、いずれかの列を並べ替えることができます。

用語

選択範囲内のすべての語を表示します。トピックが選択されていない場合、**ドキュメント数**の値は語を含むドキュメントの数を示します。トピックを選択した場合、**トピックの重み**の値はトピック内の各用語の重要度を示します。

用語役割の指定オプションまたは品詞を含めるオプションが有効になっている場合、役割の値は各語の文法上の役割を識別します。

注: 列のヘッダーをクリックすると、いずれかの列を並べ替えることができます。

テキストトピック要約

テキストトピックの結果の自然言語による説明を提供します。

ドキュメントの全テキストの表示

ドキュメントテーブルには、各ドキュメントの最初の 250 文字だけが表示されます。ドキュメントの全テキストを表示するには、表示するドキュメントを選択し、**ドキュメントテーブル**を右クリックし、**ドキュメントの完全表示**を選択します。

注: **ドキュメントコレクション**役割に割り当てられているカテゴリの長さや文字出力形式によっては、**ドキュメントテキスト**ウィンドウにテキスト値全体が表示されないことがあります。

リスト表としてのドキュメントの探索

ドキュメントをリスト表として表示するには、探索するドキュメントを選択し、**ドキュメント表**を右クリックし、**選択したドキュメントからリスト表を作成**を選択します。

派生トピック

テキストトピックオブジェクト内のトピックを使用して、データソースに新規派生アイテムを作成できます。派生アイテムの値は、各行にトピックが含まれているかどうかを示す 1 または 0 です。

トピックを派生させるには、テキストトピックオブジェクトを右クリックし、**派生トピック**を選択します。**新しいトピックアイテム**ウィンドウが表示されます。派生させるトピックを選択し、**OK**をクリックします。派生トピックアイテムが**データペイン**に表示されます。

モデルスコアコードのエクスポート

モデルスコアリングとは、関心のある応答データアイテムを含む可能性のあるデータセットの予測値を生成するプロセスを指します。スコアコードは、SAS プログラミング環境の新規データセットで実行できる SAS プログラムとしてエクスポートされます。モデルによって使用されるすべてのデータアイテムがスコアコードに含まれます。

スコアコードを生成するには、テキストトピックオブジェクトを右クリックし、**モデルのエクスポート**を選択します。**モデルのエクスポート**ウィンドウで、**OK**をクリックします。

データの重複しない行識別子の設定

テキストトピックオブジェクトでは、データソースに重複しない行識別子カテゴリを割り当てる必要があります。重複しない行識別子には、データソースの各行の重複しない値が含まれています。

データソースに対して重複しない行識別子列を設定するには、**データペイン**でカテゴリを右クリックし、**重複しない行識別子に設定**を選択します。カテゴリにすべての行に重複しない値がない場合、**重複しない行識別子に設定**は無効になります。

ドットプロットの実行

ドットプロットについて

ドットプロットは、ドットを使用してカテゴリデータアイテムの値ごとにデータを表示します。Y(応答)軸の各ドットの位置は、値を表します。

ドットプロットのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、[“データ役割の割り当ての操作” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

ドットプロットの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。カテゴリは1つだけ割り当てることができ、カテゴリ値はX(カテゴリ)軸にプロットされます。メジャーは1つだけ割り当てることができ、メジャー値はY(応答)軸にプロットされます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、[“データチップ値データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりする

ときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

ドットプロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側または右側のどちらに表示するかを指定します。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

始めのマーカの形

マーカの形を指定します。色役割が割り当てられている場合、色役割に割り当てられているカテゴリの異なる値の数に応じて、複数のマーカの形を使用できます。指定したマーカの形は、最初の値セットに使用されます。レポートの[データ要素スタイルローテーション](#)オプションに応じて、複数のマーカの形を使用することもできます。

マーカの塗りつぶしを使用

マーカを塗りつぶすのか塗りつぶさないのかを指定します。

マーカサイズ

各マーカのサイズをピクセル単位で指定します。**自動**を指定すると、マーカサイズはプロットのポイントの密度に基づいて自動的に決定されます。

マーカの塗りつぶしの色

マーカの自動色設定をオーバーライドする色を指定します。

ニードルプロットの実行

ニードルプロットについて

ニードルプロットは、データポイントを横方向のベースラインに接続する垂直線を表示します。ニードルプロットは、指定された値の上と下の両方の値を表示する場合に便利です。

ニードルプロットのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ニードル プロットの基本的なデータ役割は次のとおりです。

X 軸

X 軸に割り当てられたデータアイテムを指定します。

Y 軸

Y 軸に割り当てられているメジャーを指定します。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ニードルプロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側¹または右側²のどちらに表示するかを指定します。

固定ベースライン

グラフのベースライン値を指定します。

ベースラインのスタイル

ベースラインの種類、幅、および色を指定します。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

線のスタイルのオーバーライド

線の種類、線の幅、および線の色を指定します。

マーカー

プロット内のデータポイントにマーカーを表示するかどうかを指定します。

このオプションを指定すると、マーカー記号、マーカーサイズ、およびマーカー色も指定できます。

二軸の折れ線グラフの操作

二軸の折れ線グラフについて

二軸の折れ線グラフは、共有カテゴリ軸のデータ値を接続する 2 つの線を使用してデータを表示します。

二軸の折れ線グラフのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

二軸の折れ線グラフの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1 つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値はカテゴリの軸にプロットされます。1 つのメジャーを各メジャー役割に割り当てることができ、各メジャーの値は別々の軸にプロットされます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: アニメーションデータ役割が割り当てられたグラフをアクションのソースにすることができません。ただし、このアクションはモバイルデバイスでは無効になります。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

二軸の折れ線グラフのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

固定ベースライン

折れ線グラフのベースライン値を指定します。

注: このオプションは、グラフに別々の Y 軸が表示されている場合は使用できません。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

グループ化スタイル

複数のメジャーがグラフに割り当てられているときに使用されるスタイルオーバーレイを指定します。次のいずれかを選択します。

オーバーレイの塗りつぶしなし

色の塗りつぶしがない線を表示します。

オーバーレイの塗りつぶし - フェード

透過性のある色で塗りつぶされた線が表示されます。

オーバーレイの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。

積み上げの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。積み上げられた線の値は、グラフのベースラインではなく、下の線を基準にプロットされます。

線

グラフ内のデータポイント間に線を引くかどうかを指定します。このオプションを選択すると、線のスタイル、線の幅、および線の色を指定できます。

デフォルトでは、**線**チェックボックスが選択されており、変更することはできません。チェックボックスは、**マーカー**オプションが選択されている場合にのみクリアできます。

マーカー

グラフ内のデータポイントのマーカーを示します。このオプションを選択すると、マーカーの記号、サイズ、および色を指定できます。

データラベル

グラフのデータ値をテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

二軸の時系列プロットの実操作

二軸の時系列プロットについて

二軸の時系列プロットは、共有時間軸上に重ね合わされた 2 つの時系列を表示します。

二軸の時系列プロットの実データ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

時系列プロットの実データ役割は、時間軸とメジャーです。1 つの日時データアイテムは時間軸にのみ割り当てることができます。プロット内の各線に 1 つのメジャーを割り当てることができます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

二軸の時系列プロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

固定ベースライン

折れ線グラフのベースライン値を指定します。

注: このオプションは、グラフに別々の Y 軸が表示されている場合は使用できません。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

グループ化スタイル

複数のメジャーがグラフに割り当てられているときに使用されるスタイルオーバーレイを指定します。次のいずれかを選択します。

オーバーレイの塗りつぶしなし

色の塗りつぶしがない線を表示します。

オーバーレイの塗りつぶし - フェード

透過性のある色で塗りつぶされた線が表示されます。

オーバーレイの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。

積み上げの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。積み上げられた線の値は、グラフのベースラインではなく、下の線を基準にプロットされます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドするグループスタイルオーバーレイの自動塗りつぶしの色を指定します。

線

グラフ内のデータポイント間に線を引くかどうかを指定します。このオプションを選択すると、線のスタイル、線の幅、および線の色を指定できます。

デフォルトでは、**線**チェックボックスが選択されており、変更することはできません。チェックボックスは、**マーカー**オプションが選択されている場合にのみクリアできます。

マーカー

グラフ内のデータポイントのマーカーを示します。このオプションを選択すると、マーカーの記号、サイズ、および色を指定できます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

データラベル

グラフのデータ値をテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

二軸の棒-折れ線グラフの操作

二軸の棒-折れ線グラフについて

二軸の棒-折れ線グラフは、共有のカテゴリ軸上に棒グラフと折れ線グラフを組み合わせたものです。棒グラフと折れ線グラフには、別々の応答軸があります。

デフォルトでは、二軸の棒-折れ線グラフは降順に最初のメジャーの値で並べ替えられます。

二軸の棒-折れ線グラフのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

二軸の棒-折れ線グラフの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値はカテゴリの軸にプロットされます。バーには1つのメジャーを、折れ線グラフには1つのメジャーを割り当てることができます。各メジャーは別々の軸にプロットされています。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: **アニメーション**データ役割が割り当てられたグラフをアクションのソースにすることができます。ただし、このアクションはモバイルデバイスでは無効になります。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

二軸の棒-折れ線グラフのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

固定ベースライン

棒グラフのベースライン値を指定します。

透過性

バーの透過性を指定します。

グループ化スタイル

複数のメジャーがグラフに割り当てられているときに使用されるスタイルオーバーレイを指定します。次のいずれかを選択します。

オーバーレイの塗りつぶしなし

色の塗りつぶしがない線を表示します。

オーバーレイの塗りつぶし - フェード

透過性のある色で塗りつぶされた線が表示されます。

オーバーレイの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。

積み上げの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。積み上げられた線の値は、グラフのベースラインではなく、下の線を基準にプロットされます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドするグループスタイルオーバーレイの自動塗りつぶしの色を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

線

グラフ内のデータポイント間に線を引くかどうかを指定します。このオプションを選択すると、線のスタイル、線の幅、および線の色を指定できます。

デフォルトでは、**線**チェックボックスが選択されており、変更することはできません。チェックボックスは、**マーカー**オプションが選択されている場合にのみクリアできます。

マーカー

グラフ内のデータポイントのマーカーを示します。このオプションを選択すると、マーカーの記号、サイズ、および色を指定できます。

データラベル

グラフのデータ値をテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

ベースラインのスタイル

ベースラインの種類、幅、および色を指定します。

スペーシング

棒の間のスペースのパーセンテージを指定します。デフォルトは 15% です。たとえば、**スペーシング** オプションに 80% の値を指定するとします。これにより、棒の間のスペースが増加し、棒が細くなります。

オフセット

すべてのステップ線とマーカーを X 軸値からオフセットする量を指定します。

セグメントラベル

棒の内側のセグメントのデータ値を示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

二軸の棒グラフの操作

二軸の棒グラフについて

二軸の棒グラフは、共通のカテゴリ軸と別々の応答軸を持つ 2 つの棒グラフを表示します。

デフォルトでは、棒グラフは最初のメジャーの値に基づいて降順に並べ替えられます。

二軸の棒グラフのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、[“データ役割の割り当ての操作” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#) を参照してください。

二軸の棒グラフの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1 つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値はカテゴリの軸にプロットされます。グラフ内の各応答軸に 1 つのメジャーを割り当てることができます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: アニメーションデータ役割が割り当てられたグラフをアクションのソースにすることができません。ただし、このアクションはモバイルデバイスでは無効になります。

二軸の棒グラフのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

ベースラインのスタイル

ベースラインの種類、幅、および色を指定します。

スペーシング

棒の間のスペースのパーセンテージを指定します。デフォルトは 15% です。たとえば、**スペーシング**オプションに 80% の値を指定するとします。これにより、棒の間のスペースが増加し、棒が細くなります。

オフセット

すべてのステップ線とマーカーを X 軸値からオフセットする量を指定します。

透過性

バーの透過性を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドする棒の自動塗りつぶしの色の色と透過性を指定します。

データラベル

棒の方向に応じて、データ値をバーの水平方向または垂直方向のテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

セグメントラベル

棒の内側のセグメントのデータ値を示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

ネットワーク分析オブジェクトの操作

ネットワーク分析オブジェクトについて

ネットワーク分析オブジェクトは、データアイテム値間の関係を一連のリンクされたノードとして表示します。

2種類のネットワーク分析を作成できます。

階層

階層を使用して階層構造を作成します。

グループ解除

ソースデータアイテムとターゲットデータアイテムを使用して構造を作成します。ソースデータアイテムの各値に対してノードが作成され、ターゲットデータアイテムの値に対応するノードへのリンクが各ノードから作成されます。

たとえば、ソースデータアイテムが組織内のすべての従業員の名前を指定し、ターゲットデータアイテムが各従業員のマネージャーを指定する場合、ネットワーク分析には、従業員のマネージャーのノードにリンクされている各従業員のノードがあります。

注: ネットワーク分析オブジェクトは、ネットワークアクションセットを使用します。詳細については、"[SAS Viya: Machine Learning Programming Guide](#)"の"ネットワークアクションセット"を参照してください。

注: 欠損値を識別する表示ルールは、ネットワーク分析オブジェクトに対して予期しない結果を返すことがあります。

ネットワーク分析オブジェクトのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、"[データ役割の割り当ての操作](#)" ([SAS Visual Analytics: レポートデータの操作](#))を参照してください。

階層型ネットワーク分析オブジェクトの基本データ役割

階層型ネットワーク分析オブジェクトの基本的なデータ役割は**レベル**です。**レベル**の役割の階層は、ネットワーク分析のノードを指定します。

グループ解除ネットワーク分析オブジェクトの基本データ役割

グループ解除ネットワーク分析オブジェクトの基本的なデータ役割は、**ソース**と**ターゲット**です。**ソース**は、プロットのすべてのノード値を含むデータアイテムを指定します。**ターゲット**は、ノード間のリンクを作成するデータアイテムを指定します。

ターゲットデータアイテムには、**ソース**データアイテムの値のサブセットが含まれていなければなりません。

グループ解除ネットワーク分析で最終値を表すには、最終値がソースデータアイテムの値で、ターゲットデータアイテムが欠損している行をデータに追加します。

たとえば、次のテーブルの最後の行は最終値を表します。

表 6 データ例テーブル

従業員	マネージャー	給料
EMP1	MGR1	40000
EMP2	MGR1	55000
EMP3	MGR1	50000
MGR1		75000

ネットワーク分析オブジェクトの追加データ役割

基本的なデータ役割に加えて、ネットワーク分析に次のデータ役割を指定することができます。

サイズ

ネットワーク分析のノードのサイズを決定するメジャーを指定します。

注: **サイズ**の役割に内部ネットワークメトリックを割り当てることができます。“[ネットワークメトリック](#)” (160 ページ)を参照してください。

色

ネットワーク内のノードの色を決定するデータアイテムを指定します。

注: 内部のメトリックを**色**役割に割り当てることができます。“[ネットワークメトリック](#)” (160 ページ)を参照してください。

リンクの幅

ネットワーク内のリンクの幅を決めるメジャーを指定します。

リンクの色

ネットワーク内のリンクの色を決定するデータアイテムを指定します。

ラベル

データラベルオプションが有効な場合、各ノードに値が表示されるデータアイテムを指定します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

ネットワーク分析オブジェクトのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**でオブジェクト固有オプションを指定することができます。**ネットワーク分析**で次のオプションを指定できます。

ネットワーク構造

表示するネットワークの種類を指定します。

階層では、階層データアイテムを使用してネットワークを作成します。

グループ解除は、ソースとターゲットを使用します。ソースデータアイテムの各値に対してノードが作成され、ターゲットデータアイテムの値に対応するノードへのリンクが各ノードから作成されます。

リンクの種類

ノード間のリンクを有向(一方向)にするか、無向(双方向)にするかを指定します。リンクの種類は、ネットワークメトリックの計算に影響します。リンクの矢印が表示されている場合、リンクの種類によってリンクの矢印の方向が決まります。

追加レベル

階層ネットワークの場合のみ、現在のレベルの下に表示されるレベルの数値を指定します。

コミュニティ解決

計算するコミュニティ(ローカルノードグループ)の相対数を指定します。ネットワークが変更されると、コミュニティは動的に更新されます。

注: このオプションは、**コミュニティ**メトリックが**色**役割に割り当てられている場合にのみ使用できます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

データラベル

ノード値を各ノードのテキストとして表示します。

注: 階層ネットワークの場合、**階層ネットワークのデフォルトノードラベル**設定は、表示されるラベルに影響します。“[SAS Visual Analytics 設定の変更](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートのデザイン*)を参照してください。

リンクの矢印

ネットワーク内のリンクに矢印が付いているかどうかを指定します。リンクの矢印の方向は、**リンクの種類**オプションによって異なります。

詳細リンク属性

ノードの各ペアの間のすべてのリンクを表示します。このオプションを無効にすると、ノード間のリンクが集計されます。

また、このオプションは、リンクが探索モードの詳細テーブルに集計されるかどうかを決定します。

リンクの曲率

リンクの曲率を指定します。

マップの背景

地理マップ上にオーバーレイとしてネットワークを表示します。

注: このオプションは、ノードを作成するすべてのデータ役割に地理情報(または地理情報階層)が割り当てられている場合にのみ使用できます。

マップサービス

背景マップのソースを指定します。

注: このオプションは、**マップの背景**が有効な場合にのみ使用できます。

透過性

背景マップの透過性を指定します。

注: このオプションは、**マップの背景**が有効な場合にのみ使用できます。

ネットワークレイアウトで次のオプションを指定できます。

ノードサイズ

ネットワーク内のすべてのノードのサイズを調整します。

力の強さ

力指向レイアウトアルゴリズムで使用される力の強さパラメーターを指定します。力の強さパラメーターは、ノードとリンクの位置をレイアウトする際のローカルな力とグローバルな力に対する相対的な強さを指定します。一般的に、値が大きいほど、ネットワーク全体でノード間のスペースが増えます。

注: **マップの背景**が有効な場合、このオプションは使用できません。

ノードの距離

力指向レイアウトアルゴリズムで使用される距離パラメーターを指定します。ノード距離パラメーターは、レイアウトアルゴリズムがノード間のグローバルな力をモデル化する最大距離を指定します。一般的に、値が大きいほど、ネットワーク全体でノード間のスペースが増えます。

注: **マップの背景**が有効な場合、このオプションは使用できません。

ソースノードを指定した場合(ノードを選択し、ダイアグラムを右クリックして**選択ソース**として設定を選択する)、**ノード選択**で次のオプションを指定できます。

ソースノード

現在のノード選択を表示します。

先行

選択するソースノードの先行(親)レベルの数値を選択します。0 はソースノードを指定します。複数の選択を行うことで範囲を指定することができます。たとえば、ソースノードと先行レベルの最初のレベルが選択されていることを指定するには、0 と 1 の両方を選択します。

注: このオプションは、**リンクの種類**の値が**有向**である場合にのみ使用できます。

後続

選択するソースノードの後続(子)のレベルの数値を選択します。0 はソースノードを指定します。複数の選択を行うことで範囲を指定することができます。たとえば、0 と 1 の両方を選択して、ソースノードと最初のレベルの後続ノードが選択されていることを指定します。

注: **リンクの種類**の値が**無向**である場合、両方向の隣接ノードが選択されます。

ネットワーク分析オブジェクトのノードの配置

注: ネットワークにマップの背景が表示されている場合、ノードのレイアウトを変更することはできません。

ノードの移動

ノードを選択してドラッグすることで、ネットワーク内のいずれかのノードを移動できます。ネットワーク内の複数のノードを移動するには、移動するノードを選択してドラッグします。

注: ネットワーク内のノードの位置は、レポートとともに保存されます。

デフォルトノードレイアウトの復元

デフォルトノードレイアウトを復元するには、オブジェクトを右クリックし、**ノードレイアウトのリセット**を選択します。

ネットワーク分析オブジェクトのノードの選択

次のいずれかの方法を使用して、ネットワーク内のノードを選択できます。

- 長方形の選択ツールが選択されている場合は、クリックしてドラッグしてノードを選択できます。

長方形の選択ツールが選択されていない場合は、オブジェクトツールバーのをクリックし、を選択します。

- Ctrl キーを押したまま、選択するノードをクリックします。
- ノードをソースノードとして設定して、一連のリンクされたノードを選択します。
ノードを選択してノードを右クリックし、**選択ソースとして設定**を選択します。

オプションペインで、選択するソースノードの**先行(親)**と**後続(子)**のレベルの範囲を指定します。0 は、ソースノードが選択されていることを示します。

たとえば、**先行**に 0-1 の範囲を指定し、**後続**に 0-2 の範囲を指定すると、ソースノード、1 つのレベルの先行ノードおよび 2 つの後続レベルが選択されます。

- オブジェクトを右クリックし、**選択**を選択し、次のいずれかを選択します。

すべて選択

ネットワーク内のすべてのノードを選択します。

選択を逆にする

選択されたノードの選択を解除し、現在選択されていないノードを選択します。

選択のクリア

すべてのノードの選択を解除します。

最大クラスター

ネットワーク内の最大クラスター内のすべてのノードを選択します。

最小クラスター

ネットワーク内の最小クラスター内のすべてのノードを選択します。

最短パス

選択されたノード間の最短パスを形成するノードを選択します。3 つ以上のノードを選択すると、選択したノードの各ペアリングの最短パスが選択されます。最短パスとの結びつきがある場合、最短パスのすべてが選択されます。

概要の表示

大規模なネットワークの場合、概要では、ネットワークの表示される部分を選択できます。

概要を表示するには、オブジェクトツールバーのをクリックします。

ネットワーク分析オブジェクトのビューの制御

次のコントロールを使用して、ネットワークのビューを制御できます。

表 7 ネットワーク分析のためのビューコントロール

ズーム	マウスホイールをスクロールして、ポインターの位置をズームインまたはズームアウトします。
-----	---

オブジェクトツールバーのコントロールを使用してズームできます。⊕をクリックしてズームインするか、⊖をクリックしてズームアウトします。

パン(スクロール) パンツールが選択されている場合は、マップをクリックしてドラッグして、パンをスクロール(スクロール)できます。

パンツールが選択されていない場合は、オブジェクトツールバーのをクリックし、を選択します。

ネットワークメトリック

ネットワークメトリック変数は、**サイズ**と**色**のデータ役割に割り当てることができます。

次のいずれかのメトリックを選択できます。

コミュニティ

ノードのローカルグループを識別するメトリックです。このメトリックは、**色**役割でのみ使用できます。

コミュニティメトリックについて重要なポイントを次に示します。

- Louvain アルゴリズムはコミュニティの計算に使用されます。
- 有向ネットワークでは、リンクの方向性はコミュニティの計算に影響を与えません。
- **詳細リンク属性**オプションを有効にすると、リンクの多重度(度数)がコミュニティの計算に影響します。2つのノードが複数のリンクで接続されている場合、その2つのノードは同じコミュニティに配置される可能性が高くなります。
- データの情報を更新するか、レポートをリロードすると、コミュニティメトリックの値が異なる場合があります。

到達中心性

一番遠いリンクのリンク数を示すメトリックです。ネットワークのミドルにあるノードの価値は低くなります。

近接中心性

ノードが接続されているすべてのノードとどれだけ近いかを示すメトリックです。

媒介中心性

ノード間の最短パスの一部であるノードの頻度を示すメトリックです。各ノードのペア間の最短パスのすべての割合として表します。

切断されたネットワーク ID

接続されたノードの各グループを識別する ID です。接続されているすべてのノードは、切断されたネットワーク ID に対して同じ値を持ちます。このメトリックは、**色**役割でのみ使用できます。

地理マップの検索

ネットワークにマップの背景がある場合は、マップ上の地理的な場所を検索できます。

注: 検索機能では、データ内の値は検索されません。かわりに、ArcGIS Online サービスの一部であるデータベースを検索します。

マップを検索するには、をクリックし、**検索**フィールドに検索用語を入力して Enter キーを押します。この検索では、現在のマップビュー内にあるビジネスや場所が返されます。検索結果は最大 20 件まで返されます。

検索を実行すると、結果がマップ上に検索結果ピンとしてマークされます。検索結果ピンをロケーションピンに変換するには、マップ上でピンをクリックし、**検索結果**ペインで**ピンに変換**をクリックします。

マップから検索結果ピンを削除するには、をクリックし、検索フィールドのをクリックして検索テキストを削除します。

注: 一部の結果は、より近いズームレベルでのみ表示されます。たとえば、マップに国全体が表示されている場合は、小規模ビジネスの結果が表示されないことがあります。

地理マップでのロケーションピンの操作

ロケーションピンについて

ネットワークにマップの背景がある場合は、マップ上にロケーションピンを作成できます。ロケーションピンを使用すると、マップ上の場所をマークし、その場所に基づいてアクションを実行することができます。

新しいロケーションピンの作成

ロケーションピンの新規作成を作成するには、次のいずれかを実行します。

- をクリックして地理検索ペインを開き、**ピンの新規作成**をクリックして、新しいピンを作成するマップ上のスポットをクリックして、**場所の設定**をクリックします。
- キーワードを検索した後、マップ上で検索結果のピンを選択し、**ピンに変換**をクリックします。

ピンの名前を入力し、ピンの色を選択することができます。をクリックし、**詳細の追加**を選択すると、ピンの詳細を追加できます。

ピンの場所に新しい地理的機能を追加できます。**ルートの追加**をクリックしてルートを追加するか、**地理エリアの追加**をクリックして地理的領域を追加します。

ロケーションピンの削除

ピンを削除するには、マップ上のピンをクリックして選択し、をクリックして**ピンの削除**を選択します。

地理マップでの地理的領域の操作

地理的領域について

マップの背景を持つネットワーク分析オブジェクトの場合、半径ベースの地理的領域を作成できます。地理的領域を選択すると、その領域内のデータポイントが自動的に選択されます。

地理的領域の作成

- 1 既存のロケーションピンを選択して**地理エリアの追加**を選択するか、マップ上の○をクリックして**地理エリアの新規作成**をクリックします。
- 2 ロケーションピンに基づいていない地理的領域を作成している場合は、マップ上をクリックして地理的領域の中心の場所を設定し、**場所の設定**をクリックします。**場所**フィールドに検索を入力して場所を検索することもできます。
- 3 SAS Visual Analytics 設定で Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしている場合は、**トラベルの種類**の値を選択します。

距離

距離をマイルまたはキロメートルで表した円形の領域を作成します。Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしていない場合、**距離**はデフォルトのトラベルの種類です。

運転距離

道路を使用した運転距離に基づいて不規則な領域を作成します。

運転時間

道路を使用した運転時間に基づいて不規則な領域を作成します。

トラッキング距離

トラック通行可能な道路を使用した運転距離に基づいて不規則な領域を作成します。

トラッキング時間

トラック通行可能な道路を使用し、トラックに掲示された制限速度を使用して、運転時間に基づいて不規則な領域を作成します。

ウォーキング距離

使用可能な場合は歩行道や歩道を使用し、ウォーキング距離に基づいて不規則な領域を作成します。

ウォーキング時間

使用可能な場合は歩行道や歩道を使用し、ウォーキング時間に基づいて不規則な領域を作成します。ウォーキング時間は平均的な歩行速度に基づいています。

- 4 運転時間またはトラッキング時間に基づく半径の場合、**トラフィックを含むドロップダウンリスト**を使用して、グラフィック機能の移動時間を計算するためにトラフィックを使用する方法を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

いいえ

移動時間の計算に、すべての時間帯およびすべての曜日の過去のトラフィックデータの重み付き平均を使用することを指定します。

現在のトラフィック

移動時間の計算に現在のトラフィック状況を使用することを指定します。📍をクリックすると、このトラフィックデータを更新できます。ユーザーがレポートを表示しても、トラフィックは自動的に更新されません。ユーザーは、最新のトラフィック状況を反映するためにトラフィックデータを更新する必要があります。

オプションで、現在時刻からオフセットする時間を指定できます。たとえば、**+1 時間**を指定すると、1 時間後の予想トラフィックが使用されます。

典型的なトラフィック

移動時間の計算に、指定された時間と曜日の典型的なトラフィックを使用することを指定します。典型的なトラフィック状況は、最近の履歴データに基づいています。

注: 指定した時間は、マップ上の場所のローカル時間です。

- 5 領域の半径を指定します。移動距離に基づく半径の場合、値は 50 マイルまたは 80 キロメートル以下である必要があります。時間ベースの半径の場合、値は 60 分以下である必要があります。

⋮を選択し、**距離の単位**を選択すると、距離の単位としてマイルとキロメートルのどちらかを選択できます。

- 6 (オプション)選択範囲に追加の半径を追加します。

新規半径を作成するには、**+**をクリックし、距離または時間の値を指定します。

- 7 **領域を描画**をクリックして地理的領域を作成します。

地理的領域から選択フィルターを作成する

地理的領域にデータポイントが含まれている場合は、そのデータポイントを使用してデータをフィルタリングすることができます。選択フィルターを作成するには、地理的領域を選択し、マップ内で右クリックして、**選択の新しいフィルター** ⇨ **選択したアイテムのみ含む**を選択します。除外フィルターを作成するには、マップ内で右クリックして、**選択の新しいフィルター** ⇨ **選択したアイテムを除外**を選択します。

地理的領域の人口統計の表示

Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしている場合は、その領域の人口統計データを表示できます。たとえば、営業所から車で 10 分以内のエリアの総人口と平均収入を表示することができます。

注: 人口統計データを表示するには、Esri ArcGIS Online アカウントに GeoEnrichment 権限が必要です。サポートが必要な場合は、Esri ArcGIS 管理者に問い合わせてください。

人口統計データを表示するには、次の操作を行います。

- 1 地理的領域を作成します。
- 2 **人口統計の表示**をクリックします。**人口統計**ウィンドウが表示されます。
- 3 1 つ以上の人口統計統計量を選択して現在の選択を取得し、**OK** をクリックします。

情報ウィンドウには、現在の選択に関する選択された人口統計統計量が表示されます。複数の統計量を選択した場合は、左矢印と右矢印のボタンをクリックして統計量をスクロールできます。

地理的領域の人口統計データを表示している場合は、をクリックし、次にその地理的領域のをクリックすると、人口統計にすばやくアクセスできます。

注: 地理的領域に複数の半径が含まれている場合、人口統計は常に領域全体に関するものになります。領域のサブセットの人口統計データを表示することはできません。

地理的領域の削除

地理的領域を削除するには、をクリックして、削除する地理的領域を選択します。次に、をクリックして、**削除**を選択します。

地理的領域の人口統計の表示

Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしている場合は、その領域の人口統計データを表示できます。たとえば、営業所から車で 10 分以内のエリアの総人口と平均収入を表示することができます。

注: 人口統計データを表示するには、Esri ArcGIS Online アカウントに GeoEnrichment 権限が必要です。サポートが必要な場合は、Esri ArcGIS 管理者に問い合わせてください。

人口統計データを表示するには、次の操作を行います。

- 1 地理的領域を作成します。
- 2 **人口統計の表示**をクリックします。**人口統計**ウィンドウが表示されます。
- 3 1 つ以上の人口統計統計量を選択して現在の選択を取得し、**OK** をクリックします。

情報ウィンドウには、現在の選択に関する選択された人口統計統計量が表示されます。複数の統計量を選択した場合は、左矢印と右矢印のボタンをクリックして統計量をスクロールできます。

地理的領域の人口統計データを表示している場合は、をクリックし、次にその地理的領域のをクリックすると、人口統計にすばやくアクセスできます。

注: 地理的領域に複数の半径が含まれている場合、人口統計は常に領域全体に関するものになります。領域のサブセットの人口統計データを表示することはできません。

地理マップ上のルートの操作

ルートの描画

地理マップにルートを描画するには、次の操作を行います。

- 1 既存のロケーションピンを選択して**ルートの追加**を選択するか、マップ上の○をクリックして**ルートの新規作成**をクリックします。
- 2 ルートの一部となる場所を指定します。次のいずれかの方法を使用して、各場所を指定できます。
 - 場所フィールドに住所または検索用語を入力し、一致する検索結果を選択します。
 - 場所フィールドを選択し、マップ上のスポットをクリックして**場所の設定**を選択します。
- 3 SAS Visual Analytics 設定で Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしている場合は、**トラベルの種類**の値を選択します。

直接

場所から場所への直接ルートを描画します。Esri ArcGIS Online アカウントにサインインしていない場合、デフォルトのトラベルの種類は**直接**です。

運転距離

道路を使用したルートを描画します。

運転時間

道路を使用したルートを描画します。運転時間と運転距離が表示されます。運転時間の計算にトラフィックを使用するかどうかを指定できます。

トラッキング距離

トラックを許可する道路を使用してルートを描画します。

トラッキング時間

トラック通行可能な道路を使用し、トラックに掲示された制限速度を使用して、ルートを描画します。運転時間と運転距離が表示されます。運転時間の計算にトラフィックを使用するかどうかを指定できます。

ウォーキング距離

使用可能な場合は小道や歩道を使用してウォーキングルートを描画します。

ウォーキング時間

使用可能な場合は小道や歩道を使用してウォーキングルートを描画します。ウォーキング距離とウォーキング時間が表示されます。ウォーキング時間の計算にトラフィックを使用するかどうかを指定できます。

- 4 運転時間またはトラッキング時間を計算するルートの場合、**トラフィックを含む**ドロップダウンリストを使用して、グラフィック機能の移動時間を計算するためにトラフィックを使用する方法を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

いいえ

移動時間の計算に、すべての時間帯およびすべての曜日の過去のトラフィックデータの重み付き平均を使用することを指定します。

現在のトラフィック

移動時間の計算に現在のトラフィック状況を使用することを指定します。このトラフィックデータは、🔄をクリックすることで更新できます。ユーザーがレポートを表示しても、トラフィックは自動的に更新されません。ユーザーは、最新のトラフィック状況を反映するためにトラフィックデータを更新する必要があります。

オプションで、現在時刻からオフセットする時間を指定できます。たとえば、**+1 時間**を指定すると、1 時間後の予想トラフィックが使用されます。

典型的なトラフィック

移動時間の計算に、指定された時間と曜日の典型的なトラフィックを使用することを指定します。典型的なトラフィック状況は、最近の履歴データに基づいています。

注: 指定した時間は、マップ上の場所のローカル時間です。

- 5 (オプション)ルートに場所を追加します。

新しい場所を作成するには、**+**をクリックします。

- 6 **ルートを描画**をクリックしてルートを作成します。

⋮を選択し、**距離の単位**を選択すると、距離の単位としてマイルとキロメートルのどちらかを選択できます。

ルート内の場所の並べ替え

ルート内の場所を並べ替えるには、リスト内で場所をクリックして上下にドラッグします。

ルートの方向を反転するには、↕をクリックします。

ルートの削除

ルートを削除するには、ルートを選択し、⋮をクリックして、**ルートの削除**を選択します。

地理マップ上のポイントの特定

地理マップ上のポイントを特定するには、マップを右クリックして**地理情報ポイントの特定**を選択します。選択された点の数に最適な一致が表示されます。

箱ひげ図の操作

箱ひげ図について

箱ひげ図は、長方形の箱と“ひげ”と呼ばれる線を使用して、データ値の分布を表示します。

図 2 箱ひげ図のパーツ

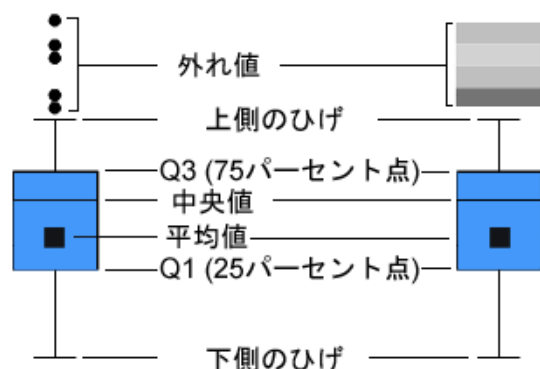


図 2 (167 ページ)は、箱ひげ図のダイアグラムを示します。箱の下位と上位は四分位範囲(IQR)を示します。つまり、第 1 四分位数と第 3 四分位数(25 パーセント点と 75 パーセント点)の間の値の範囲です。箱内のマーカーは平均値を示します。箱内の線は、中央値を示します。

四分位範囲からの距離が四分範囲のサイズの 1.5 倍を超えるデータポイントである外れ値を有効にすることができます。外れ値は、データ範囲の上限と下限に配置できます。

ひげ(箱からはみ出した線)は、四分位範囲外の値の範囲を示します。外れ値を有効にしないと、ひげはプロット内の最大値と最小値に拡張されます。外れ値を有効にすると、ひげは四分位範囲外の値の範囲を示しますが、外れ値と見なされないほど近い値の範囲を示します。

外れ値が多い場合、外れ値の範囲は 1 つ以上の棒で表されます。各棒のデータチップには、外れ値に関する追加情報が表示されます。

箱ひげ図のデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

箱ひげ図の基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1 つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値はカテゴリの軸にプロットされます。多くのメジャーを割り当てることができ、メジャー値は応答軸にプロットされます。少なくとも 1 つのメジャーが必要です。

注: 度数を箱ひげ図のメジャーデータ役割に割り当てることはできません。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

箱ひげ図のオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ) を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

箱の向き

箱が縦()か横()かを指定します。

メジャーのレイアウト

メジャーが単一の応答軸(**共有の軸**)を共有するか、各メジャーごとに別々の応答軸(**別々の軸**)を持つかを指定します。**自動**を選択すると、最適なメジャーのレイアウトが自動的に決定されます。

外れ値

外れ値の表示方法を指定します。外れ値は、四分位範囲からの距離が四分範囲のサイズの 1.5 倍を超えるデータポイントです。

次のいずれかを選択します。

外れ値を無視

図から外れ値を除きます。このオプションを選択すると、外れ値は図内に表示されません。

外れ値を非表示

ひげ内の外れ値を含みます。このオプションを選択すると、外れ値は図内のその他の値とは異なります。

外れ値を表示

ひげとは別に外れ値を表示します。外れ値が少ない場合、各外れ値はポイントとして表示されます。外れ値が多数ある場合、外れ値の範囲は 1 つ以上の棒として表示されます。複数の棒がある場合、各棒は外れ値の特定の範囲を表します。

外れ値ビンアウトライン

各外れ値棒の周囲にアウトラインを描き、ビジュアルを分離します。

平均

その平均値を箱内のマーカーとして表示します。

箱のデータの探索

SAS Visual Statistics を持ち、/SASVisualAnalytics_capabilities/buildAnalyticalModel URI のアクセス許可もある場合、新規オブジェクトまたはモデルとして箱ひげ図からデータを探索できます。選択した箱に基づいて新規オブジェクトを作成するには、次の操作を行います。

- 1 探索する箱を選択します。
- 2 箱を右クリックし、**選択からオブジェクトを新規作成**を選択し、作成するオブジェクトまたはモデルの種類を選択します。

ヒント Alt キーを押して、新規オブジェクトを新しいページに配置します。

- 3 **OK** をクリックします。

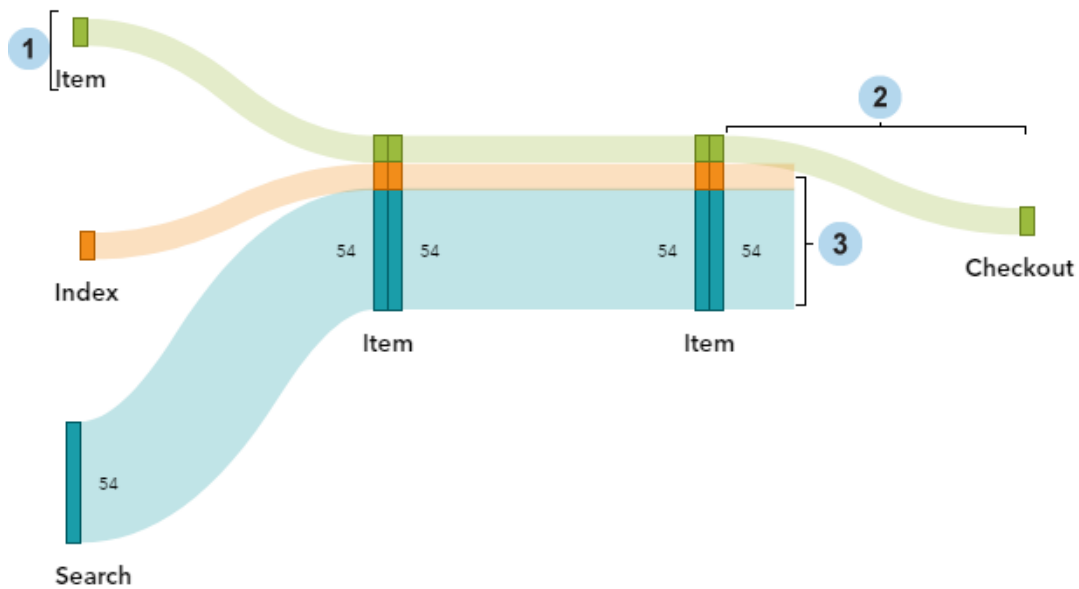
パス分析オブジェクトの操作

パス分析オブジェクトについて

パス分析オブジェクトを使用すると、パス分析を実行できます。パス分析は、一連のパスとして、あるイベント(値)から別のイベント(値)へのデータフローを表示します。パス分析オブジェクトを使用して、サンキーダイアグラムを作成できます。

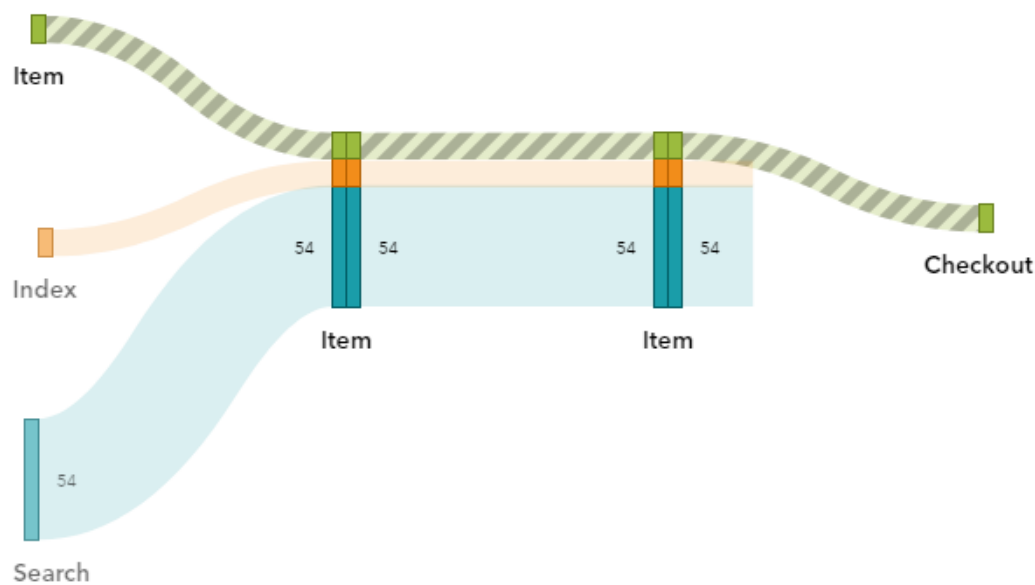
次の画面には、パス分析オブジェクトの一部が表示されます。

図3 パス分析オブジェクトのパーツ



- 1 ノードには、各パスのイベントが含まれます。ノードには、ノードに出入りする各リンクの幅が表示されます。同じイベントがダイアグラムの複数のノードに表示されることがあります。
- 2 ノード間のリンクがダイアグラムのパスを構成します。各リンクの幅は、パスの度数または重みメジャーのいずれかを表すことができます。
- 3 ドロップオフリンクは、現在のノードで終了するリンクです。ドロップオフリンクは、いくつかのリンクが現在のノードから先に進む場合にのみ表示されます。

図 4 パス分析オブジェクト内のパス



パス分析オブジェクト内のパスは、イベントの別個のシーケンスで構成され、1 つ以上のトランザクションを表します。トランザクションとは、特定のトランザクション ID の値に関連付けられた一連のイベントです。

たとえば、データに Web サイトへの訪問者のアクティビティが含まれている場合、トランザクション ID は各訪問者の固有のセッション ID である可能性があります。データ内のイベントは、訪問者がアクセスした Web サイト上の個々のページである可能性があります。この例では、各トランザクションは特定の訪問者がアクセスした一連のページであり、各パスはそのシーケンスに続くすべてのトランザクションを含む一連のページです。

詳細テーブルの **パス分析要約** タブには、パス分析結果の自然言語による説明が含まれています。

パス分析オブジェクトのデータ役割

パス分析オブジェクトの基本的なデータ役割は次のとおりです。

イベント

ダイアグラムのノードとして表されるイベントを識別する値を持つカテゴリを指定します。

シーケンス順序

日時データアイテムまたはその値が各トランザクションのイベントの順序を識別するメジャーを指定します。

トランザクション ID

ダイアグラムのトランザクションを識別する値を持つデータアイテムを指定します。

注: パス分析オブジェクト内のパスでは、**イベント**、**トランザクション ID** または **シーケンス順序** の役割に割り当てられたデータアイテムのすべての欠損値が除かれます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を指定することができます。

重み

トランザクション内の各イベントの重みのメジャーを指定します。

SAS Visual Analytics は、各トランザクションの値を合計して重み値を計算し、重み変数の集計の種類を各パスまたはリンクのトランザクションに適用します。各パスまたはリンクに表示される重み値は、そのパスまたはリンク内の各トランザクションの合計重みの集計です。

注: **重み** 役割に割り当てられたメジャーには、合計、平均、最小値、最大値のいずれかの集計の種類が必要です。

注: イベントまたはドロップオフリンクによって色分けされたパス分析の場合、および **重み** メジャーが合計以外の集計の種類を持つ場合、各ノードのリンクは重なります。これはリンクの幅が加算的でないためです。

パス分析オブジェクトのオプションの指定

オプション ペインでは、次のアイテムを指定できます。

リンクの色

ダイアグラムのパスまたはリンクのグループ化と色付けに使用される方法を指定します。

次のいずれかを選択します。

パス

それぞれのパスを個別の色で別のグループとして表示します。

イベント

それが表すイベントに応じて各リンクを色づけします。

ドロップオフ

それらがドロップオフリンクであるかどうかに基づいて、ダイアグラムのリンクに色を付けます。ドロップオフリンクは、現在のノードで終了するリンクを表しますが、その他のリンクは現在のノードから先に続きます。

リンクの幅

パス内のリンクの幅がパスの頻度(**度数**)を表すか、または重みメジャーの集計値(**重み**)を表すかを指定します。

注: **重み**データ役割を割り当てない場合は、**度数**は常にリンクの幅に使用されます。

注: リンクの幅が重み値を表す場合、ゼロより大きい値を持たないパスはすべて非表示になります。

最小パス長

表示されるパスの最小長を指定します。指定するパスの長さは、パス内のノードの数を示します。

たとえば、**最小パス長**が3で**最大パス長**が5の場合、ダイアグラムには3,4,5 ノードの長さを持つパスのみが表示されます。

最大パス長

表示されるパスの最大長を指定します。指定するパスの長さは、パス内のノードの数を示します。

たとえば、**最小パス長**が3で**最大パス長**が5の場合、ダイアグラムには3,4,5 ノードの長さを持つパスのみが表示されます。

注: ハイフン文字(-)は、最大パス長がないことを指定します。

最小度数

表示されるパスの最小パスの度数を指定します。たとえば、最小パスの度数を5と指定すると、ダイアグラムには度数が5以上のパスのみが表示されます。

最大度数

表示されているパスのパス度数の最大値を指定します。たとえば、最大パス度数を10と指定すると、ダイアグラムには度数が10以下のパスのみが表示されます。

注: ハイフン文字(-)は、最大度数がないことを指定します。

パスのランク法

ランキングで上位値を選択するか下位値を選択するかを指定します。

パスのランクカウント

パスランキングのカウントを指定します。デフォルトでは、パスのランク付けによって、上位または下位の200のパスが選択されます。

重み役割のメジャーを指定した場合、ランキングは各パスの重みメジャーの集計値に基づいています。**重み**役割のメジャーがない場合、ランク付けは各パスの度数に基づいて行われます。

圧縮

各パスの反復された連続したイベントを 1 つのイベントにまとめます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

ノードラベル

各ノードのイベント名を表示します。

リンクラベル

各リンクの幅の値を表示します。

ノード

各ノードにリンクの幅の値を表示します。

アウトライン

各ノードの周囲に箱を表示します。

縦レイアウト

ダイアグラムを縦方向に表示します。

パス分析オブジェクトのパスフィルターの管理

パスフィルターについて

パスフィルターを作成して、パス分析オブジェクトのパスをサブセット化できます。パスフィルターは、各パスのノードまたはイベントに基づいてパスを選択または除きます。

選択したノードから新しいパスフィルターを作成する

ダイアグラムに選択の新しいパスフィルターを追加するには、次の操作を行います。

- 1 ダイアグラムで 1 つまたは複数のノードを選択します。

注: 複数のノードを選択するには、Ctrl キーを押します。

- 2 オブジェクトツールバーで、**：**をクリックし、**選択の新しいパスフィルター**を選択し、**次のみ含める**または**除く**のいずれかを選択して、フィルターの種類を選択します。フィルターの種類は、次のいずれかです。

選択したノードのすべてを含むパス

選択されたすべてのノードを含むパスを含むか、または除きます。このフィルターの種類は、イベント値ではなく、ダイアグラムの特定のノードに基づいています。

選択したノードのいずれかを含むパス

選択されたノードのいずれかを含むパスを含むかまたは除きます。このフィルターの種類は、イベント値ではなく、ダイアグラムの特定のノードに基づいています。

いずれかのノードの選択したイベントを含むパス

任意のノード上で選択されたイベントのいずれかを含むパスを含めるか除きます。このフィルターの種類は、選択したノードのイベント値に基づいています。

選択されたイベントで始まるパス

選択されたイベントのいずれかで開始するパスを含むか、または除きます。

選択したイベントで終わるパス

選択されたイベントのいずれかで終わるパスを含むか、または除きます。

選択したイベントシーケンスを含むパス

パスのいずれかの位置に選択されたイベントシーケンスを含むパスを含むかまたは除きます。このフィルターの種類は、選択したノードのイベント値に基づいています。

注: このフィルターの種類は、同じイベントレベルに対して複数のノードが選択されている場合は使用できません。

選択したすべてのパス

選択されたすべてのパスを含めるか除きます。

注: このオプションでは、**パスはリンクの色**のオプションのために選択され、1 つ以上のパスが選択されている場合にのみ使用可能です。

フィルターの新規作成が**フィルターペイン**に表示されます。

パスフィルターの追加ウィンドウを使用して新しいパスフィルターを作成する

パスフィルターの追加ウィンドウを使用して新規パスフィルターを作成するには、次の操作を行います。

- 1 オブジェクトツールバーで、**⋮** をクリックし、**パスフィルターの追加**を選択します。**パスフィルターの追加ウィンドウ**が表示されます。
- 2 **演算子**ドロップダウンリストからフィルターの種類を選択します。次のいずれかを選択します。

次で始まる

選択されたイベントのいずれかで始まるパスを含むか、または除きます。

次で終わる

選択されたイベントのいずれかで終わるパスを含むか、または除きます。

Contains

任意のノード上で選択されたイベントのいずれかを含むパスを含めるか除きます。

シーケンスを含む

パスのいずれかの位置に、指定された順序で選択されたイベントを含むパスを含むかまたは除きます。

- 3 フィルターのイベントを選択します。

- 4 **種類**ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。

次のみ含める

パスフィルターが一致するパスのみを選択するように指定します。

除く

パスフィルターが一致するすべてのパスを除くように指定します。

- 5 **OK**をクリックして、新規パスフィルターを適用します。

ヒント イベントの役割だけがオブジェクトに割り当てられている場合は、パスフィルターを作成できます。大規模なデータソースの場合、長いローディング時間を避けるために、すべてのデータ役割を割り当てる前にパスフィルターを作成することをお勧めします。

パスフィルターの削除

すべてのパスフィルターを削除するには、オブジェクトツールバーの  をクリックし、**パスフィルターの削除**を選択します。

特定のパスフィルターを削除するには、**フィルターペイン**を選択し、削除するフィルターの横にある  をクリックします。

概要の表示

大きなダイアグラムの場合は、概要でダイアグラムの表示される部分を選択することができます。

概要を表示するには、オブジェクトツールバーの  をクリックします。

パス分析オブジェクトのズーム

次のコントロールのいずれかを使用して、パス分析オブジェクトをズームすることができます。

- マウスホイールをダイアグラムの上にスクロールして、ポインターの位置をズームインまたはズームアウトします。
- 概要では、表示されている長方形の選択のサイズを調整します。

注: ダイアグラムがフルサイズで表示されたときにオブジェクトの境界を超えない場合、ズームは使用できません。

ポインターツールを使用したダイアグラムのパンと形に基づく選択の作成

パス分析オブジェクトでは、ダイアグラムをクリックしてドラッグすると、ポインターで複数のタスクを実行できます。デフォルトのポインターアクションは、ダイアグラムをパン(スクロール)することです。

選択したポインターツールを変更するには、オブジェクトツールバーで現在のツールと一致するアイコンをクリックし、次のいずれかのアイコンを選択します。



ダイアグラムをパン(スクロール)します。



長方形の選択を作成します。

新しいオブジェクトとしてパスデータを探索する

新しいオブジェクトとしてパス選択を探索して、**イベント**および**重み**データアイテムの値を表示することができます。

パス選択を新しいオブジェクトとして探索するには、次の操作を行います。

- 1 ダイアグラムで 1 つまたは複数のノードを選択します。

注: 複数のノードを選択するには、Ctrl キーを押します。

- 2 オブジェクトツールバーの **：** をクリックし、**選択からオブジェクトを新規作成** を選択し、**次のみ含める** または **除く** のいずれかを選択して、フィルターの種類を選択します。フィルターの種類は、次のいずれかです。

選択したノードのすべてを含むパス

選択されたすべてのノードを含むパスを含むか、または除きます。このフィルターの種類は、イベント値ではなく、ダイアグラムの特定のノードに基づいています。

選択したノードのいずれかを含むパス

選択されたノードのいずれかを含むパスを含むかまたは除きます。このフィルターの種類は、イベント値ではなく、ダイアグラムの特定のノードに基づいています。

いずれかのノードの選択したイベントを含むパス

任意のノード上で選択されたイベントのいずれかを含むパスを含めるか除きます。このフィルターの種類は、選択したノードのイベント値に基づいています。

選択されたイベントで始まるパス

選択されたイベントのいずれかで開始するパスを含むか、または除きます。

選択したイベントで終わるパス

選択されたイベントのいずれかで終わるパスを含むか、または除きます。

選択したイベントシーケンスを含むパス

パスのいずれかの位置に選択されたイベントシーケンスを含むパスを含むかまたは除きます。このフィルターの種類は、選択したノードのイベント値に基づいています。

注: このフィルターの種類は、同じイベントレベルに対して複数のノードが選択されている場合は使用できません。

選択したすべてのパス

選択されたすべてのパスを含めるか除きます。

注: このオプションでは、**パスはリンクの色のオプション**のために選択され、1 つ以上のパスが選択されている場合にのみ使用可能です。

- 3 新しいオブジェクトを表示します。作成されるオブジェクトの種類は、パス分析オブジェクトに割り当てられているデータアイテムによって異なります。メジャーが**シーケンス順序**役割と**トランザクション ID** 役割の両方に割り当てられている場合は、棒グラフが作成されます。カテゴリまたは日付データアイテムが**シーケンス順序**役割または**トランザクション ID** 役割に割り当てられている場合は、リスト表が作成されます。

棒グラフには、**イベント**および**重み**のデータ役割に割り当てられたデータアイテムが表示されます。リスト表には、パス分析オブジェクトに割り当てられているすべてのデータアイテムが表示されます。

ヒント レポートの新しいページに新しいオブジェクトを作成するには、Alt キーを押したままにします。

バタフライチャートの操作

バタフライチャートについて

バタフライチャートは、共有のカテゴリ軸を使用して、2 つの棒グラフを表示します。2 つの棒グラフのベースラインは、チャートの中央に配置されています。

バタフライチャートのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、「[データ役割の割り当ての操作](#)」(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

バタフライチャートの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値はカテゴリの軸にプロットされます。バタフライチャートの各辺に1つのメジャーを割り当てることができ、メジャー値は応答軸にプロットされます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、[“データチップ値データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、[“非表示データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

バタフライチャートのオプション

全般オプションの詳細については、[“オプションペインの使用” \(24 ページ\)](#)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

固定ベースライン

チャートの固定ベースライン値を指定します。

ベースラインのスタイル

ベースラインの種類、幅、および色を指定します。

スペーシング

棒の間のスペースのパーセンテージを指定します。デフォルトは 15% です。たとえば、**スペーシング**オプションに 80% の値を指定するとします。この値により、棒の間のスペースが増加し、棒が細くなります。

オフセット

X 軸値から棒をオフセットする量を指定します。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドするグループスタイルオーバーレイの自動塗りつぶしの色と透過性を指定します。

データラベル

グラフのデータ値をテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

セグメントラベル

棒の内側のセグメントのデータ値を示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

バブルチェンジプロットの操作

バブルチェンジプロットについて

バブルチェンジプロットは、線で結ばれたバブルを使用して2セットのメジャー間の差を表示します。2セットのメジャーの値は、プロット軸上の位置とバブルのサイズによって表されます。

バブルチェンジプロットのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)”(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

バブルチェンジプロットの基本的なデータ役割は次のとおりです。

X 始点、X 終点

X 軸の開始値と終了値のメジャーを指定します。

Y 始点、Y 終点

Y 軸の開始値と終了値のメジャーを指定します。

サイズ (開始)、サイズ (終了)

バブルサイズを決定する開始値と終了値のメジャーを指定します。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。各値に対して個別のポイントセットが作成されます。

バブルチェンジプロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)”(24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側または右側のどちらに表示するかを指定します。

透過性

バーの透過性を指定します。

線のスタイルのオーバーライド

線の種類、線の幅、および線の色を指定します。

矢印

各線の終わりに矢印を表示します。このオプションを有効にすると、矢印の形状を指定できます。

バブルサイズの範囲

プロット内のバブルサイズの範囲を指定します。

バブルチェンジプロットのサイズ凡例には、次のオプションを使用できます。

固定タイトル

凡例のカスタムタイトルを指定します。

タイトルのテキストスタイル

凡例のテキストのスタイルオプションを指定します。

出力形式

凡例の値のデータ出力形式を指定します。値を自動的に省略するには**自動**を選択し、データ出力形式を保持するには**データ出力形式の照合**を選択します。

スケールの抽出

凡例値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1 と省略され、**millions** という単語が凡例のタイトルに追加されます。

バブルプロットの実行

バブルプロットについて

バブルプロットは、散布図で異なるサイズのプロットマーカー(バブル)を使用して、少なくとも3つのメジャーの値を表示します。2セットのメジャーの値はプロット軸の位置で表され、3セットのメジャーの値はマーカーサイズで表されます。

アニメーションバブルプロットを作成して、時間の経過とともに変化するデータを表示できます。

バブルプロットのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、[“データ役割の割り当ての操作” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

バブルプロットの基本的なデータ役割は次のとおりです。

X 軸

X 軸に割り当てられているメジャーを指定します。

Y 軸

Y 軸に割り当てられているメジャーを指定します。

サイズ

マーカーサイズを決定するメジャーを指定します。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。各値に対して個別のポイントセットが作成されます。

注: **グループ**役割と**色**役割の両方を同時に割り当ててはできません。

色

バブルの色を決定するデータアイテムを指定します。カテゴリを指定すると、カテゴリの各値は異なるバブル色で表されます。メジャーを指定すると、メジャー値はバブル色で表されます。

注: **グループ**役割と**色**役割の両方を同時に割り当ててはできません。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、[“データチップ値データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: **アニメーション**データ役割を割り当てる前に、**グループ**データ役割を割り当てする必要があります。

注: **アニメーション**データ役割が割り当てられたグラフをアクションのソースにすることができます。ただし、このアクションはモバイルデバイスでは無効になります。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、[“非表示データ役割について” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

バブルプロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側¹または右側²のどちらに表示するかを指定します。

バブルサイズの範囲

プロット内のバブルサイズの範囲を指定します。

透過性

バーの透過性を指定します。

バブルプロットの凡例には次のオプションを使用できます。

固定タイトル

凡例のカスタムタイトルを指定します。

タイトルのテキストスタイル

凡例のテキストのスタイルオプションを指定します。

出力形式

凡例の値のデータ出力形式を指定します。値を自動的に省略するには**自動**を選択し、データ出力形式を保持するには**データ出力形式の照合**を選択します。

スケールの抽出

凡例値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1 と省略され、**millions** という単語が凡例のタイトルに追加されます。

ラベルの位置

ラベルの位置を自動にするか、変曲点に配置するかを指定します。

ラベルのテキストの色

連続凡例ラベルの色を指定します。

ヒートマップの操作

ヒートマップについて

ヒートマップでは、セルに色が付いたテーブルを使用して 2 つのデータアイテムの値の分布が表示されます。**色**のデータ役割にメジャーを割り当てない場合、セルの色は各値のインターセクションの度数を表します。**色**のデータ役割にメジャーを割り当てると、セルの色は各値のインターセクションの集計メジャー値を表します。

ヒートマップに2つ以上の軸アイテムを適用すると、ヒートマップオブジェクトにヒートマップのマトリックスが表示されます。マトリックスには、割り当てられた軸アイテムの可能な組み合わせが表示されます。

ヒートマップのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

ヒートマップの基本的なデータ役割は次のとおりです。

軸アイテム

X 軸と Y 軸に割り当てられたデータアイテムを指定します。

色

セルの色を決定するメジャーを指定します。色役割を割り当てない場合、セルの色は度数を示します。

ヒートマップのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

ビンの数

セルとして表される値の範囲の数を指定します。**ビンの数**はメジャーのみに影響します。

罫線

セル間の罫線が表示されるように指定します。

透過性

セルの透過性を指定します。

近似線

ヒートマップに近似線を追加します。

注: 軸に2つ未満のメジャーが割り当てられている場合、近似線は使用できません。

次のいずれかの近似の種類を選択できます。

自動近似

データに最も適したモデル(線形、2 次または3 次)を選択します。種類が**自動近似**の場合、変数減少法変数選択を使用して、重要な最上位モデルを選択します。使用された最終モデルを確認するには、オブジェクトを最大化します。

線形

線形回帰アルゴリズムから線形近似線を作成します。線形近似は、2 つのメジャー間の関係を最もよく表す直線を生成します。

線形近似の場合、相関が自動的にオブジェクトに追加されます。その他の近似の種類では相関を使用できません。

2 次

2 次近似線を作成します。2 次近似は、1 つの曲線を持つ線を生成します。2 次近似は、しばしば放物線の形をした線を生成します。

3 次

3 次近似線を作成します。3 次近似は 2 つの曲線を持つ線を生成します。3 次近似は、しばしば"S"字形の線を生成します。

PSpline

罰則付き B-スプラインを作成します。罰則付き B-スプラインは、データに密接に近似する平滑化スプラインです。罰則付き B-スプラインは、曲率の変更が多い複雑な線を表示できます。

オブジェクトの近似線に関する詳細情報は、オブジェクトの詳細テーブルで参照できます。詳細テーブルを表示するには、オブジェクトを最大化します。["オブジェクトの最大化" \(46 ページ\)](#)を参照してください。

比較時系列プロットの実行

比較時系列プロットについて

比較時系列プロットは、2 つの時系列を共有の時間軸と別々の Y 軸を使用して、平行に表示します。

比較時系列プロットの実行データ役割

データ役割の設定についての詳細は、["データ役割の割り当ての実行" \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

比較時系列プロットの実行データ役割は、時間軸とメジャーです。日時データアイテムは時間軸に 1 つのみ割り当てることができます。プロット内の各線に 1 つのメジャーを割り当てることができます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、["データチップ値データ役割について" \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、["非表示データ役割について" \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

比較時系列プロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

レイアウトヘッダーの下には、次のオプションがあります。

X 軸範囲

X 軸の範囲がセルごとに異なるか、同じ列のすべてのセルで同じか、グラフテンプレートのすべてのセルで同じかを指定します。

Y 軸範囲

Y 軸の範囲がセルごとに異なるか、同じ行のすべてのセルで同じか、グラフテンプレートのすべてのセルで同じかを指定します。

背景

オブジェクトのセルの背景を表示します。

時系列 1 および **時系列 2** のヘッダーの下には、次のオプションがあります。

ビンの間隔

プロット内の日時値の間隔を指定します。次のいずれかの値を選択します。

自動

プロットの最適な間隔を自動的に決定します。

固定カウント

特定の数値の等間隔の値をプロットします。**固定ビンカウント**オプションに値の数値を指定します。

出力形式の使用

データ出力形式でレンダリングされたすべての日時値をプロットします。

固定ビンカウント

プロットする日時値の数値を指定します。

注: このオプションは、**ビンの間隔**が**固定カウント**に設定されている場合にのみ使用できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側¹または右側²のどちらに表示するかを指定します。

固定ベースライン

折れ線グラフのベースライン値を指定します。

注: このオプションは、グラフに別々の Y 軸が表示されている場合は使用できません。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

グループ化スタイル

複数のメジャーがグラフに割り当てられているときに使用されるスタイルオーバーレイを指定します。次のいずれかを選択します。

オーバーレイの塗りつぶしなし

色の塗りつぶしがない線を表示します。

オーバーレイの塗りつぶし - フェード

透過性のある色で塗りつぶされた線が表示されます。

オーバーレイの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。

積み上げの塗りつぶし - 単色

積み上げられた不透明な色塗りつぶしの線が表示されます。積み上げられた線の値は、グラフのベースラインではなく、下の線を基準にプロットされます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドするグループスタイルオーバーレイの自動塗りつぶしの色を指定します。

線

グラフ内のデータポイント間に線を引くかどうかを指定します。このオプションを選択すると、線のスタイル、線の幅、および線の色を指定できます。

デフォルトでは、**線**チェックボックスが選択されており、変更することはできません。チェックボックスは、**マーカー**オプションが選択されている場合にのみクリアできます。

マーカー

グラフ内のデータポイントのマーカーを示します。このオプションを選択すると、マーカーの記号、サイズ、および色を指定できます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

データラベル

グラフのデータ値をテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

ヒストグラムの操作

ヒストグラムについて

ヒストグラムでは、単一のメジャーの値の分布が表示されます。一連の棒グラフは、特定の値または値の範囲に一致するメジャー内のオブザベーションの数を表します。棒の高さは、オブザベーションの正確な数または各値の範囲のすべてのオブザベーションのパーセントを表すことができます。

注: デフォルトのビン数を表示する場合、ヒストグラム軸の最小値と最大値がデータ値の実際の範囲と一致しないことがあります。ヒストグラムビンの数値を指定すると、ヒストグラム軸はデータ値と正確に一致します。

ヒストグラムのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ヒストグラムの基本的なデータ役割は、**メジャー**と**度数**です。

ヒストグラムのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

方向

棒が↑か→かを指定します。

透過性

バーの透過性を指定します。

ビンの範囲

ビンの範囲の境界がどのように決定されるかを指定します。次のいずれかを選択します。

システムの決定値

境界を丸めた値に置きます。ビンの範囲は、データ内の最小値および最大値を超えて拡大することがあります。

メジャー値

データの実際の最小値と最大値に従って境界線を配置します。

固定ビンカウントの設定

ビンの数オプションが有効になります。

注: 固定ビンカウントは、**ビンの範囲**オプションが**メジャー値**の場合にのみ使用できます。

ビンの数

ヒストグラムのビン数(値の範囲)を指定します。

平行座標プロットの実作

平行座標プロットについて

平行座標プロットは、カテゴリとビン化されたメジャー間を移動する線としてデータを表示します。線の太さで、そのビンのオブザベーションの相対数を示します。関心のあるデータのみをフォーカスできるように、アクティブな線を1つまたは複数のビンに制限できます。オブジェクトを右クリックして**反転軸**を選択すると、軸上の1つ以上の変数の並べ替えを反転することもできます。このアクションは、逆相関のある変数を比較するときに役立ちます。

平行座標プロットの実データ役割

データ役割の設定についての詳細は、[“データ役割の割り当ての実作” \(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作\)](#)を参照してください。

平行座標プロットの実基本的なデータ役割は**変数**です。1つまたは複数のメジャーまたはカテゴリ変数を割り当てることができます。

平行座標プロットの実オプション

全般オプションの詳細については、[“オプションペインの実使用” \(24 ページ\)](#)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

ビンの数

平行座標プロットの実各メジャー変数に使用するビンの数を指定します。

最大折れ線数

平行座標アルゴリズムによって生成される折れ線の最大数を指定します。

平行座標プロットの実詳細テーブル

キャンバスの下部に詳細テーブルを表示するには、オブジェクトツールバーのをクリックします。このテーブルでは、平行座標プロットの実各折れ線の実各変数の値が提供されます。

ベクトルプロットの実作

ベクトルプロットについて

ベクトル プロットは、直線セグメントを使用してデータの変更を表示します。

ベクトルプロットの実データ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての実作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ベクトル プロットの実基本的なデータ役割は次のとおりです。

X 軸

X 軸に割り当てられているメジャーを指定します。

Y 軸

Y 軸に割り当てられているメジャーを指定します。

X 原点

各線の X 軸上の開始ポイントを指定します。

Y 原点

各線の Y 軸上の開始ポイントを指定します。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

色

線の色を決定するデータアイテムを指定します。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。値ごとに別々の線が作成されます。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

ベクトルプロットのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側¹または右側²のどちらに表示するかを指定します。

透過性

データ要素の透過性を指定します。

線のスタイルのオーバーライド

線の種類、線の幅、および線の色を指定します。

矢印

各線の終わりに矢印を表示します。有効にすると、矢印の形状を指定できます。

棒グラフの操作

棒グラフについて

棒グラフは、棒グラフを使用してデータを表示します。各棒の高さは値を表します。

デフォルトでは、棒グラフは最初のメジャーの値に基づいて降順に並べ替えられます。棒グラフがメジャーデータアイテムに基づいて並べ替えられ、カテゴリデータアイテムにグループ役割に割り当てられている場合、各カテゴリデータアイテムの並べ替え値は、(バーが合計以外を示す場合でも)カテゴリのバーのメジャー値を合計して設定されます。たとえば、テストスコアを評価しているとします。このとき、*TestScores* メジャーを *Max* の集計に割り当て、地域の *TestScores* が *Gender* で分類された棒グラフを作成しました。各バーは、特定の *Region* における特定の *Gender* の高テストスコアを示します。しかし、各 *Region* の並べ替えに使用される *TestScores* 値は、その *Region* の男性の高テストスコアとその *Region* の女性の高テストスコアを合計して設定されます。

棒グラフのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

棒グラフの基本的なデータ役割は、カテゴリとメジャーです。1つのカテゴリのみを割り当てることができ、カテゴリ値はカテゴリの軸にプロットされます。多くのメジャーを割り当てることができ、メジャー値は応答軸にプロットされます。棒グラフにメジャーが含まれていない場合、カテゴリ値の度数は応答軸にプロットされます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

グループ

割り当てたカテゴリデータアイテムの値に基づいてデータをグループ化します。**グループ化スタイル**オプションで選択した値に応じて、グループの値が個別の棒または各棒のセグメントとして表示されます。

注: 複数のメジャーを棒グラフに割り当てる場合、グループは使用できません。

格子列

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値の列を含むグラフの格子を作成します。

格子行

割り当てたカテゴリデータアイテムの各値に対応する行のグラフの格子を作成します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

アニメーション

グラフをアニメートするために使用される日時データアイテムを指定します。

アニメーションデータ役割を割り当てると、オブジェクトの下部左側に▶アイコンが表示されます。▶をクリックしてアニメーションを開始します。

注: **アニメーション**データ役割が割り当てられたグラフをアクションのソースにすることができません。ただし、このアクションはモバイルデバイスでは無効になります。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

棒グラフのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

方向

棒が↑か→かを指定します。

Y 軸

Y (縦)軸をプロットの左側←または右側→のどちらに表示するかを指定します。

固定ベースライン

棒グラフのベースライン値を指定します。

ベースラインのスタイル

ベースラインの種類、幅、および色を指定します。

スペーシング

棒の間のスペースのパーセンテージを指定します。デフォルトは 15%です。たとえば、**スペーシング**オプションに 80%の値を指定するとします。これにより、棒の間のスペースが増加し、棒が細くなります。

グループデータ役割が割り当てられている場合、**スペーシング**オプションのデフォルトは 0%です。

オフセット

カテゴリ軸値から棒をオフセットするスペースの量を指定します。

透過性

バーの透過性を指定します。

グループ化スタイル

グループ化されたデータの表示方法を指定します。**|||**を選択すると、グループ化変数の各値は別個の棒として表示されます。**!|!**を選択すると、グループ変数の値が各棒のセグメントとして表示されます。

グループ化スケール

グループ化されたグラフのデータ値の表示方法を指定します。デフォルトでは、グラフには実際のメジャー値が表示されます(**実績値**)。 **グループを 100%に正規化する**を選択すると、グループ化された各棒の値が合計のパーセントとして表示されます。

- **グループスケール**オプションは、二軸の棒グラフまたは二軸の棒-折れ線グラフでは使用できません。
- **グループを 100%に正規化する**を選択するには、**グループ**の役割が割り当てられているか、複数のメジャー値が割り当てられている必要があります。
- 棒グラフの**グループを 100%に正規化する**を選択すると、**固定ベースライン**オプションは使用できません。
- 100%積み上げ棒グラフでは、負の値は無視されます。

クラスタースペース

グループ化された棒のクラスター間のスペースのパーセンテージを指定します。デフォルトは 15%です。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

オーバーライドの塗りつぶしの色

オーバーライドする棒の自動塗りつぶしの色の色と透過性を指定します。

データラベル

棒の方向に応じて、データ値をバーの水平方向または垂直方向のテキストとして表示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

セグメントラベル

棒の内側のセグメントのデータ値を示します。ラベルのテキストフォント、テキストサイズ、強調(太字、斜体または両方)、色を指定できます。

メジャーのレイアウト

メジャーが単一の応答軸(**共有の軸**)を共有するか、各メジャーごとに別々の応答軸(**別々の軸**)を持つかを指定します。**自動**を指定すると、メジャー値の出力形式や大きさが異なる場合、別々の軸が自動的に割り当てられます。

注: **別々の軸**を指定すると、すべての個々の棒グラフにオプションが適用されます。

予測オブジェクトの操作

予測オブジェクトについて

予測オブジェクトは、データの統計的傾向を使用して将来のデータ値を予測します。

予測には予測値のある線と、信頼区間を表す色の帯が表示されます。たとえば、95%の信頼区間は、予測モデルが将来の値を 95%確信しているデータ範囲です。

予測モデルのヒストリカル値は、線なしでマーカーとしてのみ表示されます。ヒストリカル予測値(hindcast)は、予測線の一部として表示されます。選択した予測モデルによっては、履歴予測線が X 軸の先頭で開始しないことがあります。

SAS Visual Analytics は、データに対して複数の予測モデルを自動的にテストし、最適なモデルを選択します。どの予測モデルが使用されたかを特定するには、オブジェクトを最大化し、詳細テーブルの**従属変数の結果**タブをクリックします。

最大化モードの詳細テーブルの**予測の要約**タブには、予測結果の自然言語による説明が含まれています。

予測モデルは、次のいずれかになります。

- ARIMA
- 減衰傾向指数平滑化
- 線形指数平滑化
- 季節指数平滑化
- 単純指数平滑化
- Winters 法 (加法型)
- Winters 法 (乗法型)

注: 予測は、標準的な時間間隔(たとえば、1 時間に 60 分、1 日に 24 時間など)を使用して循環パターンを考慮します。データが非標準的な時間間隔(たとえば、1 日あたり 30 分サイクルを 48 回)を使用する場合、周期的なパターンは予測では考慮されません。

予測オブジェクトのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

予測オブジェクトの基本的なデータ役割は、時間軸とメジャーです。日時データアイテムは時間軸に 1 つのみ割り当てることができます。多くのメジャーを割り当てることができます。メジャー値は応答軸にプロットされます。

注: 予測にゴールシークが含まれている場合、**メジャー**役割に複数のメジャーを割り当ててはできません。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

要因

要因として予測に追加メジャーを追加しています。予測モデルは追加のメジャーを評価して、それらが予測の精度に寄与するかを判断します。

予測の精度に寄与するすべてのメジャーは、予測線と信頼区間を調整するために使用されます。これらのメジャーは、予測オブジェクトで個別の線として表示され、**データ役割**ペインでは垂直線で示されます。

要因として追加するメジャーは、予測の精度に寄与するシナリオ分析でも使用できます。

注: 場合によっては、予測の精度に寄与しないメジャーを削除すると、モデルデータやひいては予測結果に影響を与える可能性があります。要因として割り当てられているメジャーはグループとして評価され、モデルデータはメジャーに共通する最小の日付セットに切り捨てられます。

予測オブジェクトのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ) を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で**時系列**の次のオブジェクト固有オプションを指定することができます。

ビンの間隔

プロット内の日時値の間隔を指定します。次のいずれかの値を選択します。

自動

プロットの最適な間隔を自動的に決定します。

出力形式の使用

データ出力形式でレンダリングされたすべての日時値をプロットします。

透過性

プロットの透過性を指定します。

メジャーのレイアウト

メジャーが単一の応答軸(**共有の軸**)を共有するか、各メジャーごとに別々の応答軸(**別々の軸**)を持つかを指定します。**自動**を選択すると、メジャー値の出力形式とデータ範囲に応じてメジャーのレイアウトが自動的に決定されます。

マーカー

プロット内のデータポイントのマーカーを示します。

マーカーサイズ

各マーカーのサイズをピクセル単位で指定します。

マーカーの塗りつぶしを使用

マーカーを塗りつぶすのか塗りつぶさないのかを指定します。

線の太さ

各線の太さを指定します。

ヒント 太さ 0 を指定すると、線を非表示にできます。

数値を省略表記

メジャー値を省略形で表示します。たとえば、値 1,142,571 は 1.1M と省略される場合があります。メジャーのデータチップには、常に完全な値が表示されます。省略値のスケールと精度を設定できます。

データラベル

プロット内のテキストとしてのデータ値を示します。

注: データ値をポイントすると、常にデータチップとしてデータ値を表示できます。

テキストスタイル

データラベルのテキストスタイルオプションを指定します。

オプションペインの予測には、次の追加オプションがあります。

信頼区間

信頼区間の信頼度を指定します。

予測期間

予測するデータ間隔の数値を指定します。

What-If 分析の操作

What-If 分析について

What-If 分析により、シナリオ分析とゴールシークの 2 種類の詳細な予測タスクを実行できます。

シナリオ分析

予測に寄与する 1 つまたは複数の要因の将来値を指定することにより、仮想シナリオを予測することができます。

たとえば、企業の利益を予測し、材料費が要因である場合、シナリオ分析を使用して、材料コストが 10%増加した場合の予測利益がどのように変化するかを判断できます。

ゴールシーク

予測メジャーのターゲット値を指定し、目標値を達成するために必要となる要因の値を決定することができます。

たとえば、企業の利益を予測し、材料費が要因である場合、利益を 10%増やすためにはどのような値の材料コストが必須かを判断するためにゴールシークすることができます。

シナリオ分析とゴールシークは、同じ予測で一緒に使用できます。

ゴールシーク分析を予測に適用する

- 1 オブジェクトツールバーで、**What If** をクリックし、**ゴールシーク**を選択します。**ゴールシーク**ウィンドウが表示されます。

注: ゴールシークは、1 つまたは複数の要因が予測に寄与している場合에만使用できます。

複数のメジャーがメジャーの役割に割り当てられている場合は、ゴールシークは使用できません。

- 2 (オプション)**履歴カットオフ**値を調整して、表示される履歴値の数を変更します。
- 3 予測メジャーのターゲット値を設定します。次の方法で値を設定できます。
 - 各データポイントの値を指定します。☑が選択されている場合は、マーカー値をグラフの上下にドラッグして値を設定します。☒が選択されている場合は、テーブルのセルにデータ値を入力します。

テーブルモードでは、矢印はベースライン値から変更された値を示します。

- メジャーの将来値をすべて調整します。**調整**をクリックし、次のいずれかを選択します。

すべてを定数値に設定

すべての将来値を同じ定数値に設定します。

すべてに値を追加

すべての将来値に同じ値を追加します。

すべてにパーセントを追加

すべての将来値を指定されたパーセントで増加させます。

徐々に値を追加

指定した量だけ将来値をインクリメントします。たとえば、100 を指定すると、最初の将来値は 100、2 番目の将来値は 200、3 番目の将来値は 300 などのように増加します。

What-If シナリオが予測にどのような影響を与えるかについての自然言語分析を表示するには、①をクリックします。

ヒント メジャーの値をリセットするには、**リセット**をクリックし、リセットするメジャーを選択します。

ヒント すべての値をリセットし、予測からすべてのシナリオ分析とゴールシーク設定を削除するには、**リセット**をクリックしてから**すべてリセット**を選択します。

- 4 (オプション)可能な最小値と最大値を制限するために、それぞれの要因の境界を設定します。
- 5 **適用**をクリックして分析を予測に適用します。

シナリオ分析を予測に適用する

- 1 オブジェクトツールバーで、**What If** をクリックし、**シナリオ分析**を選択します。**シナリオ分析**ウィンドウが表示されます。

注: シナリオ分析は、1 つまたは複数の要因が予測に寄与している場合にのみ使用できます。

- 2 (オプション)**履歴カットオフ**値を調整して、表示される履歴値の数を変更します。
- 3 要因の将来のシナリオ値を指定します。

次の方法で値を設定できます。

- 各データポイントの値を指定します。が選択されている場合は、マーカー値をグラフの上または下にドラッグして値を設定します。が選択されている場合は、テーブルのセルにデータ値を入力します。

テーブルモードでは、矢印はベースライン値から変更された値を示します。

- メジャーの将来値をすべて調整します。**調整**をクリックし、次のいずれかを選択します。

すべてを定数値に設定

すべての将来値を同じ定数値に設定します。

すべてに値を追加

すべての将来値に同じ値を追加します。

すべてにパーセントを追加

すべての将来値を指定されたパーセントで増加させます。

徐々に値を追加

指定した量だけ将来値をインクリメントします。たとえば、100 を指定すると、最初の将来値は 100、2 番目の将来値は 200、3 番目の将来値は 300 などのように増加します。

ヒント What-If シナリオが予測にどのような影響を与えるかについての自然言語分析を表示するには、①をクリックします。

ヒント メジャーの値をリセットするには、**リセット**をクリックし、リセットするメジャーを選択します。

すべての値をリセットし、予測からすべてのシナリオ分析とゴールシーク設定を削除するには、**リセット**をクリックし、**すべてリセット**を選択します。

- 4 **適用**をクリックして分析を予測に適用します。

予測から What-If 分析を削除する

予測からすべてのシナリオ分析とゴールシーク分析を削除するには、次の操作を行います。

- 1 オブジェクトツールバーで、**What If** をクリックし、**シナリオ分析**か**ゴールシーク**を選択します。
- 2 **リセット**をクリックし、**すべてリセット**を選択します。
- 3 **閉じる**をクリックします。

リスト表の操作

リスト表について

リスト表はデータをテキストとして表示します。リスト表に割り当てられている各メジャーまたはカテゴリのデータ値が列として表示されます。

デフォルトでは、リスト表には、カテゴリ値の異なる組み合わせごとに 1 行の集計データが含まれています。ただし、**詳細データ**チェックボックスが選択されている場合、データは集計されません。

(データソースに日付データアイテムが含まれている場合に)集計データをリスト表に表示する際、スパークラインを列に追加できます。詳細については、[“リスト表にスパークラインを追加” \(203 ページ\)](#)を参照してください。

メジャーデータアイテムを使用するリスト表の列にセルのビジュアル(棒グラフまたはヒートマップ)を追加できます。詳細については、[“リスト表にセルのビジュアルを追加” \(205 ページ\)](#)を参照してください。

リスト表についての重要なポイントは次のとおりです。

- 非常に大きなデータソースの場合、**システムデータ制限をオーバーライド**オプションを使用して異なるデフォルトを指定しない限り、デフォルトは 40,000 行になります。
- リスト表には並べ替えられた行が常に表示されます。
- リスト表で合計を選択することはできません。データのある行のみが選択可能です。
- 詳細データを示すリスト表を、アクションまたはリンクのソースにすることはできません。
- **列を幅に合わせる**チェックボックスをクリアにすると空の列が表示され、レポートを設計するときに追加のデータアイテムをドラッグできます。
- 自動タイトルはリスト表では使用できません。ただし、カスタムタイトルを指定することはできません。

リスト表は、表に追加された最初のデータアイテム(または列)によって自動的に昇順で並べ替えられます。列ヘッダーをクリックすると、列を並べ替えたり、既存の並べ替えを切り替えたりすることができます。列ヘッダーの矢印は、並べ替え順序を示しています。詳細については、“[リスト表内のデータの並べ替え](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

リスト表のデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

リスト表の基本データ役割は列です。列には、いずれかの種類のデータアイテムを使用できます。リスト表に複数の列を追加できます。

基本的なデータ役割に加えて、次の役割を割り当てることができます。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

リスト表のオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

詳細データ

データが集計されないことを指定します。このオプションは集計データを使用する場合に使用でき、ランクと集計後の両方のフィルターに適用されます。

注: このオプションは、リスト表にすでに集計後フィルターがある場合は使用できません。

省略表記の数値

大きなメジャー値が省略表記の数値を使用することを指定します。たとえば、**1,100,000,000** は **1.1B** と表示されます。省略表記の数値を使用する列を指定できます。

除外された行を "他のすべて" にまとめる

すべての除外された行を要約します。このオプションは要約されたデータを使用する場合に使用でき、ランクと集計後の両方のフィルターに適用されます。このオプションの効果は、特定の種類のアクションの影響を受ける可能性があります。詳細については、["除外対象を"他のすべて"にまとめるオプションの使用" \(40 ページ\)](#)を参照してください。

注: リスト表にデータを割り当てていない場合、このオプションは表示されません。

テキストを折り返す

リスト表のセル内のテキストを折り返します。

罫線

リスト表に罫線を追加します。

ヘッダー

列ヘッダーを追加し、背景色とフォントスタイルを指定できます。

テキストスタイル

リスト表の列ヘッダーのフォント、フォントサイズ、フォントスタイル、フォントの色を指定します。

背景

列ヘッダーの背景の色を指定します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

列を幅に合わせる

利用可能なスペースに基づいてリスト表の列のデフォルト幅を設定します。このオプションはデフォルトで選択されています。

並べ替えを有効化

データを並べ替えます。このオプションが選択されていない場合、列のヘッダーをクリックしてテーブルを並べ替えることはできません。

水平線

リスト表の行の水平線を表示します。このオプションはデフォルトで選択されています。

垂直線

リスト表の列の垂直線を表示します。このオプションはデフォルトで選択されています。

行番号

リスト表の行の番号を表示します。

行の高さを詰める

リスト表内のすべての行の余分な空白を削除します。このオプションはデフォルトで選択されています。

テキストスタイル

リスト表のセルのフォント、フォントサイズ、およびフォントの色を指定します。

背景

リスト表のセルの背景色を指定します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

一行おきの背景

リスト表で一行おきに異なる背景色を表示します。(このオプションはデフォルトでは選択されていません。)カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

注: レポートでカスタムレポートテーマを使用している場合は、そのレポートテーマの色が一行おきの背景に使用されます。

セルのビジュアル

セルのビジュアル(棒グラフまたはヒートマップ)を単一のセルに追加できます。詳細については、[“リスト表にセルのビジュアルを追加”\(205 ページ\)](#)を参照してください。

合計

各数値列に合計を追加します。合計が必要なメジャーデータアイテムのチェックボックスを選択またはクリアすることができます。このオプションでは、合計を表示する列を選択できます。合計にラベルを付けるかどうかを選択することもできます。

ヒント このオプションを使用して、合計の集計ラベルをオフまたはオンにします。

合計のラベルの表示

合計の集計ラベルをオフまたはオンにできます。

テキストスタイル

リスト表の合計のフォント、フォントサイズ、およびフォントの色を指定します。

背景

合計の背景の色を指定します。カラータイルをクリックして、カラーパレットを開きます。**基本**タブで、背景に対して、標準色を選択するか、**カスタム**をクリックしてカスタム色を定義します。

配置

合計の場所を指定します。**前**を選択して、合計をリスト表の一番上に配置します。リスト表の下部に合計を配置するには、**後**を選択します。

リスト表の列の管理

列のサイズ変更

列のサイズを変更するには、クリックし、列のヘッダーの左端または右端をドラッグします。

列の並べ替え

デフォルトでは、リスト表は最初に追加したデータアイテムの昇順に並べ替えられます。リスト表を列で並べ替えるには、列ヘッダーを右クリックして**並べ替え**を選択し、**data-item-name: 昇順**、**data-item-name: 降順**、**data-item-name: 昇順を追加**、**data-item-name: 降順を追加**のいずれかを選択します。並べ替えを示す矢印が列のヘッダーに表示されます。

リスト表の非表示の列に基づいて並べ替えるには、次の操作を行います。

- 1 リスト表で表示されている列をクリックし、**列の管理**を選択します。**列の管理**ウィンドウが表示されます。
- 2 非表示の列を**表示されている列**リストに移動し、**OK**をクリックします。
- 3 リスト表の列を右クリックし、**並べ替え**を選択して、並べ替え方法を選択します。列を再度右クリックし、**列を非表示**を選択します。

詳細については、“[リスト表内のデータの並べ替え](#)” (*SAS Visual Analytics: レポートデータの操作*)を参照してください。

列の再配置

列を再配置するには、**データ役割**ペインを使用します。行または列をリスト内の新しい位置にドラッグします。

列の非表示

列を非表示にするには、列を右クリックして**列を非表示**を選択します。または、**データ役割**ペインを使用して列を非表示にして、その列を**非表示**データ役割に追加することもできます。

ヒント 複数の列をすばやく管理するには、列を右クリックしてから**列の管理**を選択します。

非表示列と表示列の管理

複数の列を非表示または表示するには、次の操作を行います。

- 1 列を右クリックして、**列の管理**を選択します。**列の管理**ウィンドウが表示されます。
- 2 **非表示の列**リストと**表示されている列**リストの間にある矢印を使用して、1 つ以上の列を移動します。
- 3 (オプション)**表示されている列**リストの横にある上矢印と下矢印を使用して、列の表示順序を変更します。
- 4 **OK**をクリックします。

列を左に固定

リスト表の列を固定するには、列内の任意の場所を右クリックし、**すべての列を左に固定**を選択します。固定線を示すために濃い灰色の線がリスト表に追加されます。その後、固定列の両側に列をドラッグアンドドロップできます。

列の固定を解除するには、固定列の任意の場所を右クリックし、**すべての列の固定解除**を選択します。

リスト表にスパークラインを追加

スパークラインは時系列で単一の傾向を示す、軸やラベルがない小さな折れ線グラフです。スパークラインはおよそ 1 単語または 2 単語のサイズなので、1 つのセルに収まり、1 列の各行に対して繰り返します。スパークラインは、時系列的に株価や生産率を示すために頻繁に使用されます。スパークラインは、簡潔で注目に値するものです。

SAS Visual Analytics では、リスト表の列にスパークラインを追加できます。リスト表のデータソースには、スパークラインを追加する前に日付、日時または時間のデータアイテムが含まれている必要があります。

SAS Visual Analytics のスパークラインは最大 40 個のビンを保有できます。(ビンは、連続値をよりも少ない数の間隔にグループ化する方法です。)スパークラインデータがビン化される際、境界を使用してグループ化されます。境界は、分、時、日、月、四半期、または年です。たとえば、2 年分のデータの場合、データは月単位でグループ化され、スパークラインは 24 個のビン(つまり、月ごとに 1 つ)を保有します。1 か月(30 日)のデータの場合、スパークラインは 30 個のビンを保有します。2 か月のデータの場合、月の境界でデータはビン化されるため、スパークラインは 2 個のビンを保有します。SAS Visual Analytics ではビンの最大数よりもビンの境界を優先するため、リスト表に多くのデータがあっても、より詳細が提供されるわけではありません。

スパークラインのデータチップ値は、スパークラインの高い値、低い値、最後の値を示します。データチップ値は、データがビン化される境界とデータアイテムの集計から影響を受けます。たとえば、集計が合計であるとしします。データを日単位でビン化すると、指定された日の最小値と最大値がデータチップに表示されます。ただし、データが変更されて月単位でビン化される場合、その月のすべての日の合計に対する最小値と最大値がデータチップに表示されます。

スパークラインについて重要なポイントを次に示します。

- SAS Visual Analytics では、レポートデザイナーはスパークラインのビン化をコントロールできません。
- リスト表を Microsoft Excel にエクスポートする場合、スパークラインの下の塗りつぶしはサポートされません。

各スパークラインのデータは、小型の時系列プロットとして表示されます。次に、スパークラインと、時系列プロットを含む単純なリスト表を含むレポートの例を示します。これは、スパークラインに表示されるデータを表すためにフィルタリングされています。



この例では、時系列プロットとスパークラインの両方がメジャーに *Profit* を使用しています。時系列プロットは、スパークラインより詳細です。なぜなら、時系列プロットでは、データがより細かいレベルでグループ化されているからです。スパークラインは、時系列プロットと同じ全体の線を示しますが、詳細なものではありません。

スパークラインは、最も細かい日付、日時または時間レベルのトレンドを表示しません。かわりに、スパークラインは、リスト表で使用される時間単位に応じて傾向を要約します。たとえば、データに応じて、月、四半期または年のスパークラインを要約することができます。レポートデザイナーは、スパークラインの要約のレベルを変更することはできません。

スパークラインを追加するには、次の操作を行います。

- 1 更新するリスト表を選択します。
- 2 リスト表を右クリックし、**スパークラインの追加**を選択します。**スパークラインの追加**ウィンドウが表示されます。
- 3 列のラベルを入力します。
- 4 **時間軸**では、現在のデータソースの日付、日時または時間のデータアイテムを選択します。
- 5 **メジャー (線)**で、メジャーデータアイテムを選択します。
- 6 (オプション)**ベースラインの設定**チェックボックスをオンにします。値を入力し、塗りつぶしの種類を選択します。選択は**グラデーション**または**実線**です。

ベースラインの設定オプションは、ベースライン値が存在する Y 軸上のポイントにグラフを水平線で描きます。ベースラインの上部または下部のすべては、実線またはグラデーションのいずれかの色で塗りつぶされます。

- 7 **OK** をクリックします。スパークラインは、リスト表の最後の列に追加されます。スパークラインをリスト表の別の場所に移動することができます。

スパークラインを編集するには、リスト表のスパークライン列を右クリックし、**スパークラインの編集**を選択します。**スパークラインの編集**ウィンドウが表示されます。情報を更新し、**OK** をクリックして変更を保存します。

スパークラインを削除するには、リスト表のスパークライン列を右クリックし、**スパークラインの削除**を選択します。

リスト表にセルのビジュアルを追加

リスト表の列にセルのビジュアルを追加できます。(2020.1 リリース以前では、リスト表のセルのビジュアルはセルグラフと呼ばれていました。)リスト表のデータソースには、セルのビジュアルを追加する前に少なくとも 1 つのメジャーデータアイテムが含まれている必要があります。

セルのビジュアル(棒グラフまたはヒートマップのいずれか)は、単一のセルに収まり、列の各行に対して繰り返されます。棒グラフの場合、各棒のサイズはその列内の相対値になります。ヒートマップの場合、各セルは列の相対値に従って色付けされます。

セルのビジュアルを追加するには、次の操作を行います。

- 1 更新するリスト表を選択します。
- 2 メジャーデータアイテムを含む列または列のヘッダーを右クリックし、**セルのビジュアルの追加**を選択します。次に、**棒**または**ヒートマップ**を選択します。棒グラフまたはヒートマップが自動的に列に追加されます。
- 3 (オプション)**オプションペインのセルのビジュアル**のヘッダーの下にあるセルのビジュアルオプションを変更します。棒グラフの場合、棒の色と棒の配置を変更できます。ヒートマップの場合、使用される色のグラデーションを変更することができます。

ヒント セルのビジュアルで表される数値を確認することが難しい場合は、**省略表記の数値**オプションを選択して、大きなメジャー値で省略表記の数値を使用するようにします。

- 4 (オプション)セルのビジュアルの列を並べ替えます。詳細については、“[リスト表内のデータの並べ替え](#)”(SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

次に、セルのビジュアルを含む単純なリスト表を含むレポートの例を示します。*Expenses* 列には棒グラフが含まれ、*Profit* 列にはヒートマップが表示されます。*Expenses* 列には、**省略表記の数値**オプションが使用されています。リスト表は、ヒートマップのセルのビジュアルを持つ *Profit* 列で並べ替えられます。

ページ 1 : +

Product Line ▲	Revenue	Expenses	Profit ▼
Game	1,671,890,035	4.8億	1,194,080,107
Promotional	813,699,290	2.2億	589,876,916
Stuffed Animal	276,990,966	1.6億	117,442,285
Action Figure	262,318,761	2.8億	-19,071,493

ワードクラウドの操作

ワードクラウドについて

ワードクラウドは、カテゴリデータアイテムの各値を 1 つのテキスト文字列として分析します。クラウド内の各単語のサイズは、その単語の頻度またはメジャーの値のいずれかを示すことができます。各単語の色はメジャーの値を示すことができます。

ヒント カテゴリ内の個々の単語または語をすべて表示するワードクラウドを作成するには、テキストピックオブジェクトを作成し、ワードクラウド以外のすべてのビジュアル要素を非表示にします。詳細については、“[テキストピックの操作](#)” (138 ページ) を参照してください。

ワードクラウドのデータ役割

データ役割の設定についての詳細は、“[データ役割の割り当ての操作](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作) を参照してください。

ワードクラウドの基本的な役割は**単語**です。ワードクラウドで値が使用されるカテゴリを指定します。

基本的な役割に加えて、これらの役割を指定することができます。

サイズ

各単語のサイズを決めるメジャーを指定します。メジャーを指定しない場合、単語のサイズは各単語の頻度を示します。

色

各単語の色を決定するメジャーを指定します。

データチップ値

オブジェクトのデータチップに値が含まれるデータアイテムを指定します。データアイテムには、カテゴリ、メジャーまたはその両方を指定できます。メジャーの集計を変更すると、そのデータチップに変更が反映されます。詳細については、“[データチップ値データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

非表示

表示されていないデータクエリに含まれるカテゴリまたは日付データアイテムを指定します。データソースをマップしたり、カラーマップ表示ルールを追加したり、外部リンクを追加したりするときに、非表示のデータアイテムを使用できます。詳細については、“[非表示データ役割について](#)” (SAS Visual Analytics: レポートデータの操作)を参照してください。

ワードクラウドのオプション

全般オプションの詳細については、“[オプションペインの使用](#)” (24 ページ)を参照してください。

全般オプションに加えて、**オプションペイン**で次のオブジェクト固有オプションを指定できます。

配置

単語を**クラウド**として配置するのか、**行**に配置するのかを指定します。

フォントスケール

クラウド内の最大と最小の単語の間のフォントサイズの差の量を指定します。数値は、最大フォントサイズから最小フォントサイズまでのポイントの比率を指定します。

単語表示制限

ワードクラウドに表示される単語の最大数値を指定します。